

月報

2013年1月号

シンガポール日本商工会議所

MICA (P) NO. 048/04/2012

Japanese Chamber of Commerce & Industry, Singapore

Website: <http://www.jcci.org.sg>

JCCI
SINGAPORE





A Global Education Company

謹賀新年
2013年の英語初めはベルリッツで！

今なら、JCCI 会員の皆様とご家族の方限定で、**S\$100*** 相当のレベル
チェックテスト(英語、中国語)を無料でご提供いたします。
今年こそ、ベルリッツで語学力アップを実現させましょう！

*ご利用規約が適用されます

レベルチェックについての日本人スタッフへのお問い合わせ、ご予約は:

Tel: (65) 6733 7472

SMS: (65) 9777 3527

Email: rocky.koo@em.berlitz.com

その他お問い合わせは、以下の電子メールまでお願いいたします:

Email: rocky.koo@em.berlitz.com

Berlitz Language Centre

391B Orchard Road #16-01/02 Ngee Ann City Tower B Singapore 238874

Website: <http://www.berlitz.com.sg> (英語)

<http://www.singaweb.net/berlitz> (日本語)

月報

2013 Jan

1. 新年にあたって P2
 - 1.1 シンガポール日本商工会議所 会頭 NEC ASIA PACIFIC PTE LTD 日下 清文
 - 1.2 シンガポール日本人会 会長 MITSUI & CO. (ASIA PACIFIC) PTE LTD 伊藤 雅信
 - 1.3 駐シンガポール共和国日本国特命全権大使 EMBASSY OF JAPAN 鈴木 庸一

2. 新年随想 P7
 - 2.1 シンガポール日本商工会議所 副会頭 MARUBENI ASEAN PTE LTD 生野 裕
 - 2.2 シンガポール日本商工会議所 副会頭 SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION 秋山 光広
 - 2.3 シンガポール日本商工会議所 財務担当理事 MIZUHO CORPORATE BANK LTD. SINGAPORE BRANCH 若梅 俊也
 - 2.4 シンガポール日本商工会議所 運営担当理事 HITACHI ASIA LTD 豊島 幸雄
 - 2.5 シンガポール日本商工会議所 理事 ALL NIPPON AIRWAYS CO LTD 本田 実
 - 2.6 シンガポール日本商工会議所 理事 CANON SINGAPORE PTE LTD 小西 謙作
 - 2.7 シンガポール日本商工会議所 理事 FUJITSU ASIA PTE LTD 福永 一徳
 - 2.8 シンガポール日本商工会議所 理事 MITSUBISHI CORPORATION 安野 健二
 - 2.9 シンガポール日本商工会議所 理事 MITSUI FUDOSAN (ASIA)PTE LTD 上田 二郎
 - 2.10 シンガポール日本商工会議所 理事 SOMPO JAPAN INSURANCE (SINGAPORE)PTE LTD 大野 高規
 - 2.11 シンガポール日本商工会議所 理事 SONY ELECTRONICS ASIA PACIFIC PTE LTD 上村 成彦
 - 2.12 シンガポール日本商工会議所 理事 THE BANK OF TOKYO-MITSUBISHI UFJ LTD 西尾 幸恭
 - 2.13 シンガポール日本商工会議所 理事 TOSHIBA ASIA PACIFIC PTE LTD 大谷 文夫

3. 各産業界動向 P31
 - 3.1 第1工業部会 NIPPON STEEL SOUTHEAST ASIA PTE LTD 川口 敬一郎
 - 3.2 第2工業部会 MITSUBISHI CHEMICAL SINGAPORE PTE LTD 池川 喜洋
 - 3.3 第3工業部会 PANASONIC ASIA PACIFIC PTE LTD 野中 達行
 - 3.4 貿易部会 SOJITZ ASIA PTE LTD 小原 伸吾
 - 3.5 金融・保険部会 TOKIO MARINE INSURANCE SINGAPORE LTD 結城 実
 - 3.6 建設部会 OBAYASHI CORPORATION 長谷川 仁
 - 3.7 運輸・通信部会 KDDI SINGAPORE PTE LTD 太田 直彦
 - 3.8 観光・流通・サービス部会 AJINOMOTO (SINGAPORE)PTE LTD 林 裕之

4. 新春特集 座談会 P47

日本企業の最近の動向 ～チャイナプラスワン～

5. 広報委員会より P57
 - 5.1 広報委員長からのご挨拶 JAPAN AIRLINE CO LTD 河原畑 敏幸
 - 5.2 2012年シンガポール10大ニュース!
 - 5.3 JCCI広報委員会メンバーのご紹介
 - 5.4 SINGAPORE EVENTS SCHEDULE 2013

6. アジア大洋州主要国：2013年経済見通し P62

SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION

吉越 哲雄

7. 第23回 JCCI基金・募金贈呈式 P68
 - 7.1 シンガポール日本商工会議所基金[2012年度募金]への御協力御礼
 - 7.2 第23回 JCCI基金・募金贈呈式[写真]
 - 7.3 JCCI 基金提供先企業一覧

8. JCCI 2012年会員懇親パーティー P74
 - 8.1 JCCI 2012年会員懇親パーティー[写真]
 - 8.2 ラッキードロー商品・提供企業一覧

9. 日本シンガポール協会便り P79

SICCの動物たちは今も元気になっていますか?



新年の御挨拶

JCCI 会頭
NEC Asia Pacific Pte. Ltd.
CEO

日下 清文



JCCI会員の皆様、明けましておめでとうございます。

2012年は一昨年発生した東日本大地震やタイの洪水被害のような自然災害に悩まされることは少なかったですが、一方竹島・尖閣諸島で顕在化した領土問題や長期化する欧州の経済危機という人間が引き起こした問題に振り回された一年でありました。

つくづく、大きな問題の発生しない年はないのだということを再認識した次第であり、問題の発生を「想定し」常に備えを欠かさぬように対処することが最善の予防策と言わざるを得ません。

特に中国をめぐる問題の根はかなり深く、短期的な解決は難しいと考えなければなりません。むしろこれから広範囲に多くの影響が顕在化するとすべきかもしれません。多くの企業は中国で予想される影響をアジア地域でカバーしようとするでしょうし、既にその動きが見られ始めています。中国との直取引の難しさをアジア地域を経由させることで最少化する対策もそれなりに有効と思われる。

当商工会議所の加入会員はこの一年順調に増加しておりますが、ベトナム・タイ・フィリピンなどの周辺各国の日本商工会議所への加入も一緒に増加しています。これは多くの日本企業、とりわけ製造業のみならずサービス産業までもがこの地域に本格的に進出を開始していることの証左と言えます。単にこの地域を製造拠点として位置付けるのではなく大きなマーケットとして捉えてその成

長を取り込もうという大きな流れが顕著になっています。当商工会議所もEDBと連携して進出する企業の支援を強化しておりますが、今年もその動きを一層加速する必要があります。

従来に増して会員企業のご支援を行うと同時に、他の団体とも連携を推進しつつ、シンガポール政府・関係機関に対する要望・提言活動を活発化する所存です。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

昨年はロンドンオリンピックに沸いた年でした。私も久しぶりに生中継でその競技を観るチャンスがあり大変楽しませてもらいました。ところがその数週間後に開かれたパラリンピックの方は報道も少なく、あまり多くの人の関心を引くことが無かったことは個人的には残念でした。

あらためて気付いたのですが、パラリンピックの選手たちには「詩人」が多く、彼らの言葉には胸を突き動かされます。その中の幾つかを引用させていただいて今年の糧にしてみたいと思います。

最初に義足の陸上選手であるオスカー・ピストリウスの言葉。「敗者とは一番最後にゴールする人のことではなく最初から挑戦することそのものを諦めてしまう人のことだ」

車椅子陸上選手 伊藤智也さんの言葉。

「救いの手は誰にでも伸ばされる。その救いの手を逃すか、つかみとって前向きに生きるのかの違いだけであって、みんな平等なんだよ。」

車椅子長距離陸上選手 ジーン・ドリスコルの言葉。

「成功者は成功するように運命づけられた人だ
という人がいます。でも、それは違う。チャンピオンになる人は、十回馬から落ちても、こりずに十回
馬に登る人だ。」

皆様にとって本年がいい年でありますように。



新年のご挨拶

シンガポール日本人会 会長
Mitsui & Co. (Asia Pacific) Pte. Ltd
Singapore Branch General Manager
伊藤 雅信



新年 あけましておめでとうございます。

2012年は欧州の信用不安が拡大、中国経済の減速により日本も大きな影響を受け、業績見通しを多くの企業が下方修正せざるを得ませんでした。その中でアジアは成長を続け、そこで仕事をする我々は幸福な環境にあったのだと思います。

2012年は政治の季節でもあり、多くの国での選挙、政権交代があり、日本にとっては中国との尖閣列島をめぐる軋轢に大きな衝撃と苦慮を抱えた年であったと思います。一方ASEAN諸国は日本に対して変わらぬ友好的な関係を維持し、我々にとってASEANが存在感を増した年であったと感じています。

日本人が夫々の国でGood Citizenとして生活し、その国の発展に大きく寄与すること、それにより更に日本がその国で大切にされ、パートナーとして一緒に活躍出来ること、その様な成長のスパイラルを強く形成して行きたいものです。一昔前は日本がアジアの企業に一方的に教える立場だった時期もあったかと思いますが、今はアジアの企業で日本以上に世界で存在感のある会社は幾らでもあり、政治面の事を考えるとシンガポールが羨ましく思えるのは私だけではないと思います。その中で、日本の「信頼」、「品質」、「誠実」さなどのソフトパワーがより評価されているように思います。2013年は日本が世界でその存在感を増し、世界中から必要とされる強固な立場を築き上げる年になってもらいたいと切に願います。日本が関

与したものは「清く」、「美しい」、「人々が幸福になる」、そんな評価が世界中で広まることを夢見ています。

日本人会は日本人の方々の生活を支えると同時にシンガポールとの人的交流、特に文化を通じた交流を担っています。お互いの文化に深い理解と尊敬があつてこそ、強い友好関係が形成されるもので、益々責任が重いと実感しています。日本人会会長をしておりますと、今まで接する機会が無かった日本文化に新たに接し、日本文化の奥深さを痛感することが多々ありました。本当に日本人で良かったと思う瞬間であります。

最後に、今年の各企業のご発展、会員の皆様とご家族のご多幸をお祈りし、新年のご挨拶いたします。

新年の御挨拶

駐シンガポール共和国日本国特命全権大使
The Ambassador Of Japan To Republic Of Singapore
鈴木 庸一



謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

さて、一昨年（2011年）の東日本大震災を受けて、昨年の日本は内外の様々な大きな課題に直面した一年でした。そして、年末総選挙、新政権発足があり、今年（2012年）はこれらの課題に対処し、同時にアジアの主要国の一つとして、自らの足場を固める上で重要な一年です。

まずは、政府として震災復興を進める中で、シンガポールをはじめ国際社会に向けて力強く復興していることをアピールできるようになればと願っております。昨年（2011年）は当地におきましても、日本人会、日本商工会議所、大使館の共催で、昨年3月に震災一周年追悼式典を開催し、復興に全力で取り組む日本の姿をシンガポールの要路の方々に伝えることができました。また、JNTOの協力を得て、シンガポール大学東アジア研究所に主催を依頼した10月の福島の放射線対策ワークショップやJETROや政府関係機関の共済で12月に開催された復興支援・対日投資フォーラムでは、放射線対策の現状、被災地の復興状況、日本における新たな投資機会やビジネスチャンス（2011年）をシンガポールに紹介してまいりました。さらに日本食フェアなど様々な機会をとらえ、質の高い安全な日本の食材をアピールする関係者の皆様の御努力を支援すべく尽力致しました。国際社会からの温かい支援に感謝するとともに、震災後の困難を創意と工夫で克服し、アジアの各国に新たな発展モデルを示す一年にできることを切に願っています。

更には、震災復興のみならず、国際的な防災努力、近年激しくなる各地の自然災害の重要な要因と目される地球温暖化。これらの問題への対応に関しても、我が国はアジアの先進国として指導的役割を果たす気概と余力を備える一年としなくてはなりません。

世界経済に目を転じれば、米国、中国、EUとどこを取っても、経済が政権の最優先課題です。我が日本も、例外ではありません。経済の活性化は、国民の大きな関心事です。そしてそれは同時に、日本の国際社会への大きな貢献にもなります。国際経済の発展のため不可欠な開放された、自由で安定した国際環境の醸成に尽力することも日本に求められる重要な責務です。米国のオバマ政権二期目の動向、中国の新指導部の登場、韓国の朴槿恵新政権の成立など、大きな変化の中で新たな年を迎えるアジアにおいて、地域情勢の安定化、経済連携の深化などを図ることでその様な責務を果たす必要があります。

変動する世界の中にあって、シンガポールはじめASEANは、強い友好関係で結ばれた頼れるパートナーです。そのような関係を反映して、シンガポールの在留邦人の数はこの3年増加傾向にあり、昨年10月1日時点の在留邦人数は27,525人（前年比で1,493人の増加）となっております。今年（2012年）は日本とASEANの友好関係樹立40周年にあたります。年末には今後の日本ASEAN関係を議論する首脳会議が日本で開かれます。シン

ガポールはじめASEANの方々の日本への友情を当然視することなく、感謝の気持ちを忘れずにさらに良い関係を発展させるべく、皆さまのご支援ができるよう館員一同尽力する所存です。

こちらでも蛇は商売繁盛のシンボルと云われています。本年が皆様にとり、公私とも良い年になりますよう、改めて皆様のご健康とご多祥を祈念するとともに、被災地の一日も早い復興と日本のさらなる発展を心から願い、新年のご挨拶と致します。

グローバル人材一考

JCCI副会頭

Marubeni Corporation, Executive Officer, Regional CEO for ASEAN
Marubeni ASEAN Pte. Ltd., Managing Director

生野 裕



新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

ここ数年、特に日本の新聞や経済誌で一日として目にしないことはない言葉として、『グローバル人材』の言葉があります。昨年12月に日本では就職活動が解禁となり、日本の学生の皆さんは就活真最中かと思いますが、ここ数年、グローバル人材の育成が声高に叫ばれています。ちなみに、経団連がグローバル人材の要件として挙げているのは、①社会人としての基礎的能力、②既成概念に捉われずチャレンジ精神を持ち続ける姿勢、③外国語によるコミュニケーション能力、④海外との文化・価値観の差異・関心、の4つです。①の社会人の基礎能力については、経済産業省が3つの能力/12の能力要素として定義づけています。ご紹介しますと、①前に踏み出す力(主体性・働きかけ力・実行力)、②考え抜く力(課題発見力・計画力・創造力)、③チームで働く力(発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力)となります。

皆さんこれを見てどう思われますか。う〜ん、確かにいずれの要件もおっしゃる通りではあります。世間からは商社はグローバル人材が豊富と思われるかも知れませんが、これだけの要件を揃えた人材は、果たしてどれだけいるのかなと真剣に考えてしまいました。かように、我々が就活した頃と比べると、若者に求められるハードルは非常に高くなってきており、大変な時代になってきたな

というのが正直な印象です。

よく今の日本の若者は内向き志向だと言われていますが、昔と違うのは、今や日本は世界の中で最も住みやすい国の一つとなっていることです。海外にいと、日本の良いところがよく分ります。清潔な街並み、交通機関の効率の良さ、悪くなったと言われるものの諸外国に比べればまだまだ格段に良い治安、ホスピタリティーにあふれたきめ細かいサービス、四季のある美しい自然、歴史に裏打ちされた伝統及び文化、そして何と云っても、日本料理のみならず、あらゆる料理が集結し、かつレベルの高い世界の食文化！日本人の誰もが気軽に海外旅行に出かける時代であり、一昔前であれば、仕事でもなければ海外に行くことが出来なかった頃とは全く状況が異なっています。もちろん、劣悪な通勤事情、窮屈な住宅環境など改善すべき点も残っていますが、若者の内向き志向は、それだけ日本が成熟して住み良い国になってきたことの裏返しではないかと思ひます。

さて、翻ってシンガポールはどうか。今や一人当たりGDPでは日本を追い抜き、こちらも世界の住み良い都市ランキングでは、毎年必ず上位を占めています。では日本よりグローバル化が進んでいると思われる当地において、シンガポールの若者は外向き志向かと言われると、必ずしもそうではないようです。私の印象では、多くのシンガポーリアンは、日本と同じく住み良い当地を離れ、海外勤務をするのを嫌がる傾向が強いと感じています。では、残念ながら活力を失いつつある日本と、益々活気に沸くシンガポールの違いは一

体どこから来るのでしょうか。とりわけヒトという面に絞って考えてみると、外国人受入れの差にあるのではないかと考えています。人口の1/3を外国人が占め、内なる国際化を自然体で進めてきたシンガポールと、まだまだ外国人受け入れに慎重な日本。外に出るグローバル化もさることながら、内に受け入れるグローバル化の方が、実はグローバル人材育成の近道なのかも知れないな、などと考えたりしています。さて、日本のグローバル人材育成のために、皆様は何をすればよいと思われませんか？

本年も皆様にとって、良い一年となることを祈念しております。

2013年の新年にあたって

JCCI副会頭
Sumitomo Chemical Singapore
Managing Director / Head, Corporate Branch (SEA/Pacific)

逆井 洋紀



会員の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

一昨年は、東北大震災やタイの大洪水はじめ自然災害が世界を襲いましたが、昨年も、日本国内を含め、幾多の自然災害があり、加えて、政治・経済の面でも、大激動の年となりました。

私どもが属する化学業界も、総じて、世界経済が全体として減速感が強まってきているなか、石油化学製品の需要の低迷が続き、厳しい局面が続いています。

このように、必ずしも明るい展望が見いだせない中で、2013年の年明けを迎えることとなりました。昨年後半、日本を含め、世界各国で誕生した新政権が、国家間の緊張緩和をどのように進めるのか、経済をどのように立て直していくのか、その手腕に期待したいところです。

目をシンガポール周辺の東南アジア地域に転じてみても、昨年は、各国に様々な変化がありました。

中国は、人件費等コストの上昇が始まっており、そこに経済の失速と日中間の緊張の高まりも加わって、東南アジアの諸国は、日本企業に対し、単なるチャイナプラスワン以上の魅力を放ち始めています。

フィリピンが長年の停滞からたちあがり始め、一躍脚光を浴びるようになりました。また、インドネシアもインフラ整備の遅れやローン問題等はありませんが、成長は底堅いものがあり、ミャンマーも、政

治改革路線が継続しており、日系企業の調査活動も活発化し、拠点を新たに構える動きも出てきているようです。タイは一昨年の大洪水後からの復興が進み、経済は自動車産業を中心に高成長を続けています。洪水再発のリスクを勘案してもなおタイに立地する魅力が再認識されたようです。その他の国も含め、東南アジアは、世界の中でも、経済発展を続ける貴重な地域といえます。

翻ってシンガポールをみてみますと、こと生産拠点という点に関しては、シンガポールの優位性が弱まりつつあるという実感を持たざるを得なくなっています。エネルギーコストや人件費の上昇でコスト競争力の低下はいなめず、製造業に身を置く者としては、コスト増の抑制に継続して努めることはもちろん、物流、市場とのマッチング、Jurong島の集積効果といったシンガポールの強みをフルに活用し、市場ニーズにマッチした高付加価値製品の生産にシフトしていく必要性を強く認識させられています。

一方、研究開発、人材開発、さらには、地域ハブの拠点としてのシンガポールの魅力は、維持されているようです。まぎれもない法治社会であり、効率的でスピーディーな行政、社会・経済・人材の様々な面でインフラが整備されている点で、高コストのハンデを補うに余りあるものがあると感じているのは私のみではないと思います。昨年末には、EUとの間で、FTA交渉に合意をみたとのニュースも入りました。この国は、前に進む歩みを決して止めないようです。

Forward thru headwind 昨年年初に掲げた

わが社のスローガンです。今年もなかなか厳しい情勢が続きますが、シンガポールに立地することを奇俣として、様々な変化を的確にとらえ、自らを変革することで、道を切り拓いていく、その強い意志をもって、リーダーシップを発揮し、会社運営を進めていきたいと、念じているところであります。

最後に、2013年が会員の皆さまお一人おひとりにとりまして、良き年となりますよう、お祈り申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

シンガポールで新年を迎えて思うこと

JCCI副会頭
SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION
General Manager Singapore Branch

秋山 光広



新年明けましておめでとうございます。

私が初めてシンガポールに接したのは1970年大阪万博でした。アメリカ館やソ連館は人気が高く5時間ぐらいは並ばなければ入館できず、空いていてすぐに入れたのがシンガポール館でした。南国風の木造の小さなパビリオンで、館内には展示物らしいものは無く紹介フィルムや写真が飾られているだけでした。外に出ると椰子の木やランなど南洋植物が生い茂るガーデンがあり子供ながらに探検気分を味わえたのを覚えています。南洋のジャングルで綺麗な花がそこら中に咲き乱れ蛇やトカゲがぞろぞろいて見たことも無い大型の昆虫が飛び回っているというのがこの国に対して最初に抱いたイメージでした。

大阪万博から42年後、昨年4月に生まれて初めてシンガポールの地を踏みました。むっとする暑さや湿気はイメージのままでしたが、街の景観は大違い。近代的で美しいデザインの摩天楼が立ち並び、清潔で機能的に整備された街並みは近未来都市を思わせる場所でした。そこには人とお金と情報が集まり活気に満ち溢れ、港にはコンテナが所狭しと山積みになれ、周辺の海では大型船が混雑しながら分刻みで航行しています。日本を含め世界を代表する企業がオフィスを構え、東南アジア全体のオペレーションをコントロールし、まさしくアジア経済の中心地となっております。この国に暮らしてみると、その豊かさ、利便性、安全性、透明性、優秀な国民性などシンガポールがアジアの優等生であることが分かります。これは

リー・クワン・ユーという類稀な強烈なリーダーの下、シンガポール人の弛まぬ努力の賜物でありましょう。同氏は自伝の中でこの国を発展させるためにお手本とした国のひとつが日本であることを記しています。

その日本は明治維新以降、破竹の勢いで欧米の列強に追いつき、太平洋戦争で大敗を喫した後は廃墟から40年余りで世界第二位の経済大国となりました。1990年代以降バブルが崩壊してそのあと処理に追われ経済成長の勢いを失い、成熟国の仲間入りをしましたが、それでも日本製品や日本の高い技術力に対する評価は衰えることなく、世界で高性能、高品質の代名詞としての地位を固めてきました。更に日本食、若者ファッション、アニメ、ゲームソフト、カラオケなど所謂日本のソフト文化に対する理解が進み、このソフトパワーは自動車や電気製品に劣らず世界を席卷しております。

私はシンガポールに赴任する前、2005年から香港に4年、英国に3年勤務しておりました。その間中国を含むアジア各国、欧州各国、ロシア、中東、アフリカを訪れて感じたことのひとつが、日本人が思っている以上に世界の人々は日本が好きで、日本に敬意を抱き、憧れを持っているということです。これまで多くの外国人と接してきましたが日本へ行ったことのある外国人から日本が嫌いになったと聞いたことがありません。ゴミの少ない清潔な街並、美しい自然、健康的で美味しい日本料理、分単位で正確に運営されている公共交通機関、何でも揃う便利なコンビニ、質問に対して優しく笑顔で応えてくれる、誠実で勤勉な国民性などが好印象に繋がっているようです。シンガポ

ールの友人達からのコメントも例外ではありません。勿論、外国に暮らす日本人や世界各地におけるJCCIの積極的な活動が好感度上昇の一因となっていることも事実です。日本の代名詞といえはフジヤマとゲイシャというかつての時代と比べれば隔世の感があります。

最近は少子高齢化、自然災害、政治不信、財政悪化、デフレ、円高、領土問題などなど何かと頭を悩ませる話題の多い日本ですが、新政権と新首相にはしっかりと舵取りをお願いしたいところです。シンガポールで暮らす私自身はまずはこの国を含めアジアのことをしっかり勉強してできるだけ見聞を広め、同時に外国人の友人やJCCIの皆様と共に日本の良さを再認識し日本人としての誇りと自信を持って毎日を送りたいと思っております。

最後に本年が皆様とご家族にとって健やかな年となり、日本に元気が戻ってくることを祈りつつ新年のご挨拶とさせていただきます。

初 夢

JCCI財務担当理事
Mizuho Corporate Bank, Ltd.
General Manager

若梅 俊也



会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年は一昨年に生じた様々な重大事の影響が大きく尾を引いた1年でした。東日本大震災と福島原発事故の影響は多方面に及び、今なお多くの方が必死にそれぞれの課題に立ち向かっています。欧州財政問題も抜本的な解決の方向性が見出せないまま現在に至っています。さらに昨年は日本を取り巻く領土領海問題から生じる政治経済への悪影響が顕著であり、また多くの主要国での新たなリーダーの出現も特記される事項です。日本の政治状況もダイナミックな動きとなってきた、と言えれば良いのですが(本稿は総選挙前に執筆しています)。これまでの2年間で日本も世界も激動の年月を経てきておりますが、あまり明るい雰囲気にはなれないのは悲観的すぎるでしょうか。

今年は一体どんな年になるのでしょうか。世界各国各地域がお互いに切磋琢磨しながらもよく連携し、人々の格差是正と世界平和への道筋がより明確に示されるようになり、活発に人と物とお金が往来し、恒久的なグローバル経済の活性化が実現。日本も新しい政権が適正なリーダーシップを大いに発揮し、国民にしっかりと理解されるような説明責任を果たした上で世界経済のリーダーとしての地位を再度確立するための施策を的確に遂行。翻って国内の少子高齢化社会でも将来を安心して暮らせると信じるに足る明確なビジョンを打ち

立てていく。しかるに私たち日本企業もフェアな競争環境の中で日本の強みである高品質な製品やサービスの適正価格での提供で地域経済に貢献するとともに、ジャパンのステイタスを益々高めることでグローバル経済をリードする存在となる。

こんな初夢が正夢となればどんなに素晴らしいことでしょう。しかし改めて夢を持って自分なりに出来ることを精一杯やるのが人生のモチベーションを維持する上で重要なことだと思います。日々の活動が、必ず地域経済や人々の為になっているのだという信念を忘れずに一日一日をしっかりと噛み締めながら過ごしていくことは、特に季節感の希薄な南国シンガポールの地においては重要な気がします。

そうはいつでも今年も昨年来の課題が増幅し、新たな悪影響を各所に与えるかもしれません。また想定外と思われるような天変地異や地域紛争が勃発するかもしれません。しかし、特に日本や日本企業にとってのアジアの重要性は大きく変わることはないと思います。アジア各国の成長は鈍化することがあっても成長を続けていくでしょう。その中心地で働いている我々は幸せものです。この地で頑張り、明るい将来を夢見て少しでもたくさんの人が笑顔でいられるように、と望んでいます。

本年が皆様にとりまして明るい素晴らしい年となりますようにお祈り申し上げます。

船に想う

JCCI運営担当理事
Hitachi Asia Ltd
Managing Director

豊島 幸雄



明けましておめでとうございます。

今から34年前の1978年に私は”The Ship for Southeast Asian Youths”(日本名:「東南アジア青年の船」)という日本政府主催の国際交流プログラムに参加していた。アセアン5カ国(当時)及び日本から各々35名の若者たちが「にっぽん丸」(現在は「ふじ丸」)という1万トンの船に乗り、各国を訪問しながら、2か月間寝食を共にするものだった。私が参加した年は5年目を迎えていたが、このプログラムが誕生した背景が興味深かった。時の総理大臣田中角栄氏が確か1972年に東南アジアを歴訪、ところが各地で相当な規模の反日暴動に出くわすこととなった。当時は日本企業の東南アジア進出が目白押しで、兎角日本のエコノミックアニマル振りに地元大学生を中心に反発が起きたものだった。田中元首相もこれを真摯に受け止め、将来を担う若者同士に交流の場を提供し、相互理解を増幅させねばとの思いから、前述プログラムが2年後の1974年から始まった。

あれから34年経ち、その船と再びこのシンガポールの港で再会することになるとは考えもしなかったことだった。丁度当地に入港した11月24日の夜に歴代のシンガポール参加青年が船上にてリユニオンパーティーを開催するとの話が、私と同じ年に参加したシンガポールの仲間からの連絡を受けて知った。この辺りの完璧なネットワークがシンガポールらしい。何でもこの船上リユニオンは

毎年人気沸騰で、今年は300名に限定、更に海外からの既参加青年は私のように当地で働くものや態々この催しのためだけに当地に足を運んだ人が50名ほどにも上った。この夜は今年の参加青年は丁度ホームステイプログラムの日とあって船上には不在、我々OBとOG、更には各国を代表するナショナルリーダー、内閣府から派遣されている管理官他で占有されていた。当然シンガポールの既参加青年中心に、各年代毎にテーブルを囲み、久々の再会に狂喜する者、当時船で流行っていた歌、ダンスを披露する者、写真を撮りまくる者、……かなり古い年代に入る我々1978年組はこの熱気に圧倒され、当時とは打って変わって静かに語らっていた。当時と今回とでの相違点もいくつか。船が倍以上の規模(2.2万トン)で当然設備等もワンランク上(7階層のエレベーターもあり)、参加国が当然ながら日本の他10カ国、日本を含むナショナルリーダーの半数を女性が占め、船員の過半数をフィリピン人が占め、日本の色彩が薄くなってよかったように思えた。

もはやアセアンも大きな成長を遂げ、あの反日暴動など全く想像できないような現代でありながら、まだこの船はあったのかと単純に驚くと共に、やはり相互理解というのはこうした利害のない若者が理屈なくお互いを知り、学び、尊重しあい、そして仲良くなるプロセスを経るとかなり増進されるのだろうと思う。24時間、60日間同じキャビン、同じ船の中で逃げる場所もなく、キリスト教徒、仏教徒、イスラム教徒、ヒンズー教徒等が同じ空気を吸いながら、政治経済の討論や文化交流も含め、異なる文化や意見をも受け入れることにこそ、

このプログラムの最大価値があり、今日の少し歪みが出始めたかもしれない世界に警鐘を鳴らしてくれているかのようでもあった。

私自身2か月前に単身赴任したところだったが、偶々同年に乗船したシンガポール既参加青年(もはや青年とは言い難いが)が赴任後間もなく連絡してきてくれて、シンガポールの同窓会にも隔月で召集がかかり、極めて忌憚のない話をしてくれる。例えば、政治の話、宗教の話、民族の話、日本の将来のこと、当社のクリスマスライトアップの出来不出来についても、サラリと言われてしまう。こうした苦言も含めた本音と現実立ちむかせてくれることは、私の大きな財産だと思っている。こんな仲間がアセアン5カ国にいると思うと何とも心強いのである。先日この体験談を当社の仲間に話したら、是非参加したいと言うので、一応年齢制限はあるとコメントしておいた。

最後に2013年が皆様方にとってより良い年になりますことをお祈り申し上げます。本年も宜しくお願い致します。

交流促進で日本を元気に

JCCI理事
ALL NIPPON AIRWAYS
GENERAL MANAGER, SINGAPORE OFFICE

本田 実



新年明けましておめでとうございます。

昨年の今頃は、日本人の誰もが同じ思いで“平穏な一年”になることを祈ったことが思い起こされます。日本では昨年も局地的な自然災害が頻発し、また大地震や大津波の発生する確率が高まっているなどの調査結果が公表され、それらはシンガポールのマスコミでも取り上げられました。原発問題と相俟って、日本は災害の多い国との印象をシンガポール国民に根付かせた感があります。他方、消費税率のアップが二転三転の上合意、ついには衆議院の解散・総選挙、また外交では尖閣・竹島問題の再燃、経済では円高の継続など、私たちの願ひとは裏腹に平穏とは言いがたい一年でした。(私にとってもシンガポールへ転勤というエポックな年でしたが…)その一方で、ロンドン・オリンピックでの日本人選手の活躍や山中伸弥教授のノーベル賞受賞など、私たちに日本人の誇りを思い起こさせてくれる出来事もありました。

さて、昨年は、日中国交回復40周年という節目の年にあたり、年間を通して数々の交流事業が計画されていましたが、前述した尖閣問題が9月に発生して以降、大半のイベントが沙汰済みとなり関係者に失望を与えました。(もちろん、中国国内での暴動により直接の被害を受けた本邦企業も多く、より深刻な影響があったことは言うまでもありません。)

それはさておき、ここでは、「交流」ということに

触れたいと思います。「交流」には、特に「ちがった系統のものが互いに入り交じること」、「異なった地域・組織・系統の人々が行き来する」という意味があります。ここで日本とシンガポール間の人の行き来(交流)の状況を見てみる(JNTO, STB資料による)と、シンガポールから日本への訪日シンガポール人数は、震災前の2010年ベースで約18万人。片や、日本からシンガポールへの訪星日本人数は約65万人(2011年)で、訪日シンガポール人数の約3.6倍となっています。ただ、両国の人口を加味して(それぞれの人数を人口で割って)比較すると、逆に訪日シンガポール人数は、訪星日本人数の約5.5倍となり、いかにシンガポール人にとって日本が魅力的なディステーションであるかが分かります。

「交流」の観点から言えば、もっと多くの日本人がシンガポールを訪れることが期待されますが、昨今、Marina Bay Sands効果で訪星日本人数は増えており、特にリピート客が増えているのが特徴のようです。その一方で、訪日シンガポール人数(2012年1月～10月累計)は、震災前の同期間(2010年1月～10月)と比べると▲17%で、他の東南アジア諸国における訪日人数が既に震災前のそれを大きく上回っているのとは対照的です。

私も、観光・流通・サービス部会の一員として、「NATAS Holidays 2012」や「Oishii JAPAN」などのイベント視察に同行させて頂きました。特に8月に開催されたNATASフェアには3日間で約6万5千人強が来場し、その場での旅行商品の売り上げは約64億円にも上ったそうです。ただ国別販売先では日本は、欧州・中国・韓国・台湾に次

いで5位(2010年は3位)で、やはり原発問題が尾を引いているのは否めませんでした。他にも、円高ユーロ安や韓流ブーム、LCCの就航により日本以外のディスティネーションへの旅行が増えたこと、訪星需要が旺盛でシンガポール発の座席確保が困難であることなども、その理由として挙げられています。

ただ、いずれにしても、シンガポールからの訪日旅客を回復させるためには、弛まずシンガポール人に正しい日本の情報を伝えること、日本の魅力を謳って行くことが必要です。その点に関しては、JCCI会員企業の皆様のお力をお借りして、日頃のビジネスの中で、食や観光だけではなく、文化、技術、ファッション、ホスピタリティーなど日本独自の魅力をシンガポール人の方々に伝えて頂きたいと思います。今年には日本・ASEAN交流40周年にあたります。シンガポールを含めASEAN諸国と日本との「交流」が一層進むことを期待しています。

新年雑感

JCCI理事
Canon Singapore Pte Ltd
President & CEO

小西 謙作



JCCI会員の皆様、新年おめでとうございます。とは言うものの旧年来の欧州危機、財政の崖、日中のわだかまり、日本の政治状況等の問題は、深刻化こそすれなかなか解決の目処はつかないような状況です。そのような中でシンガポールを中心とする東南アジア、南アジアに対する注目と期待がますます高まってくるような気がしています。

シンガポールには2012年の1月以来駐在していますが、2001年末から2004年中旬にも滞在していた経験があり、今回は2度目の赴任です。その間、空港の拡充に始まり、リバーサイドの再開発、R&Dや大学研究室の誘致、そして10年前まではタブーであったカジノの開設を決めるや否や、マリーナ・ベイ、セントーサの開発と大きく変化してきました。2004年にシンガポールを離れたあと、香港、デリーからこのような変化を見てきたわけですが、住んでみて改めてこの間の変化を実感しています。当然ですがこのような変化は良いことばかりではなく副作用も生み出しています。卑近なことですが、再赴任にあたり、前に住んでいたフラットを希望していたのですが、レントは2.5倍に高騰しておりとても手が出ませんでした。日本食はおいしいものの、バンコクはともかく香港と比べても5割増し、というのが実感です。

昨今の問題は複雑で、Yes/No や白黒だけではとても解決できません。ある大きな方向を決めたとしても、それに付随して起こる不具合をなるべく小さく抑える、あるいはある部分での妥協を図

る等の総合的で柔軟な対応が必要です。最近のいろいろな議論を見ていると、まず何を目標とするのか、どのような方向に行きたいのか、ということがなかなか見えてきません。また、小さな問題も大きな問題も同じ程度に扱ってしまい何が全体にとって本当に大事なのかが見えなくなっているような気がします。日本に比べ、シンガポールはあらゆる点でコンパクトで単純に比べることはできませんが、彼らの意思決定の早さ、実行する実力、不都合に対する柔軟な対応を見ていると日本が学ぶこともたくさんあると思います。

先にも書きましたが、世界の状況が全体として悪化してきている中、シンガポールを中心とする地域に対する期待と要求はますます高まっています。プレッシャーやストレスも大きくなりますが、日本食もゴルフもあります。今年も一年皆様と一緒に仕事、遊びに頑張ることができればと考えています。本年も宜しくお願いいたします。

新年にあたって

JCCI理事
Fujitsu Asia Pte Ltd
Regional Senior Vice President, JOC Business

福永 一徳



皆様、新年明けましておめでとうございます。

シンガポール商工会議所の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2012年4月末、初めての海外赴任先であるシンガポールに着任し、早8ヶ月が経過致しました。

長年、日本で国内営業としてITビジネスに携わってまいりましたが、初の海外勤務を拝命し、好奇心と戸惑いの中、アセアン各国の現場を回って一番感じたことは、マーケットの活力とそのマーケットで活躍されておられる各日系企業様の奮闘ぶりでした。アセアンと一言で申しましても、成熟国と言われているシンガポールから、新興国と言われているベトナム、インドネシア、また、最後のフロンティアと言われているミャンマー、ラオスまで、実にバラエティに富んだ国々で構成されております。

国毎に言語、商慣習、法律も違いますし、当然、宗教の違いもあります。各日系企業様も、かつての生産拠点としての位置づけから、近年はアセアンを巨大なマーケットとして捉え、ビジネスの効率化や見える化、拠点拡大等への新たな投資をもとにマーケット拡大に努めておられます。当然、競争も激しく、特に韓国、中国企業の台頭は目を見張るものがあり、各企業様ともご苦労が絶えないことと拝察しております。蛇足となりますが、先日、今話題のミャンマー(ヤンゴン)に行きましたが、空港で一番初めに目に付いたのがサムスの看板の多さでした。魅力あふれる市場といわれながらも、インフラや法制度未整備等、

課題も多い国ですが、リスクを恐れず振興国マーケット開拓に突き進む韓国企業の逞しさをあらためて認識させられました。

2013年度はアセアン回帰の年と言われております。中国での政治リスクや人件費高騰による投資環境の変化とは裏腹に、アセアンの消費市場としての魅力の高まりや新興国の台頭等、生産拠点、消費拠点両面でのアセアンの成長は今後も確実であり、アメリカの2倍弱、EUの1.2倍といわれる総人口6億人の一大自由貿易圏が形成されるのもそう遠くではないと考えております。日本はアジアの一員であり、文化、倫理感、また地政学的にも欧米先進諸国に比べ、多くのアドバンテージを有しております。グローバル視点での戦略と考察を前提としつつも、「課題大国 日本」らしさを前面に出し、日本の価値観を内外にアピールすることで日本のアセアンにおける存在感が更に高まることを期待してやみません。

小職も、この発展著しいアセアンの地で皆様とともにビジネスに携われることに感謝しつつ、本年が会員の皆様にとって、よりすばらしい年となりますことを心より祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

年初にあたっての随想 —「アジアの時代」を実感しながら—

JCCI理事

Mitsubishi Corporation

Senior Vice President, General Manager Singapore Branch

安野 健二



シンガポールに赴任して3年近くが経過した。この間、シンガポールを含む東南アジア各国の活況の中で日々のビジネスを営み、また多くの元気な現地の方々と交友を結ぶにつれ、思うところが多くあった。新年にあたり、日々感じている事のあれこれを随想的に綴ってみたい。

何よりもシンガポールと周辺地域の変化の早さには改めて驚かされてきた。この国で毎年の様に開催される大型イベントや、新たに開業するアトラクションについては、敢えて書くまでもないが、政府や企業の圧倒的に速い意思決定と行動には、感嘆するとともに、日本としても見習うべきところが多いと感じている。この間、日本企業の中には思いきったアジア・シフト、当地への機能移転等を行う動きも出ているものの、相対的にはまだまだ世界、なかんずくアジアの動きについて行けていない面も否定出来ない。日本企業のライバルとなる国や地域の企業も続々とこの市場に経営資源を集中しつつあり、いよいよアジアが主戦場になりつつあると改めて感じている。

シンガポールにいと、域内の動きがよく見えてくる。例えばにわかには世界の耳目を集めているチャイナについては、私も赴任以後、大きなポテンシャルを感じて、様々な予備調査を行っていた。しかし、この1年の動きの急な事には驚きを通り越したのを感じる。日本に座しては、とてもこうした予兆やダイナミズムを感じられないと思う。また、例えばカンボジア、ラオス、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ等々の新興国についても、今後大きく状況が変

わっていく事が予想され、現地及び当地からの肌理細かい観察や対応が不可欠だろう。

日本は2011年春の大震災から漸く立ち直り始めており、企業活動も、特に私たちの居場所であるアジアにおいてますます活発になっている。一方、世界に目を転じると欧州は未だ明るい展望が開けず、中国・インドと言った巨大な新興国にも世界経済を牽引する程の勢いは見られなくなっている。総じて世界経済の先行きには不透明感が漂い、何かどんよりしたムードが世を覆っている感じを受ける。

こんな時だからこそ、これから世界経済における比重を高めていくことが確実なアジアとの連携は、いよいよ日本企業にとっての生命線になっていくだろう。私たち実業界の希望であるTPP加盟については、未だわが国はこれを決められずにいる。しかし、多少の紆余曲折はあるにせよ、世の流れはとしては、間違いなくアジア、または環太平洋の経済連携の方向に進んでいこうし、そうあるべきだと考える。企業としては、こうした流れを先取りし、いっそうこの地域のパートナーとの連携強化等の策を講じていくべきだし、こうした環境作りのためにJCCIが担うべき役割もますます大きくなっていくだろう。

最後に、世はまさに「アジアの時代」。この様なエキサイティングな場所とタイミングでビジネスを出来ることを改めて有り難く思うとともに、個別企業としても、またJCCIのメンバーとしても、この国と地域の一層の発展、わが国との関係の強化のために微力を尽くすことを誓いながら、新年の随想としたい。

1年の計は元旦にあり。 100年の計を考える。

JCCI理事
MITSUI FUDOSAN (ASIA) PTE LTD
Managing Director
上田 二郎



皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年は、世界各国で政治のリーダーが変わった年で、今年、世界の政治経済がどのように変わっていくのか大いに気になるところであります。

「1年の計は元旦にあり。」と言いますが、私個人の過去の経験及び最近の状況から、私が思い考えていることを2013年年頭にあたり記したいと思います。

過去

1983年8月、高校3年17歳の私はシカゴ オヘア空港に降り立った。プラザ合意の前で1ドルは240円だった。空港に到着した夜のことを今でもかすかに覚えている。空港がやたらと大きかったこと、ホテル送迎バスのフロントガラスに銃弾の跡があり不安を覚えたこと、日本の家電メーカーのネオンサインが目に入り、まだ1日も経っていないのになぜか日本をなつかしく感じたこと。

翌朝、シカゴからセントルイスに飛び、空港でお世話になるホストファミリーに直面した。ホストファミリーは、両親、子供4人(17歳、15歳、5歳、0歳)の典型的なアメリカ中西部のファミリーで、セントルイスから車で1時間ほどの、人口のおおよそ9割が白人である郊外の小さな街に住んでいた。今思えば、よく、赤の他人であり、かつ外国人である私を受け入れてくれたと思う。

それから1年間、初めての海外生活をアメリカの田舎で過ごすわけだが、まず海外にいて強烈に意識させられたのは自分が日本人だということ。自分がいかに日本のことを知らないかということ。

街で唯一の日本人であり、高校生であったが、自分の言動、行動が日本人を代表しているような感覚にもなった。

ところが1年間アメリカ人ファミリーの一員となり、地元の公立高校に通い、日本語を喋らずにしていると、若さたる所以か妙に順応してくるもので、英語でものを考えるようになり、英語で夢を見るようになり、鏡を見なければ自分がアメリカ人にでもなったような錯覚にも陥った。

そこではっと思った。「自分はいったいこれから何者(Identity)になるのだろう」。

現在～未来

時は過ぎて2012年4月、私はシンガポール チャンギ空港に降り立ちました。

バブル全盛期に入社してから20年余り、国内一筋、用地取得、埋立開発事業、不動産証券化事業等に従事し(その間海外出張ゼロ)、一昨年4月、畑違いの国際事業部に異動となるまでは仕事で英語をしゃべる機会はほとんどありませんでした。かすかに残る英語のスキルは、アメリカの高校生同士で話すあまり上品とは言えない米語であり、シングリッシュでのビジネスに悪戦苦闘する日々を送っています。

シンガポール赴任9ヶ月が経ち感じることは、世界経済の先行きについて明るいとは言えない中で、シンガポールの街が活気に溢れていることです。これは、限られた国土、資源、人口の中で、いかに世界で生き残っていくか、スピーディーに政策を進めていることの賜物なのでしょう。ある

ものと、ないものがはっきりしているので戦略を立て易いとも思いました。街の美しさも戦略の一部のようで、不動産屋的視点から日本との違いを見ると、使い勝手やメンテナンスを多少犠牲にしても建物の外観にこだわっているということです。

都市開発がこれだけ進んでいるシンガポールにおいて、当地の文化、慣習を考慮しながら、日本で培ってきたものを基に何か差別化を図れるものがないか、模索しています。

企業は新たな市場を求めて海外進出を加速させていますが、その進出先に適合しつつ、かつ、自らの強みを活かして新たな価値を創造することで貢献し、地域の一員となることが求められるのだと思います。

一方、日本はこれからどうなるのでしょうか。

東日本大震災からの復興、領土、少子高齢化、年金、エネルギー、地球温暖化、円高、自由貿易協定、政府の負債、法人税率等々問題を挙げたらきりがありません。バブル崩壊以来失われた20年と言われ、将来を悲観するムードが漂っています。6重苦と言われる中で日本企業は益々グローバル化に舵を切り、これから更に空洞化が進む可能性があります。もし本当にヒト、モノ、カネが自由に国境を越えて移動するようになると国の存在意義とは何だろうと思うことすらあります。

しかしながら現実には起きていることはその逆とも言える気がします。国家間、都市間、企業間のグローバル大競争時代に突入しており、政治と経済の切っても切れない関係は今以上に強くなっていくのではないのでしょうか。

このような時代においては企業はグローバル

展開してその地域の一員になると同時に、この大競争時代に生き残っていくために自らのIdentityをしっかりと持ち続けることが必要なのだと思います。

日本は自然資源に恵まれているわけではなく、一方で地震、台風等自然災害が頻繁に起きます。その中で、日本人は頭で勝負するしかなく、それがIdentityの源(DNA)になっているのだと思います。よく言われていることですが、西欧諸国に追い付け追い越せでここまで成長しましたが、これからは誰も通ってこない道を進むしかありません。他のどの国よりもいち早く直面している問題を解決することにより、別の言い方をすれば、これからの世界で何が求められていくのかを考え、広く世界に貢献していくしか道はないと思います。

私の好きな言葉の一つに「禍を転じて福となす。」というものがあります。起きてしまったことを元に戻すことはできませんが、それを逆に利用してしあわせに変える(ピンチをチャンスに!)。今置かれている逆境をあえて前向きに捉え、課題解決に向けて戦略を立てて実行していくこと。これが100年の計に繋がると肝に銘じ、小さいことの積み重ねを、本年の一日一日を大切にしていきたいと思います。

最後になりましたが、本年が皆様にとりまして一層実り多い年となりますよう心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年随想

JCCI理事
Sompo Japan Insurance (Singapore) Pte. Ltd.
Managing Director

大野 高規



会員の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

昨年は年明け早々にオウム真理教特別手配犯の逮捕から始まり、東京スカイツリーの竣工と続き、日本国内に深く澱んだ停滞感からの解放を予感させてくれましたが、欧州経済危機の影響等も有り、結果的には大きな進展はなかったように感じます。

一方、ロンドンオリンピックで日本人女性の目覚ましい活躍に、心を踊らせた明るい話題もありました。

個人的には4月からシンガポール着任となり、2回目の海外駐在となりました。赴任前に東南アジア駐在経験者から『南国の時の経つのは早い』と聞いておりましたが(因みに髪の毛やヒゲも伸び方が速いとも聞きましたが本当でしょうか?)、その言葉通り、あっという間に9ヶ月以上が経過してしまいました。

実際に居住してからシンガポール人に関して強く感じることは『統制』と『自信』です。消費税増税、原発稼働再開、TPP参加是非等に関する結論の見えない(出さない?)議論が、日本国内同様にシンガポールで起きるとは想像も出来ません。

皆様が職場や日常生活にてご経験されている通り、シンガポール個々人は色々な意見を持っていますし、運転マナー等は身勝手さも感じられま

すが、国家レベルでは非常に統制が取れ、上手に運営していると感じます。文字通り『飴と鞭』の効果なのでしょうか・・・

過度な統制に関する賛否は別として、他の東南アジア諸国に比べ、めざましい経済発展を実現した結果、1人1人に自信めいたものも感じます。やはり、組織として良い結果を出し続けると構成メンバーにも『自分達もやれば出来る』という意欲が湧き、更なる結果を出すという好循環が生まれるのかも知れません。新年の会社経営にも大いに参考にしたいと考えます。

2013年は中国の指導者層が代わることで、世界情勢は政治・経済ともに新たな局面を迎えることとなります。変化の年と言えるかもしれません。

変化はチャンスでもあり、シンガポール日本商工会議所会員の皆様にとって良き年となるようお祈り申し上げます。

弊社は2013年1月から在シンガポール保険会社のTenet社と合併し、Tenet Sompoに名称変更となります。又、年内に日本興亜シンガポール支店と合併予定です。

本年も宜しく願い申し上げます。

イノベーションとシンガポール

JCCI理事
Sony Electronics Asia Pacific Pte.Ltd.
Managing Director

上村 成彦



指数関数的変化

昨年12月のシンガポールマラソンには、我々の会社から500人も参加しました。シンガポールは、今、「ランニングブーム」です。20年前に初めてシンガポールに来たときには見られなかった光景です。当時は、インターネットもなく、通信手段はFAXでしたし、今のようにスマホでネットショッピングなど何でもできるとは想像できませんでした。

このように、環境の変化を今考えると本当に速いなど実感します。特にデジタル技術やインターネットによる様々な変化は皆さんも経験されていると思います。その瞬間瞬間は時間はゆっくり流れる気がしますが、気がついてみるとすっかり様子が変わってしまい、過去のビジネスモデルは通用しなくなったという感じです。

今後も、こういう変化は起こっていくと思います。そういう指数関数的に変化する世の中に対応しながらビジネスを行っていくにはどうしたらいいのでしょうか。進化論を唱えたダーウィンは、「この世に生き残る生き物は、最も力の強いものか。そうではない。最も頭のいいものか。そうでもない。それは、変化に対応できる生き物だ」という考えを示したと言われています。

多様性

まず、変化を感じ取ることが大事なと思います。その場合は、多様性をもった人と関わっているのがいい気がします。同じような考え方を持っ

ている人の集団のほうが、やることが決まっており、短期間で達成させたい場合は向いていますが、何か新しいイノベティブなアイデアを出すためには、いろんな考え方をを持った人が組織にいたほうがいいと思います。

ローマ帝国は、人種に関係なく、医者や教師などの特技があれば、市民権をもらえたそうです。皇帝でさえも生粋のローマ人はネロまでで、その後はもう出身地も生まれも多種多彩で、アラブ人の皇帝までいたそうです。こうすれば、国は繁栄するんでしょう。米国は、今でも同じことをやっています。モンゴル帝国も領土を拡大しては、いろんな制度や文化をハイブリッド化させました。

よって、国籍、性別、世代の観点から、ハイブリッドな人材が多くいるほうが組織としては、ダイナミズムを失わないと思います。そういう意味では、シンガポールは、実に多様性に富んでいると思います。この小国がずっと経済成長を続けていられるのは、ここからくるのではないのでしょうか。ちなみに、我々のシンガポールの職場も、約20の国籍の人が一緒に働いており、女性比率は、44%、管理職に占める女性の比率も約30%です。

リーダーシップ

さて、変化を感じ取り、それに対応する革新的なアイデアが生まれても、それを実行できなければ意味がありません。組織が多様性に富んでいると、コンセンサスを取るのに、時間がかかるという問題が発生します。

それをスピーディに実行するためには、幹部の強いリーダーシップが必要です。考え方は違って、その会社の価値観が共有できていれば、それに照らし合わせて、物事が決められるからです。よって、リーダーの役割の重要なポイントは、「価値観を共有させる」ということかもしれません。

昨年の初めに、そういうことを念頭において、次世代リーダーを創出するために、Sony University Singapore Campusという研修機関をオープンさせました。アジア各国から、次世代リーダー候補を係長、課長、部長レベルで選び、それぞれのプログラムで約1年間教育するものです。受講者に効果を聞いてみると、特に、アジア各国からのいろんな人種の人と一緒に考えられるということ、そして何よりも、選ばれたという自負が強い刺激になっているようです。

リーダー育成というと、昔の国王の跡継ぎの「帝王学」が挙げられますが、同じように、若い人に「自分は将来リーダーになるんだ」という意識付けが必要に思います。時々、シンガポール政府の人と会ったりしますが、そのときに驚くのは、優秀な若い人が多いことです。何でも、優秀な人は、大学生の時から、政府が奨学金をだしたりして、将来の幹部として育てているのだそうです。

シンガポールから、学ぶことは結構あるかなと思います。

立国は公にあらず私なり

JCCI理事
The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ, Ltd.
Regional Executive for Singapore
General Manager, Singapore Branch

西尾 幸恭



「立国は公にあらず私なり」

昨年7月にニューヨークからシンガポールに転勤してきた。初めてのアジア駐在もあつと言う間に約半年が過ぎ、昨年とは打って変わってとても暖かい正月を迎えることとなった。南国での年末年始は旅行でも過ごしたことがないので、未だに新年というイメージが湧かない。諸先輩方が「季節のないシンガポールにいと、何時のことだったか思い出せなくなる」と言われるのを初めて実感している。

さて、1月号への寄稿の依頼を受けて何を書こうかと考えた。ニューヨークとシンガポールの違いとか、新年に向けての抱負であるとか。ニューヨークとシンガポールの違いについてはこちらでも幾度となく聞かれるが、色々な意味で随分と違い一言で説明するのは難しい。文化とか食事とか、そういう個別のことについては幾らでも違いを挙げられるが、年始にそんなことを具体的に説明するのも如何なものか。

そんなことを色々考えているうちに、過去の様々な年末の風景の記憶が頭に蘇ってきて、次第に寄稿文のテーマ探しからかけ離れていってしまった。それは年末の大掃除が途中で懐かしいものに出会って進まなくなるのに似ていたが、その中で懐かしく思い出したもののが年末の新しい手帳の購入であった。

数年前まで、新しい手帳を購入するのは師走

の楽しみの一つであった。近年、スケジュール管理はパソコン上のスケジューラに取って代われ、残念ながらこの楽しみは消えてしまったが、各地の文具店で手帳フェアが始まるのを待ち遠しくしていたのは私だけではないだろう。形、大きさ、スケジュール記入面のレイアウト等々、不必要と思われるほどに時間をかけてじっくり選んだ一冊は、私にとっては新年を新たな気持ちで迎えるための重要な小道具の一つであった。

手帳を買ってから一番にしたことは、見開きページの右上にその年の自分の目標や心に留めておきたい言葉を書き込むことであった。最初の数年はことわざ事典や故事名言集とかをひっくり返してはこれぞと思うものを探したが、ある年から手帳を買わなくなるまでの間、ずっと同じ言葉を書き込むようになった。それが表題の「立国は公にあらず私なり。独立の心無きもの、国を思ふこと深切ならず」である。

ご存知の方が多いと思うが、これは福澤諭吉の「瘠我慢の説」の冒頭の言葉である。お恥ずかしながら、実は私はこの言葉を「瘠我慢の説」を読んで見つけたのではない。偶々どこかで福澤諭吉の言葉として目にし、単純に気に入って書き込むようになっただけである。したがって暫くの間は「瘠我慢の説」の存在も知らず、いわんやこの言葉の解釈について様々な意見があることも知らなかった。

当時の私の解釈は極めて単純で、文面通りと
いうか、「国が立派に成長するには先ずは個人が

しっかりしなくてはならない。独立の気概のあるものこそ、国のことを真剣に思う者である」というものであった。最初にこの言葉を目にしたとき、これは至極当たり前の説教のようではあるけれど、そのことをたった二文で見事に、しかもリズムカルに表した福澤諭吉は改めて偉大だと思ったのを憶えている。以降、自分なりの解釈ではあったが内容にも共感したし、口ずさむにも丁度良いこの言葉は大変気に入って、手帳は変われど同じ言葉を書き込むこととなったわけである。

その後暫くしてインターネットが急速に普及し、様々なことをとても簡単に調べられるようになった頃、この言葉を検索してちょっと驚いた。「立国は公にあらざ私なり」の部分を探ってはその解釈について様々な意見が交わされていて、どうも私の解釈は必ずしも正しくないらしいということが分かったのである。その一方で面白かったのは、この言葉は古今東西いろいろな政治家にも引用されているのだが、その解釈は多くの場合において私と同じようなものであり、結果、学者や知識人の格好の攻撃的的となっていることであった。曰く、「全く分かっていない」「間違った解釈をしている」「呆れてものが言えない」等々。

私は年初から紙面を借りて解釈論争をしようという積りは毛頭ないし、そもそも自身の理解の程度は既述の通りでかなり怪しいものであるから、そのことについては学者さんやこれを読んで頂いている皆さんにお任せしたいと思う。ただ交わされている意見を読んでいて思ったのは、この言葉自体が持っているメッセージ性が余りにストレート

で強かったために、何時からか「瘠我慢の説」から離れてこの言葉だけが独り歩きしてしまい、結果として解釈に多少のずれが出てきたということなのではないかということである。そう考えればどちらの解釈も正しいということになって丁度良い、などと言ったら真剣に議論している方々に怒られるかも知れないが、果たして福澤諭吉が生きていたら何と言うのか、聞いてみたかった気がする。

いずれにしても、今回久しぶりにこの言葉に再会し、改めてそんなことを考えながら私が思ったことは、自分の中での解釈は「国が立派に成長するには先ずは個人がしっかりしなくてはならない。独立の気概のあるものこそ、国のことを真剣に思う者である」と言うものにしておこうということ、そしてそのように考えるとこの言葉は、経済の停滞や国際問題、繰り返される政治のゴタゴタなどに翻弄される今の日本に対する先代からの贈り物とも考えられるのではないか、ということである。

私もそうであるが、海外で生活をしている時の方が日本という国について考えることが多くなる、と言う人は多い。恐らく、生活している国と自分の国を比較する機会が増えるからであろう。実際、私はこの数年の間に二つの国から日本を見る機会に恵まれたが、残念ながら正直に言ってちょっと淋しい気持ちになることも少なくなかったし、批判的な気持ちになることも多かった。だが振り返ってみて、そういう気持ちを何らかの行動に繋げたかと問われると途端に歯切れが悪くなる。もちろん言い訳は多少あるかも知れない。日々業務に忙殺されて時間がない、海外にいてそういう機会・

方法がない、等々。要するに言い訳である。

時折そんなことを考えることがあったが、年末に計らずも思い出すこととなった「立国は公にあらざ私なり。独立の心無きもの国を思ふこと深切ならず」の言葉は、改めて心にずしりと響いた。前述の通り、私の心に響いている音は福沢諭吉がこの言葉に託した音と違うかも知れないが、それは私にとっては大きな問題ではない。昨今の色々なことについてより深く考えることを促してくれたという意味で、私にとっては大事な音に聞こえる、というだけで十分である。一民間企業に勤める人間であっても、何かできることはあるはず。今年はまだ少し、そういうことを意識して行動するようにしたいと思う。

正直なところ、寄稿の要請を受けた時は仕事が増えたなと思ったが、新しい年を迎えるにあたって、良い言葉を思い出させて頂いたと思う。ただ生来、私は物事を忘れやすい。とてもインパクトのある言葉と言いながら、今日まですっかり忘れてしまっていたことがそれを証明している。今では手帳も使っていないし、海外にいと一万円札の福澤諭吉を見て思い出す機会もないので、今年からは手帳の見開きに代えてパソコンのスクリーンセイバーにでも登録しておこうかと思う。

取り留めのないことを書いたが、今年が皆さん、そして日本にとって良い年となることを祈念しつつ、新年随想とさせて頂きたい。

シンガポールに赴任して

JCCI理事
TOSHIBA Corporation / TOSHIBA Asia Pacific Pte., Ltd.
Corporate Representative-Asia/ Managing Director

大谷 文夫



会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

2012年6月の末にシンガポールに赴任し、早半年が経過しました。

毎日が夏、という生活に、東南アジアは初めてでは無いのに、未だに違和感を覚える今日この頃です。暑いのは嫌いではありませんが、あの澄んだ青空、気持ちの良い風も捨てがたいものがあります。

日本では原発政策が定まらず、運転再開の目処がたたずに、電力不足から省エネの名の下に、みなさん忍耐を強いられているようです。それに引き換え、この国の方々は、なんとギンギンに部屋を冷やしているのでしょうか。いやあ、部屋の中は寒い。暑い夏、寒い冬を耐え抜いている日本の方々には本当に申し訳ないぐらいですが、こういう時は、海外に居てよかった、と思うことばかりです。

今回のシンガポールで、海外赴任は3度目になります。最初はお隣のマレーシアはクアラルンプール。それまでも、長期出張でロンドン等に滞在をしたり、いろいろな国々で仕事はしていましたが、正式の駐在としてはKLが最初でした。発電関係の仕事をしていたので、大型のEPCプロジェクトを受注し、立ち上げるために日々奔走の毎日でした。休みも無く、大変な日々でしたが、食べ物おいしいし、いろいろな人間が居るので、それはそれで大変興味深い国でした。ある意味、シン

ガポールと対照的に、非常にソフトな感触のある国との印象で、未だに大好きな国のひとつです。

その後、一度日本に帰った後、アメリカはミルウォーキーという、シカゴからさらにミシガン湖沿いに車で1.5時間ほど北上したところにある、リゾートタウンのような印象の街に居りました。何しろ、ミュンヘン—札幌—ミルウォーキーと言え、札幌オリンピックを経験した世代の方はピンと来るものがあると思いますが、以前はBeer Cityと呼ばれるぐらい、ビール工場が林立していたそうです。今では、大きな工場はミラービールだけになりましたが、短い夏を享樂的にすごし、長い冬を冬眠のようにじっとして過ごす(アクティブな方もいらっしゃいましたが、私はとても寒くてその気にはなりません)経験も、また忘れがたいものでした。本当に家族を大切にしながら、男女平等に仕事をし、楽しく生活をするアメリカ人を見るにつけ、Quality of Lifeは何たるや、という疑問にぶつからざるを得ませんでした。70年代に見た、あの退廃した雰囲気は微塵も無く、真面目に、きちんと自分の財布のため金儲けにせっせと汗を流す姿は、分かりやすくもあり、日本人的には理解し難い面もありました。忍耐という言葉が、本当に似合わない人たちと接することで、きちんとした自己主張が非常に大切なこと、沈黙は金なりではなく馬鹿扱いされてしまう事など、貴重な経験を致しました。

もともと、趣味はパラグライダーです、とお答えしていたのですが、海外赴任をするようになってから、飛びに行く機会が無くなってしまい、ここ2年ほど飛んでいません。その代わり、米国駐在時

に、ハーレーの本社があるミルウォーキーで買った、HONDAのGOLDWINGというバイクでのツーリングを楽しんでいました。ちゃんと大陸横断の夢も実現しました。帰任時、大枚払って東京に持って帰りましたが、海外赴任の辞令を聞いたときに、まず頭をよぎったのが、「バイクどうしようか？」ということでした。未だに、東京に保管してあり、たまに日本に帰国する際に楽しんでいます。

若いころから続いているバンドですが、(一番長いやつとは、40年近く一緒にやっている大切な仲間です)スタジオでの練習より、酒を飲む機会のほうが圧倒的に多くなってしまいました。

しかし、シンガポールに来たらなんと言ってもゴルフですね。下手の横好きの域から全く抜け出ておりませんが。。

去年は、アメリカの大統領選挙を始め、中国、韓国、日本でも政権基盤に関わる選挙等が行われ、その方向性が問われています。欧州を発端とする経済の問題が、世界を巡り、中国を含むアジア圏にも大きな影響を及ぼし始めています。米国でも財政の崖をどのように越えていくのか、興味のあるところです。もちろん、日本にあっては震災からの復興も大事ですが、1200兆円を超える日本全体の債務残高(一人当たり950万円ほど)を持つ国を、どのように切り盛りしていくのか、これも他人事ではなく、良く見ていかねばなりません。

内需に支えられて成長を続けるアジアで、自分の懐を肥やすことも大事でしょうが、やはり大切な事は、共に栄える、ということでしょう。

豊富で若い労働力のあるアジアの国々では、

ローコストオペレーションが最大のポイントではありますが、やはり多くの労務問題が発生し、その舵取りも難しくなっています。自分の懐を考えたら、最低賃金の上昇など、大打撃ではありますが、もっと長期的視野にた立って、いかに共に栄えていくか、これが我々に課せられた責務とっております。賃金の上昇を見据えた上で、日本人ならではの高い生産技術などを駆使して、オペレーションをしていくことが求められていると感じております。

皆様のお力をお借りしながら、地域に貢献しつつ、リバーズイノベーションを軸に、アジアから世界をリードしていきたいと考えておりますので、今後とも宜しくお願い致します。

2013年が皆様にとっても、シンガポールにとっても、そしてアジアの国々で働く皆様の御同胞にとっても良い年になりますように、心からお祈り申し上げます。

明けましておめでとうございます。

第1工業部会 部会長
Nippon Steel & Sumitomo Metal Southeast Asia Pte. Ltd.
Managing Director
川口 敬一郎



明けましておめでとうございます。2011年の4月にシンガポールの駐在となってまだ二年も経過していませんが、昨年4月より第1工業部会長を仰せつかりました。職場の前任者から引き継ぎの最中に「第1工業部会のメンバーの方々との付き合いは、非常に楽しく、有意義なので、お前も積極的に参加すればいい。」と言われたのですが、実際には永く駐在されたメンバーの方々の入れ替わりも多かったもので、当初は、ややピンとこなかった時期もありました。しかし、四半期に一度の定例ゴルフコンペの開催や、わりと真面目な勉強会、それから引き続いての夜の懇親会等を通して、永くシンガポールの地で経験を積み、苦労も重ねてこられた先輩方の御高説(ちょっと表現適切でないかもしれませんが)や、メンバー同士での種々愛もない(これも失礼かも)様々な観点からの持論を聞いたりするにつけ、部会長が適任かどうかは別として、ほどなく第1工業部会の付き合いを楽しめるようになってきたようです。

第1工業部会のゴルフコンペは、さしてレベルの高くない(Nさん、貴兄は勿論別格なのですが)、言い換えれば、ハンデ次第で参加者の誰にでも優勝チャンスのあるゴルフコンペです。私自身、幸運なことにこの二年弱でハンデとパートナーに恵まれて二度も優勝させて頂いたので、すっかり愛着のある行事になっています。終わった後の宴会も毎回盛り上がるのですが、一度はタナメラCCのBallルームでカラオケ大会が始まってしまい、最後にはその店員まで一緒になって踊り、歌うところまでいってしまいました。「平日ゴルフ」なので、どこの会社も締め付けが厳しくなっているところもあるようですが、まあ、四半期に一度くらい、

それも午後だけ、せめて第1工業部会のコンペに参加していただける仲間が更に増えていけば良いと思います。初出場という方も毎回二、三人はおられるので、そのあたりも気兼ねされず、まだ一度も出たことのない方も今年は是非とも御参加下さい。

それから、昨年7月には第1工業部会にて、「シンガポール史跡めぐり」を開催しました。日本人会の史跡資料部の白石さんに半日のガイドをお願いしました。一昨年も同じ企画を実施して好評であったことから、今年は別メニューを白石さんに考えて頂き、チャンギプリズン記念館、や日本人墓地、モスク、仏教寺院等を見て回りました。日ごろ、シンガポールにいる駐在員も海外出張はじめ仕事に追われ、休みとなると家族サービスやゴルフで過ごすことが多いようで、なかなか、改めてシンガポールの歴史や、古い街並みを見て回るといことも少ないようです。とりわけ、チャンギプリズン記念館では旧日本軍のシンガポール占領から第二次世界大戦終結後の「解放」までの記録を辿ることが出来ました。露骨な帝国主義がぶつかり合っていた時代なので、日本のシンガポール支配だけがおかしかったのかどうかとの判断は別としても、当時のシンガポール人たちが経験した事実があることは間違いのないことで、かつ、今の若い世代のシンガポール人がいくつかの場を通して日本や日本人の関与した歴史の教育を受けた上で、我々日本人と普段接しているということを私自身振り返ることができ、リー・クワンユーの「許そう、しかし、忘れてはならない」という言葉を心に刻むことができる機会になりました。「日本人は自分たちの歴史、特に現代史について無頓着だ。」

と時に言われるのももっともなところがあるでしょう。シンガポールの史跡を回る中で、自国の過去に出会うことは意味のあることだと思いました。翌日、会社のメンバーに「シンガポールの史跡めぐりをやったことがあるか。」と聞いたところ、日本人会墓地ですら行ったことのあるのは十三名中で僅か二人という有様でした。シンガポールをはじめ、東南アジアでビジネス展開を更に深めようとする上では、こうしたところにもより関心を持って現地の人たちと接することが必要だと思います。因みに、今年の三月あたりで、また白石さんをお願いして私の会社の日本人社員および家族を入れた「史跡めぐり」を企画したいと考えているところです。

それから、12月には「ジュロン島見学」を企画しました。残念ながら、この原稿を書いた後の実施なので、参加された方々がどういった感想を持たれたかはここで触れられないのですが、おそらくは、カジノや金融とは違い、計画的に石油化学産業を育成してきたシンガポール政府の国造りのしたたかさを実感される方が多いのではないかと思います。お世話をお願いした逆井副会頭はじめ住友化学の方々には御面倒をおかけしたのですが、第1工業部会内で「ジュロン島見学」の案内を出すと、ほんの数日で定員に達してしまったのは、それだけでもうれしいことです。見学会後の忘年会も盛り上がりました(と書いてしまっておきます)。

私にとって第1工業部会のみならず、やや仕事との間合いを置いてシンガポールで様々な業種の方々と交流の機会を持たせて頂くことができるのは非常に有難いことで、大きな刺激を受けることができます。日本での営業経験も長いので、これまでも幅広い付き合いの機会があったのですが、シンガポールという狭い社会の中で、濃縮された情報や意見(勿論、はやりのコンプライアンス違反はないので御心配無用)交換はなかなか面白いものがあります。まあ、その内容も傾向のようなものがあって、一つには「とにかく日本の本社の連中は海外の現場のことが全く分かっていない。」というものと、それから「日本はこのままでは心配

だ。政治も経済も将来大丈夫か。」的な話題になることが多いようです。「グローバル化」を第一の戦略に掲げておきながら、その実は目先の利かない重厚長大の典型である鉄鋼メーカー勤めの私ならいざ知らず、既にグローバル化の先陣を競っておられる企業の方々からも同様な感想というか愚痴のようなものをお聞きするにつけ、如何にインターネットの発達で情報収集の広域化・スピードアップが進んでいるとはいえ、国際社会で実態感を持って戦っていくことの難しさを痛感します。また、いつの間にか丸ごとガラパゴス化してしまったような日本の政治や社会の現象に想いやる「仲間」との会話に、大げさですが明治維新の憂国の志士を意識したりするものです。私自身、海外駐在は初めてということもあり、非常に新鮮な気持ちで色々な方々と接し交流させて頂くことは本当に有難いことだと思います。ただ、一方で、「金だけ払って、あまりJCCIに入っている有難味を感じない。」という声を耳にすることが何度かありました。私は幸い理事の一人として貴重な情報に直接触れることができ、また、個性豊かな各企業の方々と親しくさせて頂く機会に恵まれているわけですが、会員の方々全員がそうではないことも想像できます。そこは組織上の限界があるのかもしれませんが。とはいえ、新しい年も第1工業部会としては、ゴルフのみならず、楽しく有意義な勉強会、そして宴会を企画していきますので、どうぞ奮ってご参加をお待ち致しております。「楽しそうだな」と思われる他部会の方も、「他流試合」も受け付けます(Wendyさん、OK?)。最後、今年も宜しくお願い申し上げます。

第2工業部会から見た2012年の政治経済動向と2013年の展望

第2工業部会 部会長
Mitsubishi Chemical Singapore Pte Ltd
Managing Director
池川 喜洋



会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。本原稿を書いている時点では、日本の衆議院選挙の結果は判っていませんが、2012年は米国、中国、韓国、日本と次期政権を選択する選挙や指導者の選出があり、2013年以降の政治経済を占う年となりました。

まず2012年を振り返り、それが2013年に如何に反映されるか考えたいと思います。

1. 中国における経済成長の鈍化顕在化

リーマンショック後、アジアはもとより世界経済を牽引してきた中国経済の成長にブレーキが掛かりました。2012年のGDPの伸び率は7.5%という予測ですが、実態は2-3%という説もあります。供給面では様々な産業で未曾有の過剰設備が稼働し、需要の伸び悩みと相俟って収益性を大きく毀損する産業が目立ち始めています。この現象は、2013年のアジア経済、世界経済にも影を落とすでしょうし、中国経済についても低稼働、低収益の継続が、設備固定資産の減損という形で表面化した場合、中国金融機関の不良債権問題として噴出す懸念もあり、要注意でしょう。

2. 領土問題と反日

1972年の修交以来、国交回復40年の節目として祝賀ムードであった日中関係は、尖閣問題で大きな岐路に立たされました。もともと様々な問題は決着しないままでも将来に向け周恩来、田中角栄両首相が調印し、40年掛けて改善してきた日中関係が、お互いの不用意な行動の為に無に帰する愚だけは避けるべきと考えます。ナショナリズムは熱狂だけで国益を生み出さないことを冷静に

内省すべきでしょう。日中新政権で平和的な解決を担っていただきたいと切望する次第です。

3. アラブの春の継続とイスラエル、イラン問題

1月にエジプトの議会選挙結果が発表され、イスラム政党が7割を超えて支持され、2月にはイエメンで暫定大統領選挙が行われ、政権が交代しました。シリアでは今も内戦状態が継続されており、イランの核開発問題、シリア、イスラエルの緊張継続など、まだまだ地政学上の懸念が払拭されず、原油価格に影響を与えています。

4. シェールガス、オイル開発の活発化とエネルギー革命

超低価格のシェールガスが米国の石油化学産業に自信を復活させる一方で、既存のナフサベースのクラッカーに深刻な収益の悪化をもたらしていることは、シンガポールやアジアで操業する石化コンプレックスの将来に大きな課題を投げかけています。また、ガスに続くオイルの採掘で米国の石油精製産業に強い競争力を与える可能性があることや、米国のエネルギー自立化が、中東に対する関心の低下やアジアの安全保障に対するスタンスも変える可能性があります。本件は、日本のエネルギー、石化産業のみならず注意を要すると思います。

5. ユーロ危機

ユーロ危機が続く中で、EU各国で反緊縮派が相次いで選挙に勝利しました。5月にはフランスでオランダ新大統領が誕生し、ギリシャでも財政緊縮政策を進める連立与党が大きく議席を減ら

し、過半数を割り込みました。財政立て直しに対してEUが一枚岩になりえない中で、再建計画実行スケジュールのリスクが懸念されます。

6.日本の消費税増税法案の衆議院通過と民主党離党議員の増加

日本財政の建て直しは焦眉の急であり、世界的にも低水準の消費税の増額はやむを得ないと思いつつも、この問題を政争の具とする国会議員に失望したのは小生だけではありますまい。政治家は、日本の税制に関して、国家の競争力の観点と成長路線の観点から現実を直視すべきでしょう。日本の企業法人税率や減価償却期間のフレキシビリティの無さがライバルである韓国企業との競争に足枷となっていることは明白です。これに加えて産業用の電力価格が、理想論としての原発不要論で押し上げられるとすれば、日本の産業空洞化は益々進行するでしょうし、雇用不安は免れません。次期衆議院選挙で選出される政治家の皆さんには、円高問題も含めて、日本の産業が呻吟しているアンフェアな土俵の改善に取り組んでいただきたいと思えます。

7.日本人ノーベル賞受賞学者の輩出継続 (山中教授)

イノベーションが日本産業の成長の原動力であることは、明白です。画期的な発明や発見のみならず様々な分野で特許取得の割合は日本企業が多いことは良く知られています。エレクトロニクス分野では70-80%が日本企業の特許です。しかしながら、その実情が必ずしも企業収益に結びついていないことが大きな問題です。技術の

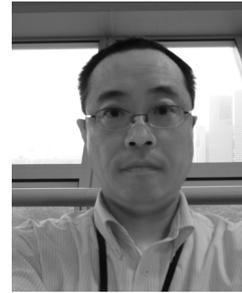
OPEN/CLOSEの明確な戦略が企業収益に直結すると言われていています。技術競争に勝って、事業で敗北することが無いように戦っていかねばならないでしょう。

ここまで2012年を振り返り、新年に明るい展望をもたらす要因を模索してきましたが、残念ながら楽観的な要因は非常に少ないと感じています。しかしながら、EU諸国が財政の建て直しに目処をつけ、産業の自爆テロともいえる中国の度を越えた過剰設備投資が是正され、日本における国会のねじれ解消とイコールフィッティングの実現(企業への政治的、税制的な足枷からの開放)、米国の景気回復、雇用改善、そして中東の緊張緩和など、現在の状況が少しでも改善することに期待を失わず、地道に企業活動を継続していくしかないと思えます。

最後になりましたが、皆様方の益々のご活躍、ご家族の皆様含めたご健勝を 祈念して新たなる年を 寿ぎたいと存じます。本年も宜しくお願い申し上げます。

シンガポールにおける エネルギー政策と関連事業の展望

第3工業部会 部会長
Panasonic Asia Pacific Pte. Ltd
Director, Member of the Board
野中 達行



新年明けましておめでとうございます。

昨年1月よりシンガポールに赴任となり、順送りの慣習にならない、第3工業部会長を仰せつかりました。事務局長を始めとするスタッフの皆様、また会頭、先輩理事の皆様からのご指導も賜りながらこれまで活動を進めて参りました。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げたいと思います。

さて、第3工業部会を構成されている会員企業は多岐にわたっていますが、本稿では、多くの製造業の皆様にも多少なりとも関連があると思われる、シンガポールでのエネルギー政策や省エネ関連事業について、最新状況をご紹介します。

まず最初に、シンガポールのエネルギー事情について概略をまとめてみました。

ご承知のとおり、2011年ベースでシンガポールの電力発電の78%が、天然ガスを利用したものとなり、将来的にも周辺国からの安定的な輸入を志向しています。一方でいわゆる再生エネルギー等による発電の構成比は同じく11年度で3.6%となっており、構成比としては2005年度と変わっていません。また、再生エネルギーに対するイニシャルの支援はあるものの、住宅における太陽光発電などにおけるインセンティブ、いわゆるフィードインタリフの制度は存在しませんし今後の導入計画はありません。

これは、将来の再生エネルギーの活用に向けたエネルギー政策において、再生エネルギーの比率に目標値を置いている国が多い中、やや意外感もありますが、シンガポールとしてはその国

土地形や製造業の構成比率、既に高度に発達した都市国家であることを考えれば、現実的な対応とも言えると思います。一方で再生エネルギーの投資効率向上、コストパフォーマンスを賢く見極めているともいえ、今後も政府として、フレキシブルな省エネ政策をとってくることは間違いないものと思われま

次にシンガポールの電力消費量ですが、2009-2011年の3年間で5.2%の伸びを示しています。電力消費市場の構成としては、11年ベースですが、工場などの産業用で40%、次に商業用ビル、モールなど業務用で38%、家庭用としては16%、その他運輸用として6%程度となっています。ただし、この3年間の伸び率で見ますと、一番高いのはやはり大口の需要家が多い産業用、次いで業務用、運輸用となっています。

ちなみに、日本ではこの10年間のトレンドで見れば、海外生産シフト、省エネ設備導入、大口需要家(企業や家庭など電気を利用しているところ)向け価格引き下げ等が主要因となり、産業用は減少、業務用、家庭用が増加という傾向にあります。

一方、シンガポールでの家庭内の電力消費は、インバーターなど省エネ家電の普及もあり、一家庭当たりの消費電力量は微減という傾向にあります。また、当然ではありますが、家庭内におけるエアコンの電力消費量が高く、エアコンの電力使用量は家庭内の30%近く占めています。また、月別では5月から7月の「盛夏」において電力使用量はピークを迎えます。

さて次にシンガポールの電力政策についての方向性をどのように見ていくべきかについて述べたいと思います。ご承知のとおり、シンガポールの電力政策はEMA(エネルギー市場監督庁)にて立案推進されています。中長期目標として掲げられているのは、やはりスマートグリッド社会に向けた対応の取り組みであり、ハード面ではスマートメーターの導入、ソフト面では各種電力市場の自由化、規制緩和をその手段として、今後も安定的供給を最優先としながら、国家としての省エネに取り組む姿勢を明確にしていると感じます。

規制緩和、市場自由化の代表的な取り組みが、アメリカやオーストラリア、一部日本でも昨夏から事実上既に始まっている、デマンドレスポンスとその仕組みの創出です。デマンドレスポンスとは、電力供給量が逼迫した時や、系統が不安定になった時、つまり電力会社が電力を供給しにくくなったタイミングに合わせて、需要家(企業や家庭など電気を利用しているところ)が電力の使用を抑制するように仕向けることを指し、需要家に節電させる気を起こさせるシステムと定義されていますが、シンガポールとしても来年後半からの市場創出、いわゆるネガワット取引の導入を目指しています。

このような点において、エネルギー市場自体のボリュームという点では、小国のハンディはあるものの、電力関連市場については、政府は、世界各国からの参加者、専門家を募りながら、国家メリットを引き出し、かつ新しいビジネスモデルとして仕上げて、関連機器やソフトを含めて、新たな展開、省エネ産業振興を図っていこうとしていると思

います。このような戦略的かつ中長期的に取り組むその姿勢には、改めてシンガポールの先進性、進取のスピリットを強く感じています。

本年も、このダイナミックなシンガポールを中心としたアジア地域で仕事をさせて頂く醍醐味を感じていきたいと思い、上記をもって新年のごあいさつと業界展望とさせていただきます。

2012年の回顧と2013年の展望

貿易部会 部会長
Sojitz Asia Pte Ltd
COO

小原 伸吾



新年明けましておめでとうございます。

2012年の回顧-アジアへの注目

2012年は、前年度洪水後の迅速な産業回復を達成したタイや、引き続き好調な経済を維持するインドネシアを初めとする、アジア成長を牽引する各国がその底力を発揮する一方で、後発国であったミャンマー・カンボジア等への注目度も飛躍的に高まり、広くかつ多様なASEANを実感した一年でした。

また、アジア域内では世界の潮流としてのボーダレス化進行の加速を実感する一方で、日本のみならず域内各国間において領土をめぐる論争が例年以上に目立ち、各国の主権をかけての思惑がぶつかりあう領土問題の難しさを改めて考える機会となりました。さらに、特に成長著しい新興国のインド、中国、インドネシアなどでの労働争議が一部で過激化する等、中長期的な新興国立地リスクの一面も垣間見られました。しかし、そのなかにあっても、ASEANを中心とする域内各国に対する生産拠点・市場としての注目度がさらに高まり、アジアシフトの現象もみられるように、アジアを今後の世界の成長センターと見なすことが定説化してきた年でもありました。

我が国日本では、震災からの復興の一方で、日本固有の問題としてエネルギー政策転換に関する議論が引き起こされる等しましたが、安定を欠く内政も影響し、残念ながら未だ現実的な方策の確立には至っていない様に見受けられます。また、引き続いての欧州債務危機の再燃・長期化

懸念や中東情勢の不安定に加え、特に年の後半からは中国市場の需要減退傾向の拡大、それに米国の財政懸念等と相俟って、世界経済の先行き不透明感に起因する外需の下押し圧力が強まり、域内主要国の足元の輸出動向等からもアジア経済の減速傾向もより顕著に見られるようになってきました。当面の世界経済は、ボーダレスの進展とともに、BRICs諸国のような強力な牽引役を失い、次なる市場と成長を探る過程にもあり、その動向は貿易部会メンバーのみならずアジアの中心地シンガポールを拠点にビジネスを展開されている皆様に共通する大きな関心事と認識します。

2013年の展望-ASEANと日本

斯様な環境下、2013年はシンガポールははじめASEAN各国にとっては外部に不安定要因を残してのスタートとなりました。特に目先で懸念される欧州危機等の波及に関しては、貿易面を通じた影響が当面は表れるかも知れませんが、中長期的には個人消費の拡大、それに投資や資本流入の拡大等を原動力とした継続的な成長への期待が変わることはないと思います。

ASEANには元々その文化・歴史的背景や経済発展の段階も異なる多様な国々が存在しますが、先進各国企業がチャイナ・プラスワン、あるいは中国に変わる次なる製造拠点・市場を模索するなか、この地域全体はまるで異なる時代を同時期に体験するかのごとく躍動しつつあります。

国内GDP規模7000億ドル超のインドネシアは、同65億ドルのラオスの約110倍、一人あたりGDPでもシンガポール(約43,000ドル)とミャンマー(700ドル)には60倍の開きがあります。日本の

5倍の国土に2.4億の人口を抱える域内大国インドネシアでは引き続き巨大なインフラ需要が見込まれ、既に多くの日系企業が進出するタイ・ベトナムなどとともに、多少の迂回があったにせよ持続的な成長と、何より日本との関連性がますます高まると思われます。昨年度9月の貿易部会講演における双日総研吉崎副所長の話のなかで、中・印は普通でない新興国(Re-riseする大国)である一方、ASEANは普通の新興国(日本企業が安心出来る地域)との説明も、今後のASEAN市場への期待を表する実感かも知れません。加えて、例えば後発国からも、市場開放の実現にともない昨年度各国が先を競うかの如く参入の動きを見せたミャンマーのような、新興というより全くの新規市場が生まれること自体が今後ボーダレスな大市場の潜在性を秘めたグレーターメコン地域の開発加速にもつながる、といった重層的な発展も期待されます。

周辺国の成長を常に自国経済の持続的な発展に転化・活用してきたシンガポールは、その中であってアジア域内進出・展開を企図する企業・産業の橋頭堡的な位置付けを更に確立するとともに、次代に目を向けたトレードハブ機能強化を図るものと思われます。

折りしも、昨年はASEAN経済にも大きな影響を及ぼす、米・中・露各国の元首・リーダー選出の場がもたれ、また、日本においても年末にかけて衆議院解散総選挙が慌しく行なわれました。世界の大国の新たな体制下、今年はTPPやASEAN+6に象徴されるEPA/FTA交渉の深化、それに各国の主権が及ぶ範囲をめぐる交渉等も再び活性化

してくると予測されますが、母国日本が自国の立ち位置をしっかりと確認しつつ、今後もASEANを中心とするアジア各国のよき隣人、そして成功体験を共有できるよきパートナーとしてその社会と経済の発展に今後も貢献するとともに、商工会メンバー各社がその一端をそれぞれの形で引き続き担い続ける一年となることを祈念しております。

本年も会員の皆様にとって幸多き一年となることを願いつつ、新年のご挨拶とさせていただきます。

2013年 新たな年への期待

金融・保険部会 部会長
Tokio Marine Insurance Singapore Ltd.
Managing Director

結城 実



会員の皆様 新年明けましておめでとうございます。

昨年を振り返りますと、欧州債務危機が拡大する中で始まった1年でした。

欧州経済は2011年秋以降マイナス成長となり、南欧諸国は特に深刻な状態となりました。欧州中央銀行のドラギ総裁は、就任直後から欧州債務危機への対応策を強力に実施しました。

まず、昨年末から大量の資金を金融市場に供給、8月には南欧国債の購入を決定し、南欧を支える姿勢を明確にすることにより、スペイン国債などの利回りの高騰もひとまず沈静化しました。10月には欧州安定メカニズム(ESM)を発足させ、信用不安も和らいだように見えます。しかし、物価上昇の抑制に限定されていた中央銀行の役割を大きく逸脱したとの声もあり、また今後財政再建の問題自体を改善できるか否かが重要となります。

IMFによれば2012年通年でも欧州は マイナス成長になるとの見通しで、景気停滞は長期化すると予測されています。

米国経済は、個人消費と住宅投資が安定的に推移しましたが、政府支出の効果に因る所が大きく力強さはありません。失業率も緩やかに改善しているものの、FRBは9月より量的緩和第3弾を開始しました。

好調な輸出により経済成長を維持してきた東アジア諸国ですが、欧州・米国向け輸出のウエイトが高く、欧米の景気後退の影響を受け、経済成長は鈍化しています。新興国の中でも特に高い経済成長率を維持し、東アジア域内貿易で大きな存在となった中国も景気は減速し、周辺諸国へ

影響を与えています。

シンガポールも例外ではなく、2011年は4.9%であった実質GDP成長率は、輸出の減速により鈍化し、通年でも成長率は低いレベルに止まりそうです。

9月には尖閣諸島問題に端を発した反日デモが起こり、多くの日系企業が多大なる被害を受けました。直接の被害に遭った日系企業だけでなく、今や「世界の工場」「世界経済の牽引役」である中国のリスクを世界が再認識せざるを得ない事件であったと思います。また、被害に遭われた会員企業の皆様に謹んでお見舞い申し上げたいと存じます。

この原稿は、オバマ大統領が再選を決めた11月上旬に作成しています。

再選の要因は諸説ありますが、経済を立て直すにはオバマ大統領の方が良いと判断されたいう説があります。現在の米国で有効な経済政策は金融緩和政策であり、金融緩和に反対論の多い共和党のロムニー氏が敗れたという内容です。

しかし、議会のねじれは続いており、これから到来する「財政の崖」を回避できるかどうかが当面の課題です。

日本は景気が後退局面に入った可能性が高いと言われていています。野田首相が、年内の衆議院解散を表明しましたが、13年度予算編成の越年がほぼ確実となりました。

総選挙で政権交代となれば重要施策が見直しとなり、景気へのマイナス要因となる可能性もあります。

雇用問題と財政赤字は先進諸国の共通の課題

です。各国のリーダーが指導力を発揮して構造改革を進めることが強く望まれますが、まだ暫く時間が掛かりそうです。従って、東アジア各国の国内需要による経済回復への期待が従来以上に強まるものと思います。

シンガポールに拠点を持ち、東アジアで活動を行う金融保険業界の貢献できる余地も大きいと思います。2013年が世界経済回復の第一歩となることを祈ってやみません。

最後になりましたが、皆様のご健勝と会員企業様のご発展を心よりお祈り申し上げます。

2013年の建設市場動向について

建設部会 部長
Obayashi Corporation
General Manager
長谷川 仁



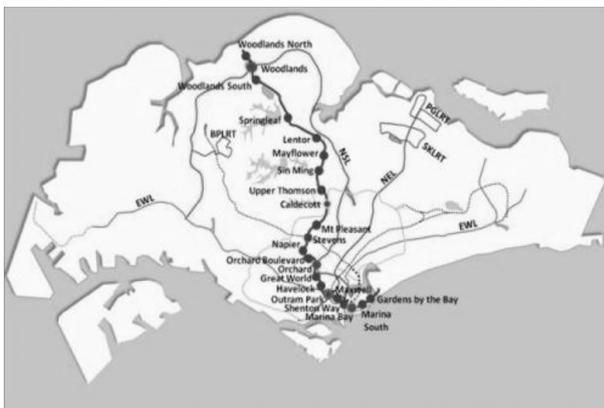
皆様、新年明けましておめでとうございます。

建設市場動向

2012年のシンガポールのGDPは第1～第3四半期間、全体で0.3%～2.5%と緩やかな成長であったのに対し、建設業は7.7%～12.3%の堅調な伸びとなりました(Ministry of Trade and Industry発表)。

バブル化していた高級不動産投資を抑制するため、政府は2011年12月に新たに不動産取得者加算印紙税を導入し、外国人には取得価格の10%の印紙税を課しました。その影響もあり、民間建設事業は減少しましたが、MRTダウンタウンラインなどの公共建設事業が建設市場を牽引する結果となりました。

2013年もMRTトムソンラインの入札が予定されております。トムソンラインはWoodlandsから昨年オープンしたGarden by the Bayまでを結ぶ全長30km、全22駅、総事業費180億シンガポールドルのプロジェクトであり、建設工事は25工区に分けて入札となります。また、建築工事では空港第4ターミナルや、Tanjong Pagar、Marina地区で



トムソンライン予定図

も大型工事が予定されており、昨年同様安定した建設需要が見込まれます。

建設事業を取り巻く環境

その一方で建設事業を取り巻く環境はここ数年で目まぐるしく変化しております。

まずは雇用税の引き上げならびにMan-Year Entitlements(プロジェクトの規模により決められる外国人労働者の枠)の制限です。雇用税は昨年7月の引き上げに続き、本年1月から基礎熟練労働者は月当たり250ドルから280ドルに、高度熟練労働者は月当たり350ドルから400ドルに、Work Permit所有者は月当たり500ドルから550～650ドルに、更に本年7月にはそれぞれ300ドル、450ドル、600～750ドルに引き上げられます。雇用税の引き上げは、労務費の上昇により、建設コスト増とを引き起こすだけでなく、外国人作業員そのものの確保が昨年以上に厳しい状況となることが予想されます。

また、Man-Year Entitlementsは2010年より段階的に削減され、最終的に2013年7月には当初から45%までに削減されることとなり、現場の生産性の向上が一層求められています。

生産性向上を目的として、Building and Construction Authority(BCA)は建設事業のCore Trade制度を2009年から導入しました。この制度は一部職種について、資格要件を満たし、テストに合格したSupervisor(監督)、Foreman(職長)やTradesman(熟練工)を、契約金額に応じた人数を現場に配置させることを求めています。、現在では17職種にまで増加し、条件を満たす作業員の確保が建設業各社の頭を悩

ませております。協力業者だけでは十分な資格者を確保できず直庸の作業員に資格を取得させて配置する会社が増加しております。

騒音防止についても2010年には騒音規制が強化され、住宅地域では日曜日などの作業が禁止され、新規に発注する工事では、工程にも影響がでています。近隣の苦情は以前にも増し、PRO(Public Relations Officer)を現場に配属し、近隣対策に当たる工事も増えてきました。

日系建設会社にとってのシンガポール建設市場

日本の建設市場は、震災による特需を除けば1990年代より、縮小を続け、現在では対GDP比で9%前後となっています。それに対してシンガポールの建設市場は直近2年では年間270～350億シンガポールドル、対GDP比10%前後で推移しています。また一件当たりの工事規模も大きく、建設会社にとって大変有望な市場となっています。

一方で、工事獲得の競争は熾烈で、低価格を武器とする韓国系建設会社、着実に実力を蓄えてきた地元建設会社、得意分野で強みを持つオーストラリアやヨーロッパ系の会社を相手に日系建設会社はしのぎを削っています。

日系建設会社は早い時期にシンガポールに進出し、長い期間をかけて品質や技術の面で高い評価を築いてきました。これからもシンガポールでのプレゼンスを維持するためには目まぐるしく変わる環境にいち早く対応することが求められています。

最後に2013年がJCCIならびにJCCI会員皆様

にとって益々のご発展の年となりますことを祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年を迎えて

運輸・通信部会 部会長
KDDI Singapore Pte Ltd
Managing Director

太田 直彦



皆様、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、米国、中国、韓国、ロシアといった政治的・経済的に日本との関係が大きな国々で、選挙等による新しい政治的指導者の選択が行われました。また、日本でも年末に衆議院の解散・総選挙が行われ、今後の国際関係形成がどういった方向に進むかはまだ分かりませんが、重要な節目の年となったことは確かだと思います。

政治が経済に与える影響は非常に大きいものがありますが、昨年は中国のカントリーリスクの顕在化という、日本の経済界にとって大変深刻な出来事がありました。そのため、今後の成長性を維持するため益々加速していく日本企業の海外進出において、東南アジア各国の重要性を再認識する機運が高まっている状況です。

皆様もご存じの通り、その中でも特に注目を集めているミャンマーについては、アジア重視を最近の外交政策に掲げる米国オバマ大統領の訪問と経済制裁の緩和措置という政治環境の変化により、経済発展につながる歴史的転換期を迎えております。

私もタイ、ベトナム、インドネシア、マレーシア、インド、そしてミャンマーといった国々を定期的に訪問し、マーケットや生産拠点としての日系企業の進出や事業拡張に対する意欲を肌で感じております。こういった中、シンガポールの地政学的優位性や、アジア各国との租税条約など各種税制整備状況に加え、政府の誘致政策などにより、

シンガポール現地法人に地域統括としての機能を持たせる企業が今後増えていくのは当然の流れだと思います。

一方で、シンガポールに統括拠点機能を持ち、適切で効率的な東南アジア各国の企業統治を行っていくためには、各社いろいろな課題があるかと思いますが。その中でもITシステムも含めた通信環境、及びロジスティクス整備というのは最も重要な要素の一つと言えるでしょう。

通信環境の整備の例で言うと、統括拠点と東南・南西アジア各国の拠点とのシームレスなIT環境構築、一元管理によるガバナンス力向上を実現するために、「域内ネットワーク」構築のニーズが高まっております。具体的には、シンガポールのデータセンターに基幹ITシステムを設置し、各国拠点から国際専用網やインターネット回線を介してITシステムに各国から接続可能にすることに加えて、各国のIT機器状況を監視、一元管理することで、各国でレベルが異なる社内IT環境向上、及びITガバナンス・セキュリティーを担保する仕組みとなります。

東南アジア各国の事業拡張や、通信インフラが発展途上の新規進出国の拠点への通信・ITインフラ構築を行っていく中でのITシステム共通化とガバナンス力向上の取り組みは、相応の経営資源の投下が必要となりますが、グループ内の企業運営効率化に大きな効果が期待できます。

上述その他の要因により、アジア太平洋地域

の国際ネットワーク、ネットワークセキュリティ、及びシンガポールのデータセンターの市場規模は拡大していく見込みです。シンガポール及び東南アジア各国では、経済的な自由化レベルやマーケットの特性、成熟度合いに差異があり一括りで扱うのは難しいところですが、今後も成長性が期待できる地域です。そのような地域で、どういった経営判断でいかに事業成長性を達成するかは非常に難しく、また面白味のある仕事と思っております。

本年もよろしくお願い申し上げます。

観光流通サービス部会業界動向

観光・流通・サービス部会 部会長
AJINOMOTO (SINGAPORE) PTE. LTD
Managing Director

林 裕之



皆様、新年明けましておめでとうございます。

当観光流通サービス部会は会員企業の皆様の業種が多岐に亘ることから業界動向を一括りにすることは難しいのですが年頭に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

さて、昨年を一言で総括するのもまた難しいのですが、敢えて表現すれば「停滞の年」であった様に思います。日本では前年の東日本大震災から復興の兆しが少しずつ見られるものの、被災地ではまだ多くの方々が厳しい現実の中でご苦労をされていますし、シンガポールでも放射能汚染の懸念から1都7県の農水産品輸入停止措置は解除に至らず、シンガポールからの訪日者数も若干の改善傾向は見られるものの2010年レベルには残念ながら未だに回復しておりません。加えて、中国経済の減速、欧米経済の低迷・財政危機等々、グローバルに方向感のない状況とその影響が、世界経済に大きく成長を依存するシンガポールにも押し寄せ、第3四半期のGDP成長率は遂に前期比6%近いマイナス成長(前年同期比ではほぼゼロ成長)にまで落ち込みました。政府発表の2013年の経済成長率は1-3%と幅はありますが、いずれにしても引き続きシンガポールに取っては厳しい環境が続く様です。

当部会に直接関係する観光関連では、昨年6月のマリナベイガーデン植物園開業やチャンギ空港の25年連続「ビジネストラベラー賞」受賞、リゾートワールドセントーサの2年連続でのアジア太平洋地域「ベスト統合リゾート賞」受賞など明るいニュースもありましたが、昨年までシンガポール観光

の目玉のひとつで成長を牽引してきた島内2か所のカジノリゾート収入も減収減益との事ですから個人レベルの財布の紐もやはりかなり堅くなっているでしょう。観光面では今後、世界最大規模の海洋水族館「マリナライフパーク」やパンダが登場する野生動物公園「リバーサファリ」の開場も予定されていますので環境好転に期待したいと思います。

一方、シンガポール人の日本への興味は食を中心に根強いものがある様で、シンガポールのお金持ちは1泊2日の強行軍で家族を連れて築地にお寿司を食べに行くという話も聞いたことがあります。シンガポールでも昨年は和食レストランを中心に積極的な新規出店や店舗拡大が多く見受けられました。日本文化への興味の高まりは、シンガポール日本商工会議所・日本政府観光局(JNTO)・各民間企業など皆様のご支援も受けて、日本の観光・流通・食品などを紹介する各種イベントがほぼ毎月シンガポールのどこかで開催され、日本からも被災地含む政府機関・各種企業関係者が多数来星され積極的に活動された成果だと思えます。

昨年は、グローバル低成長時代の中、IT・会計・法律などのサービス業をはじめとした多くの日系企業が、依然として比較的堅調な成長を維持するアセアン地域で新たなビジネスチャンスの足掛かりをシンガポールに居を構えて模索する動きが加速した年でもあった様に思います。

当部会では昨年、前年に震災復興支援の一環として取り組んだ「シンガポール東北親善大使」

の様な大規模な活動は実施致しませんでした。月例行事として日本商工会議所青年部との懇親を深め、NATASフェア(シンガポール旅行代理店協会主催の旅行博)参加し、サービス業を中心にシンガポールに新たに進出をされた企業の皆様との懇親を深めさらに、シンガポールの観光スポットや風習を見聞する企画を行って参りました。

当部会の特徴は会員企業数の多さ(会員の約30%は個人会員)と、構成会員企業の業種が多様なことです。従いまして、会員の皆様すべてが満足される活動を十分に実施出来ている訳ではありませんが、本年も部会活動に関する皆様のご希望も伺いながら、会員相互の交流機会、「観光・流通・サービス」を切り口とした日星間の交流促進・ビジネス支援など、会員企業の皆様のお役に立てる活動に継続して取り組んで参ります。

最後に、本年が皆様にとり、より良き一年になりますようご祈念申し上げます。

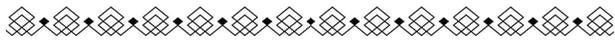
2013年月報新年号「新春特別座談会」

日本企業の最近の動向 ～チャイナプラスワン～

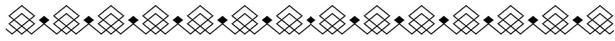


左から 前田参与、秋山副会頭、日下会頭、逆井副会頭、山根運営担当理事、河原畑広報委員長

出席者：日下 清文 会頭 (NEC ASIA PACIFIC PTE LTD)
逆井 洋紀 副会頭 (SUMITOMO CHEMICAL SINGAPORE PTE LTD)
秋山 光広 副会頭 (SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION)
山根 学 運営担当理事 (SUMITOMO CORPORATION ASIA PTE LTD)
前田 茂樹 参与 (JETRO SINGAPORE)
司 会：河原畑 敏幸 理事 / 広報委員長 (JAPAN AIRLINES CO LTD)



1. 日系企業のチャイナプラスワン戦略



河原畑: 皆様、新春1月号座談会ご出席頂きありがとうございます。季節感がないせいもあり、あつという間の一年でしたが、昨年はいくつかの大災害に見舞われた一昨年に比べますと、個人的には比較的穏やかな年であったようにも感じています。とは言え個々の企業様におかれましてはやはり新たな激動の一年であったかも知れませんね。その中で特筆すべき共通の関心事のひとつとしては尖閣諸島の領有権問題を起因とする日中の関係悪化、経済への多大なる悪影響が挙げられると思います。最近「チャイナ プラス ワン」と言うことが良く使われます。近年日本企業は豊富な低賃金労働力、魅力ある消費市場を中国に求め、またその補完的な生産体制の確立、リスク分散、または潜在的な市場に期待し、ASEANに展開するといくという考え方だと思いますが、今般の日中関係の悪化、またその長期化懸念、そして相対的な労働コストの上昇といった経営環境が悪化する中、そのような考え方に何らかの変化が起きているようにも感じられます。即ち今後も中国(チャイナ)を中心としたプラスワンのASEAN展開の継続なのか、また「プラス ワン」、ASEAN展開が補完的なひとつ程度で済むのかという問題意識です。

始めに皆様もしくは皆様の会社にとりましてこの一年はどのような年であったか振り返って頂くと共に、特に中国関係での変化などをご紹介頂ければと思います。

日下: やはりリスクというのはいろんなところで発生するんだというのが実感です。ヨーロッパの経済危機の問題もありましたし、それから中国ですよね。中国の反日スイッチというものが意図的にコントロールされているという意味で。ここ数年の間でもいくつかの問題が起きていて、このままでは中国でのビジネスは期待したほどにはで

きないかもしれないという考え方が広まっていたなか、昨年はさらにそれを実感させる出来事が起こり、非常に大変な時期にまた入って来たというのが実感です。裏を返せばアジア、それからASEAN全体に対する期待というのが非常に高まるということでもありまして、アジアを見ている者としては「チャイナプラスワン」という言葉自体、その考え方にもですが若干抵抗感がありますね。中国全体は一つの国としては非常に大きな国ですし、あと5、6年もするとアメリカの経済を超える勢いがある。そういう意味ではこれからいろいろな変化というのが出てくると思います。ただASEAN全体というふうに捉えてみると、中国にも匹敵する経済圏が一つ存在するということになりまして、具体的にはいろんな問題が出てくるとは思いますが2015年の統合を踏まえて考えますと、中国でいろいろあってもASEANで確実なことができれば、日本としてはそれなりに大きなビジネスができていくのかなと思います。さらに世界全体を見ますといまアメリカ、ヨーロッパはちょっと停滞気味な部分があるけれども、一方中南米という大きなマーケットが存在し、いまの時点でもほぼ中国に匹敵する経済規模があつて、非常に魅力的だと思います。やはり海外でビジネスをするときに、反日の中でやるのか、親日的な国でやっていくのかというのは大きな違いになってくるのではないかと思います。世界中には親日的な国が数多くあるにもかかわらず、いまは隣国中国との関係だけがハイライトされてしまっていて、何となく日本がシュンとしていてと思うんですけれども、必ずしもそうでもないし、地球規模で考えれば別に隣の国である中国、韓国と少し仲を悪いといっても、そんなに自身を卑下する必要はないのかなと思っています。

逆井: 中国への進出というのは非常に難しく、私どもはいくつか異なるビジネスを持っていますが、そのうち加工、組み立てに近いところはやはり市場も大きくかつ労働力の魅力もあるということで、10年前ぐらいから展開しています。ただ一方で、その石油化学のような装置産業では、技術・ノウハウが流出する恐れという問題や高度な



生産技術・労働者を必要とすると言った面で若干の不安感があり、ずっと躊躇している状態だったんですね。流れは中国だ！じゃあ、次の工場の立地をどうするかと思案していたのですが、ちょっとここにきてその流れも変わってしまったなと思います。加えて東南アジアについて申しますと、この地域は非常に大きな集積ができていているということで、ここを拠点にして各国にいろいろ工場を立地していますが、これはどちらかと言うともはや消費市場ですね。そういう意味ではいま伸びているところ、今後の発展が期待できるフィリピンやミャンマーといったところへの生産拠点づくりをどのようにしていくのが次の課題になっていくと思いますね。

秋山：リーマンショックに端を発した欧州の債務危機により金融関連規制が強化され、欧米の金融機関、特に欧州の金融機関ではこれから相当額の債権を整理し膨らんだバランスシートをスリムにしていかなければならない中で、グローバルに見て、日本の金融機関のステータスが相対的に上がっている状態です。すなわち現地の企業の中には日本の金融機関と取り引きを始めたいという流れが出てきておりますので、これは欧米に比べると、日本の銀行、金融機関にとっては非常にフォローの風が吹いていると思います。

日本人、あるいは日本の企業にとっては、金融機関も含めてですけれども、アジアは非常にビジネスを展開しやすい土壌であると思っています。銀行は過去70年ぐらい国際業務をやってきたわけですが、ここ6年、7年、欧米に比べて出遅れ気味だったアジアでの事業展開は、一にも二にも日

本の企業がアジア重視ということ謳っておりますので、その流れにも沿っていますし、この地域の経済高成長が背景にあると思います。いまや欧州、南米も含むアメリカ、それから中国を含めたアジアという3リージョンで比べましても、やはり人員・規模ともにアジアが最大になってきていますし、この流れはしばらく続くというふうに思います。またですね。ここへきまして、日本の企業の間でシンガポールに統括拠点を置いてという流れが顕著になってきています。

中国に関して、これはまず日本の製造業が中国に出て行った要因というか、背景というのは、日中国交が正常化したあとですね。円高に見舞われる中で安い労働力を求め、コスト削減ということで中国にまず製造拠点を設けて、これが華南で言えば、委託加工という制度に乗っ取ってでした。中国で生産した物を香港経由で世界へ輸出していくというのが立ち上げだったと思います。これが2000年代に入ると中国を消費市場として捉え出したのですが、いろいろな法規制があつてですね。その委託加工モデルのままでは中国国内では販売ができないということで、2000年代中盤以降独資化に動きました。

独資化ということは、委託加工で委託生産してきた工場を自ら買い取って、中国の現地法人として中国で地に足をつけて、そこで生産したものは中国国内でデリバリーできるという仕組みです。2005年にも日中の問題が起きましたし、今回もですが、その度にチャイナプラスワンということで、2005年には皆さん、ベトナムに注目されましたけれど、2年、3年経ちますとまた中国へ戻ってくるというか、回帰するという流れが当時はありま



した。今回はまだどういう流れになるのか判断するというのは早急だと思いますが、我々が国内、あるいはこちらでお客様から伺っている話を総合しますと、現段階では中国から撤退というのはなかなか考え難いけれども、中国への新規投資をアジアの方へ振り向けるという判断をなされる企業は多いのかなと感じています。やはりですね。そうは言っても、じゃあ、すぐに生産拠点を移せるのかという問題が次に出てきます。やはり中国は巧妙と言ったらいいのか、かなり細かなところまで日本の企業の生産や物流を組み込ませられますね。従って、中国で生産をやめてこっちへすぐ移そうといってもそう簡単にできないような仕組みが既に出来上がっていると聞いております。その辺にはやはり中国の国益というものがかなり根深く背景にあるんじゃないかなというのがいま感じているところです。

山根：商社の観点から2012年をちょっと振り返りますと、中国、それにインドの経済に対するプレキ感と言いますか、中国との取引での昨年1年の物量・取引額ともにこれは特に素材を中心に落ち込みを感じます。またインドに対しても、ご存知のように為替の問題もあり昨年はやはりスランプだったなと思います。期待感が強い二つの国だっただけに、アジアへの影響度という意味で中国というのは強いなという感じはあります。特に中国の場合新たな投資についてどういう考えがあるかと、これはさつき秋山さんがおっしゃった通りでありまして、2005年、2006年からのいわゆる反日運動にスイッチが入ったときに、ベトナムを中心にして、いわゆるこちらへのアジア側への進出という動き



がありましたし、一旦はこれまた中国への回帰現象というのも一部あったと思いますけど、やはり今回のこの尖閣列島という領土問題ということで、結構もう新たな投資は中国では？という動きは、非常に日系企業に強いですね。

投資ということであればやはりインドネシアだと思います。加えてフィリピンが私自身は非常に面白いかなと思います。ご存知のようにフィリピンというのはエレクトロニクス関連産業だけでGDPの40%、50%ぐらいの規模、そういった意味ではそのような産業を中心にしてフィリピンがどう化けてくれるかなというのがアジア全体の総合力を上げていくひとつの鍵になるのではないかなと、個人的には思っております。ここにきてやっぱり経済の活性化というのは私も何度か出張しておりますけれど感じますし、インドネシアはもともと自力のある国ですね。キーは政治ということでしょうね。

前田：去年の傾向についてはみなさんご指摘の通り、シンガポールをはじめASEAN諸国とのビジネス、投資が拡大し、ブームの様相を呈していたということです。私どもの事務所を来訪されたお客様の数は、過去最高でした。昨今の特徴は、中小企業さんの割合が増えたこと、サービス業の割合が多いこと、従来の大都市圏中心から地方の方が増えたことです。

シンガポールへの投資では、サービス業のなかでも飲食、小売りとともに、ITソリューション、人事管理・人材育成、会計・税務・法律など、ビジネスサポート関連の企業が非常に増えてきています。また最近では、日本にあった海外事業関連部門がそのまま切り出されて、こちらに移ってくる動きが出てきています。さらには、日本の外資系などで働いていた、英語に不自由しない所謂「グローバル人材」の方々がこちらに転入して働くというケースが急増しています。

中国については、中国国内に立地する日本の製造業の方々の活動のパターン、すなわち輸出と内販の比率が明らかに変わってきています。私どもの調査によりますと、2006年の段階では輸出対内販の比率はほぼ半々だったところが、11年は



内販率が6割を超える一方、輸出は30%台に低下し、生産は国内向け供給拠点の傾向を強めています。

逆にASEANは、中国を除く世界市場、あるいはASEAN域内市場向け生産というウエイトが高まっているという意味で、中国に対しては独立、あるいは二極化していると言えるでしょう。さらにはASEAN諸国のどこかを中心とした「プラスワン」、もしくはASEAN域内に複数の生産拠点を持つ方向に進むでしょう。

河原畑：中国にある現地法人は中国国内向けの生産に移行し、輸出のための生産はやはりコスト競争力を維持するためにより労働コストの低い国へ向かうということになりそうですね。そしてその中ではやはりASEAN、現在のタイに続き、インドネシア、ベトナムなのではないでしょうか。それから、カンボジアが出てくるのか、ミャンマーが出てくるのか、あるいは先ほど出ましたフィリピンなのか……。恐らくチャイナプラスワンと言うよりは、既に中国の内需の広がり・人件費上昇を背景にチャイナアンドXXに変化している感じなのではないでしょうか。

日下：本当その通りですよ。チャイナに付随するような意味でASEANの中の一つの国をプラスワンというのには私は違和感があります。やはり中国はおっしゃるように、もう本当に巨大なマーケットなので、現地で生産販売していくモデルですね。中国独自モデルというものにやっぱりならざるを得ないというふうに思います。だから、同じようにASEANならASEAN、アジアならアジアもまた求

められるものは違うというふうになってくると思いますね。もう多分これからのキーワードというか、これからの流れで言うと、やはりひと言で表すならば現地化なのですが、現地主導型に変わっていくということでしょう。

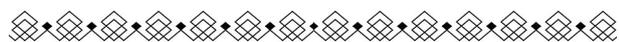
山根：流れとしてですが、多分3年から5年のスパンで見ますとこの内需というのは、人口プラスやはり民度の上がり方というのは我々の想像域を超えて上がってきますので、どんどんこのアジア全体がやはりその内需、特に東南アジアは内需を狙う市場に変わってくると思います。我々は実は、力を入れているのがメディアです。メディアの分野では日本国内ではそれなりの成功体験を持っていますが、いろいろと調べてみると面白いのは、それぞれの国、内需・内販といっても、数多くのパターンがあるんですね。実は我々はもうeコマースの商売をインドネシアからやると決め、立ち上げましたけど、これは我々もそうですし、製造業さん、サービス業さんはもっとそうだと思いますが、そこで何かを売るとかというかなりソフィスケートされた販売戦略を持っておかないと成功しないだろうなということなんです。ただそこで成功すると、他に負けない強力な基盤を築けるだろうなという期待感が出てきています。ですから内需を狙うために企業は本気で先ほど申し上げたソフィスケートされた考え方で内販に取り組んでいくことがより重要となってきている。そういう時代が多分アジアでもこの3年から5年は来るだろうなと思いますね。

前田：中国とASEANの関係でいきますと、製造業に関して言えば、輸出拠点化するための要因や判断材料は二つあると思います。一つは労働コストであり、もう一つは広義のインフラといえますか、もっぱらサプライチェーンがどういう形になっているかということ、立地の優劣が決まるということです。アパレルや雑貨など、とにかく安いコストで物を作るという分野であれば、もはや中国からカンボジア、あるいはその先のバングラデシュに製造拠点は移りつつあります。サプライチェーンについては、タイでなぜ洪水の後に日本企

業が出ていかないのか。タイを中心としたサプライチェーンを飛び出すことは、タイに残るよりメリットが少ないという判断に立たざるを得ないという意味で、やはりタイが依然として輸出拠点、あるいはASEANの中の生産拠点としての優位性があるということだと思います。加えて昨今の傾向として、所得が上がっているが故に、大きなマーケットには内販型の企業がどんどん入ってきていて、インドネシアというのは輸出型とのミックス、あるいはもはや内販型が多くなりつつあるというのが、ASEAN内での立地の構図だと思いますね。



2. さらなるリスク分散



河原畑: と言うことは、要はチャイナプラスワンというのはチャイナを中心とした話ですが、今後はASEAN諸国のどこかを中心としてプラスワンもしくは複数の生産拠点を持つというふう展開はあり得ないのでしょうか？

秋山: それはありますよ。それはリスク分散という考え方は自ずと出てくると思うですよ。昔コンピューターがこれだけ発展していなければ、なかなか製造拠点を分散させてというのは難しいと思いますけど、これだけネットワークが発展していますし、ロジスティックも昔に比べたら数段改善しているということを考えれば、一点集中じゃなくても良いですね。特に大企業の場合はリスクを分散させるという意味からも複数の拠点に、別にチャイナプラスワンというよりはアジア全域で見て展開するという事は考えられると思います。

逆井: リスク分散には時間的なリスクもあるのだと思います。単にどこの地域で何か災害が起きるから云々ということだけではなくて、やはりその国ごとによってその発展のスピードが違いますよね。そうすると、集中化した方が良いものもある一方で、先を見越して分散できるものだったら分散しておいた方が良いものもあると僕はあると思うんで

すよね。やっぱり時間的な変化、例えばその国の製造コストの上昇ですが、上がり具合というのはそれぞれ違うので、その時々でベストミックスを目指していくと、結果的に分散するということになるかも知れません。

河原畑: うまくまとめられるか自信がありませんが、要は過去洪水等の自然災害的なリスクが顕在化し、サプライチェーンの寸断が起き、もともと経済論からいって経営資源を集中化させて効率化を図ってきた生産基地をある程度分散させる必要が出てきた。また今般日中の関係悪化が顕在化し、多大な経済的被害をもたらした。この二つの事象が企業のASEAN地区への新規展開・機能拡充をさらに加速させてきている。そして巨大な消費マーケットでもある中国国内では内需/内販型の製造にシフトし、こちらでは今後の内需も期待もあるが、現時点では主として輸出型の製造を担う。そして成長の度合いも加味したリスク分散を図るため、域内多国的な生産形態を模索する。ちょっとメーカーさんの話ばかりみたいですが…。加えて申し上げれば、2015年のASEAN経済連携はそのトレンドを更に増幅させていくでしょうし、恐らくその中でここシンガポールに存在する多くの地域統括会社がより効果的に機能してくるということでしょうか。

話しは変わりますが、先程内需/内販というお話がありましたが、やはり日本国内とは異なるこの市場ではそのやり方などはかなり変えざるを得ません。今後市場規模も大きくなり、軽視はできなくなる中で、ただ日本で受け入れられた日本人にとって良い物を持って来れば売れるというような世



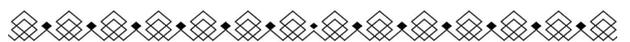
界ではなくなってきたのではないかと思います。

山根：シンガポール政府は前からそういうことを見越して、いわゆるアジアブランドを作りなさいと、そこを考えるのはこのシンガポールで考えなさいと奨励しています。米国で売られているAブランド、欧州で売られているBブランドをそのままじゃなくて、Cブランド、C級とかそういう意味じゃなくて、違うブランドをここで作りなさいと。

日下：そうですね。だから、我々メーカーに対しても、ここで研究開発機能を持つということに対してもものすごく支援してくれますよ。本当にそこまでやってくれるの？というくらいに。日本では多くの研究者は日本のマーケットしか知らなくて、かつ日本語しか話さないんですよ。ちょっと英語を話せるという人はいますが、本当にマーケットの中に入っていけるような人はなかなか居ませんね。ここは世界中から、「シンガポールは面白そうだ」とその領域の専門家が集まって来ていて、結構面白い物が作れるとか、そういうことが可能だなと感じさせていますね。そのような人材を得られるということが我々にとっての一番大きなメリットとも言えます。これは製品開発のみならず、経営の仕方もそうかもしれないですけどね。日本人中心でやってきてしまったところの弊害というのが結構出てきてしまっていて、それを変えていくためにやはり日本人以外の人の能力、これをどうやってうまく使えばいいか。でも、日本でという、日本語の壁があって、本当に優秀な人はなかなか来たがらないということがある。学会にちょっと来たりとかはするけれど、日本で暮らすと生活費が高いからというふうになってしまいますよね。でも、シンガポールってそういう抵抗感がなくて、人種的な差別感もあまりないので、いろんな国の人間がここに来て、そのチャンスをもにしようとする。ここで優秀な人材を捉えるということは結構可能じゃないかな。そういう人を使えば、従来できなかったようなことでもできるようになる。そういう意味で言うと、我々にはここは結構魅力的な場所っていうふうに見えるんで

すね。

秋山：我々もローカル人材の登用というのは、別にそれはASEANに限らずなんですけど、一つのネックというか、今後の大きな課題で、これはかなり将来に向けての岐路に立つようなところだと思っているんですよ。やはり日本の企業、銀行は一番その辺は保守的だと思いますけど、70年、80年、グローバルビジネスをやりながらも、多分大なり小なりどこも日本の企業の特徴だと思いますが日本人が意思決定をして、ナショナルスタッフに働いてもらうという構図がずっと変わっていない。今後これをどう変えられるかということなのですが…。例えばその日本にいる外資系企業ですと、かなり日本人のトップを採用していますよね。それがまだ我々にはできてないんですよ。



3. 2013年のキーワード



河原畑：確かにいろいろ考えなくてはならない課題がありそうですね。

では次にこれまでのお話し等を踏まえ今年2013年、特に気になっているキーワードを頂きたいと思います。またそれを選んだ理由も簡単にご説明下さい。

山根：やはり中国との領土問題。政治問題というのは両方の首脳がどれだけ本件を棚上げできるかということだと思うんですよ。1972年に田中首相と周恩来が話したときに、日本側からこの尖閣問題を持ち出しましたが、周恩来はもちろん自国の経済振興ということが第一だったこともあり、やはりこれはもう棚上げしようとはっきり言われてる中で、その7年後の79年に今度は園田外相が行って今度は鄧小平と話したときに、鄧小平もまったくこれは棚上げしよう。これはもう次の次の世代ぐらいに考えさせようとはっきり言っていて、つまり日本の実効支配を認めてくれていた訳ですね。それをもう極めて子供っぽい対応でこじれ

てしまった訳です。早く仕切り直しをしないとしばらくは解決しないですよ。領土問題というのは。お互いナショナリズムがここまで高揚してしまっていますから。私はやっぱりこの問題を解決しないと、なかなかお互い拳の振り下ろしどころがないので、ますます経済劣化が生じてきて、これは結構、大きな被害がアジア全体にも及ぼされるなどという危機感がありますね。

逆井:もう十分にご指摘されておりますが、特に我々が所属している製造業、化学産業では、やはり昨年から明らかになってきた従来型のビジネスモデルがもう通用しなくなってきたというのがはっきりしたというのが昨年の総括です。今年はいろいろな企業が多分方向転換をする最初の年になってくるのかなと思っています。アジア、特にこのASEANというところで言うと、巨大なマーケットでもあり、かつ日本の企業を受け入れてくれる親日的な雰囲気、若い労働力、こういうものが備わっていますから、マーケットとしてもこれから十分ポテンシャルはあると思います。日本の従来のモデルから新しいモデルに切り換えをして、それがここにうまく根付くことができれば日本の企業ひいては日本産業というのも十分まだ再生して新たな未来に進むことがきっとできるだろうと思っています。それを実現できる場所はきっとアジア、このASEANじゃないかなと思っています。

前田:同感です。キーワード的に言うと、日本にとって「ASEANの時代」でしょうか。これまで日本産業界は、ASEANとの連携・一体化よりも中国・韓国への関心が高かったと思います。昨



年11月の東アジア・サミットで「RCEP:Regional Comprehensive Economic Partnership」の交渉開始が決まりました。TPPへの参加が不透明で、日中韓FTA交渉も領土問題から難航が予想される中、ASEAN+6という経済連携の枠組み造りが正式に承認され動き出すというのは画期的です。人口減少の日本にとって、将来の成功シナリオはASEANと一体化して成長することしかないと思います。このたび改めて「中国は恐い」と知りました。ヨーロッパ、アメリカというのは遠過ぎるでしょう。親日国であり、特に製造業を興して発展しようとしている国の集合体ですから、日本はお手本として自ずと尊敬を集めるわけで、そういう国々と組んで先に進むしかないだろうという意味で、「ASEANの時代」の到来なのです。少しプロパガンダっぽいところもありますけど。

秋山:社内で私がよく言うのは、日本の古い発想、つまり昔の占領政策(大東亜共栄圏)みたいに結局全て日本人がコントロールすると言ったことではなく、新しいやり方に変えていく必要があるということです。またASEANはやはりポテンシャルは高いし、日本・日本人に対してもかなり親和的なのでやりやすいと思いますが、逆に、ASEANから日本へ是非人を呼び込むということも一方でやらないといけない。このままではなんとなく一方通行で終わっちゃう感じがします。

前田:一体化というのはまさにそういうことですよ。

逆井:マレーシアでしたっけね。ルックイースト政策を見直すってありましたでしょう。もういまが最後のチャンスじゃないかなと思っているんですけどね。日本にとって。一般に対日感情が非常によくて、まだ日本をリスペクトしてくれているうちに、やっぱりこちらへきちんとプレゼンスといいますか、関係をきちっと作って一緒に歩いて行くということをやっていないといけない。やっぱりいまが最後のチャンスだと思いますね。



河原畑：今年は日本ASEAN交流40周年という節目の年です。ただ長年こちらでご経験なさっている方々は別として、ASEANって何だ？ASEANってどこだ？どこがへそになってるのかな？というのが一般的な日本人の感覚のようにも感じますね。国も異なり、宗教も違う、民族も…。一体化と言われても…。というのが正直なところですね。確かにかなり重要な示唆だと思いますし、今後どういう形で具現化して行くのかということでしょう。その中で今後数年経済が多少スローになることはじっくり考えるという意味では案外良いことなのかも知れませんが…。

秋山：かなり外交手腕が問われる局面なのでしょうね。きっと日本国としては。

河原畑：少々暗めの話が多くなった感がありますが、これは新春号の特集でもありますので、これはいけそうだというものはございませんか？

秋山：相変わらず、非常にソフト・文化面は良いんじゃないでしょうか。食生活から始まって、アニ

メやJポップもそうだし、そういう文化、芸能、食生活に絡んだものは依然ブームが続いていますよね。

前田：こちらに日本企業・日本人が出てくることは、基本的には明るい側面だと思います。空洞化はいつも問題になりますが、学術的には、製造業の海外投資は、国内のマザー工場の生産能力や研究開発能力が高まる結果、実は足腰が強くなっていっていると言われていています。もはや日本は貿易で稼ぐのではなく、貿易赤字を所得収支で埋めて経常収支を黒字化する国になりました。外へ出て行って稼ぐしかないということです。

秋山：でも、是非もっと多くのアジアの人が日本へ来てもらいたいですね、観光客でもいいから。だって、いま日本への年間訪問客数は七、八百万ですよ。香港でも二千数百万、もっともっと呼べるような気がするんですけどね。

山根：我々がスポンサーをしていますジャパン

アワーという番組がありましてね。あれは結果としてというか、もともとそれも目的なのですが、ものすごく日本への観光客誘致になっていますね。放送開始から21年になりますが、おっしゃいますようにものすごく評判がいいんですよ。やっぱりみなさん日本が好きなんですよ。それで、だいたい日本に来られる人のもう8割、7割がリピーター、リピーターというのも2度、3度、もっと行く人もいますしね。ですから、これからはシンガポールも続けますけど、我々他の国でもやっていきます。本気になれば日本へもっとたくさん呼べますよ。

河原畑：アジアは人口も多くかつ今後の所得レベルの向上を背景に、文化・食・気候等に対する憧れも強く、今後もかなり期待できる市場だとは思いますが。ただ現状はビザの緩和などで、タイ・インドネシアの観光客数は増加しているものの、円高・一昨年の東日本大震災、原発事故とその後対応でここシンガポール、韓国は未だに震災前の2010年対比で8割ぐらいに留まっています。また中国はご存知の通りです。観光客獲得競争では韓国、中国そして台湾が強力ライバルとなってきたと共に、ユーロ安で去年はヨーロッパ行きの観光客がかなり伸びました。業界の者として期待感強いですがそれ程楽観視はできませんね。とは言えビジネス需要はどちらかと言えば日本のお客様の往来が多いですが、依然好調です。

ビジネス・観光共に相互に行き来が増え、相互信頼を基礎とし良い意味で多くの分野で依存し合える関係、すなわち先ほど示された更なる「一体化」を深めることこそが日本の再成長のための重要なキーワードとなってくるのでしょうか？

少々中途半端な形となってしまいましたが、お時間が参りましたので終了したいと思います。本日は長い時間お付き合い頂き、有難うございました。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

広報委員からのご挨拶

JCCI広報委員会 委員長・JCCI理事
Japan Airlines Co.,Ltd.
Vice-President/Regional Manager

河原畑 敏幸



謹んで新年のお喜びを申し上げます。いつもJCCI広報誌「月報」をご愛読頂き、誠に有難うございます。広報委員会メンバーを代表して厚くお礼申し上げます。

昨年は多くの国でその指導者が選挙という洗礼を受け、財政再建・新たな成長に向け第一歩を歩み始めた年でした。しかしながら欧州の信用問題、中国の成長鈍化、米国の停滞等々、世界経済は一昨年にも増し不透明感を漂わせ、ここシンガポールも同様、四半期ベースのGDPが前年同期比でマイナスに転じる場面もあり、世界経済を牽引するASEAN諸国にも少なからずその影響を与えたと言えます。恐らく今年もこのような状況が続くと考えられ、主要先進国が財政問題解決のための「道筋」を明確化し、かつ経済成長戦略の立案とその早期実施といった一見矛盾する経済・財政政策を遂行しない限り、残念ながら早期の世界経済の力強い再生はあり得ないのではないかと思われます。

わが母国日本においても、「ねじれ国会」という言葉に象徴されるように、震災復興・原発再稼働問題、経済・財政問題等の主要な課題が事ある毎に「政局」というプラットフォームの上で論じられるのみで、結局引き換え論的な「決断」により年末総選挙の実施、一向に進むべき力強い政治の方向性が見えぬままの年明け(ちょっと言い過ぎ?)。他方、経済は、象徴的に言わせて頂ければ、長期化する円高等による世界市場での競争力低下や内需の低迷が企業業績に反映され、「技術立国、日本」という自負に、少々の敗北感?を味あわさ

れた年でもありました。加えて中国・韓国との領土問題の発生は二国間の経済活動・人的交流等に悪影響を与えたばかりでなく、何か「より強い日本・リーダー/変革」を切望する機運が急速に高まってきているようにも思えます。私事ですが、最近時に触れシュンペーターのいう「創造的破壊」やドラッカーの説く「イノベーション」という語句が頭の中を廻っております。さて今年には新政権の下、どのような年になるのでしょうか?

広報誌「月報」は1970年1月に創刊され、昨年の7月号で記念すべき500号の発刊を迎えました。特別号として創刊当時から現在に至る「月報」とシンガポールの発展の歩みを重ね合わせる形での解説、手書き・ガリ版印刷での発行であった創刊号の掲載等、部分的ながら40余年の長きに亘る歴代広報委員会メンバーの活動をご紹介させて頂きました。表紙の変遷を眺め、半世紀ほどの歴史ながらこのような経済発展を遂げたシンガポールを「奇跡」と思うのは小生だけではないでしょうか?

本年も広報委員会メンバー一同、力を合わせて更に充実した「月報」の発行を努力して参ります。何卒ご指導・ご鞭撻賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

本年の皆様のご多幸とご発展を祈念して新年の挨拶とさせていただきます。

広報委員が選ぶシンガポール10大ニュースで 2012年を振り返る

毎年、月報12月号では月報の編集を担当している広報委員がその年の10大ニュースを投票で選んで紹介してきました。今年は少し趣向を変え、広報委員が選んだ10大ニュースをキーワードに2012年を振り返ります。

広報委員が選ぶ

10大ニュース

- ・ガーデン・バイ・ザ・ベイ正式開園
- ・外国人雇用規制、強化へ
- ・マリーナベイに国際クルーズターミナル開港
- ・F1シンガポールグランプリレース、2017年まで延長へ
- ・格安航空専門「バジェット・ターミナル」閉鎖
- ・内閣改造、第四世代指導者候補を抜き
- ・GDP成長、減速傾向が継続
- ・日系企業など多国籍企業、地域統括本部設置や本社機能の移転の動き継続
- ・マーライオン、40歳で修復工事
- ・ロンドン五輪、卓球個人銅、52年ぶり快挙



2006年に開業した格安航空専門のバジェット・ターミナルは、格安航空の予想を上回るほど大きく伸びに施設が対応できず今年9月25日、わずか6年で閉鎖されました。代わりにチャンギ空港ではより第4ターミナルの建設が2013年に始まり、2017年に完成する予定です。

一方、企業にとって最大のトピックといえば、外国人の雇用規制の強化でしょう。2010年から、外国人の就労パスの発給基準が徐々に厳しくされ、低熟練の外国人労働者の雇用税が段階的に引き上げられる

カジノ付設型総合リゾート(IR)効果により2年連続で年間外国人来訪者数が過去最高を更新して好調なシンガポールの観光業界では2012年、新しい観光スポットのオープンなど観光がらみの話題が10大ニュースの多くを占めました。

6月29日にIRの一つ、マリーナ・ベイ・サンズに隣接して、都市型新植物園「ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ」がオープンしました。10億シンガポール・ドルも投じて建設したという巨大な庭園内には、地中海気候の環境のなかで花々が咲き乱れるドームと、高山植物や滝があるドームの2つの大型ドームのほか、巨大な人工の木「スーパーツリー」が設置され、マリーナ・ベイ・サンズと並んで都心部の街並みを彩る新たな顔となっています。

また、同じマリーナ地区に10月22日、新しいクルーズ船センター「マリーナ・ベイ・クルーズセンター」が開港しました。このクルーズセンターのオープンで、超大型クルーズ船の入港もできるようになり、クルーズ観光の盛り上がり期待されています。そして、盛り上がるといえば2008年から毎年開催されているフォーミュラーワン(F1)自動車レースの5年間の開催権延長が決まりました。これで少なくとも2017年までは、夜間に都心の高層ビル街を走るという世界唯一のF1レースを楽しめることとなりそうです。

さらに、新しい観光施設だけでなく、シンガポールの観光アイコンの元祖「マーライオン」が今年で40歳を迎えるのを機に、お化粧直しされ、誕生日の9月15日にすっかり若返ったマーライオン像がお披露目されました。

好調な観光を支えているのは、近年、好調な経済成長を背景に所得向上の著しい中国やインド、インドネシアなどアジアからの観光客ですが、こうしたアジアの新興国からの観光客の需要で急速に伸びたのが格安航空。チャンギ空港に

など、それまで大きく門戸を開いていた外国人労働者の受け入れが、一転して抑制されています。それまでの人口拡大による成長から、労働生産性の向上で経済成長を目指すという経済戦略の転換に基づいて、2012年も外国人の雇用規制の強化は続きました。しかし、タイトな雇用市場で必要な人員が確保できないという声も多く、外国人の雇用規制は、2013年もホットなトピックとなりそうです。

また、経済面では、失業率が低く雇用市場はタイトなもの、世界経済の低迷を受けて、2012年のGDP成長率は政府の予想では1.5%程度に留まり、2013年も1.0~3.0%と低い成長が見込まれています。しかし、先進国が低迷する一方で、成長が著しいアジアでのハブという位置付けのシンガポールには近年、海外からの企業進出ラッシュが続いています。また、アジア市場の重要性が増すなかで、事業体制を見直す企業も増えており、日系企業を含む多国籍企業が統括本部を設置する動きが2012年も継続しました。

そして政治の話題では、8月1日に内閣が改造され、第4世代首相候補と見られる若手が大臣代行に昇格しました。内閣改造は、2020年までの首相交代を睨んだ動きとされています。また、今年には2030年の新しいシンガポールの姿を形作るための国民を巻き込んだ大討論会「ナショナル・コンバゼーション」が行われ、経済、そして政治でも転回点を迎えたシンガポールが、将来のあるべき姿について模索する年となりました。

最後に2012年の明るい話題といえば、ロンドンで開催されたオリンピックで、シンガポールが卓球女子シングルで銅メダルを獲得しました。シンガポールが個人種目でメダルを獲得したのは、1960年以来、52年ぶりという大快挙です。そして、今年最後を締めくくる明るい話題は、やはりパンダでしょう。中国から国交樹立20周年を記念して贈られたパンダ2頭が11月29日、一般公開されました。パンダが暮らす新しい動物園「リバー・サファリ」は、2013年2月に開園します。パンダを新たな観光大使として、2013年もシンガポールの観光業界が盛り上がる話題が続くそうです。



写真提供: Wildlife Reserves Singapore

2013年もまた、日系企業が関心ある幅広い話題を、この月報を通じて皆さまにお伝えしていきたいと思っています。また、新年も月報を引き続きよろしく申し上げます。

このほか、番外ランキング

- ・中国国交樹立 20 周年でパンダ
- ・人口 531 万人に
- ・個人情報保護法成立
- ・英王子夫妻、公式訪問
- ・省庁再編、文化・コミュニティー・青年省を新設
- ・世界最大級の水族館マリンライフ・パークがオープン
- ・スクート、ジェットスターなど格安航空の日本便就航
- ・タイガー・ビール、ハイネケンの完全傘下に
- ・MRT の不通相次ぐ
- ・サークルラインの延長線開業
- ・邦楽アーティストのシンガポール公演相次ぐ
- ・チャンギ空港、成田空港と姉妹空港に

JCCI広報委員会



- 🌸 委員長 河原畑 敏幸 JAPAN AIRLINES CO., LTD

- 🌸 幹事長 中島 茂 NTA TRAVEL (Singapore) Pte Ltd

- 🌸 委員 津田 律子 DREW & NAPIER LLC

- 🌸 委員 西野 雄介 EN WORLD SINGAPORE PTE LTD

- 🌸 委員 川岸 貴浩 ERNST & YOUNG

- 🌸 委員 梶山 宗嗣 FUJI OIL(S) PTE LTD

- 🌸 委員 三宅 康雄 HAKUHODO COMMUNICATIONS ASIA PTE LTD

- 🌸 委員 大友 一成 HITACHI ASIA LTD

- 🌸 委員 安田 雅子 INTERTRUST

- 🌸 委員 神谷 智宏 ISETAN (SINGAPORE) LTD

- 🌸 委員 土田 和寛 ITOCHU SINGAPORE PTE LTD

- 🌸 委員 足立 基成 JAPAN NATIONAL TOURISM ORGANIZATION SINGAPORE OFFICE

- 🌸 委員 本田 智津絵 JETRO SINGAPORE

- 🌸 委員 高橋 哲 KAJIMA OVERSEAS ASIA PTE LTD

- 🌸 委員 瀬崎 智史 KDDI SINGAPORE PTE LTD

- 🌸 委員 國井 大輔 MITSUBISHI CHEMICAL SINGAPORE PTE LTD

- 🌸 委員 東間 譲 MITSUBISHI LOGISTICS SINGAPORE PTE LTD

- 🌸 委員 門田 大輔 MITSUI FUDOSAN (ASIA) PTE LTD

- 🌸 委員 土屋 浩司 PANASONIC ASIA PACIFIC PTE LTD

- 🌸 委員 竹腰 雄二 THE BANK OF TOKYO-MITSUBISHI, UFJ LTD

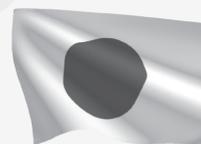
- 🌸 委員 中村 綾子 THE TOKIO MARINE & FIRE INSURANCE CO (S) PTE LTD

- 🌸 オブザーバー 門伝 好司 JIM & HALL'S PTE LTD

(敬称略、会社名アルファベット順)



Singapore Events Schedule 2013



January



1st New Year's Day
24-27 Art Stage Singapore

February



10-11 Chinese New Year
春節(中国暦正月)
22-24 NATAS TRAVEL FAIR

March



9-12 International Furniture
Fair Singapore 2013/30th
ASEAN Furniture Show
29 Good Friday / 聖金曜日

April



9-11 SEA ASIA
24-25 HR Summit

May



1st Labour Day
労働者の日(メーデー)
7-9 LEDTEC ASIA 2013 -
Singapore Int'l LED/
OLED Technology
Show 2013
24 Vesak Day
釈迦誕生祭(ベサック・デー)

June



18-21 CommunicationAsia 2013

July



18-21 Singapore
International
Jewellery Show

August



8 Hari Raya Puasa
ハリ・ラヤ・プアサ
(イスラム断食明け)
9 National Day / 独立記念日

September



20-22 Singapore GP

October



2-3 Asia Pacific
Recruitment Summit
15 Hari Raya Haji
ハリ・ラヤ・ハジ(メッカ巡礼祭)
28-1 Singapore International
Energy Week
NATAS Travel Fair

November



3 Deepavali (Diwali)
ディーパバリ
(ディワリ/光の祭典)

December



25 Christmas Day

アジア大洋州主要国：2013年経済見通し

MITSUI SUMITOMO BANKING CORP., TREASURY UNIT (SINGAPORE)
SENIOR ECONOMIST

吉越 哲雄

アジア大洋州経済はすでに底打ち？2013年前半は緩やかな回復、後半に成長が加速する方向か

まず、日本を除くアジア大洋州経済の最近の動向を見ておこう。図表1は筆者が域内経済全体の動向を見るために使用しているSMBCアジア大洋州景気動向指数の前年同期比の成長率を図示している。

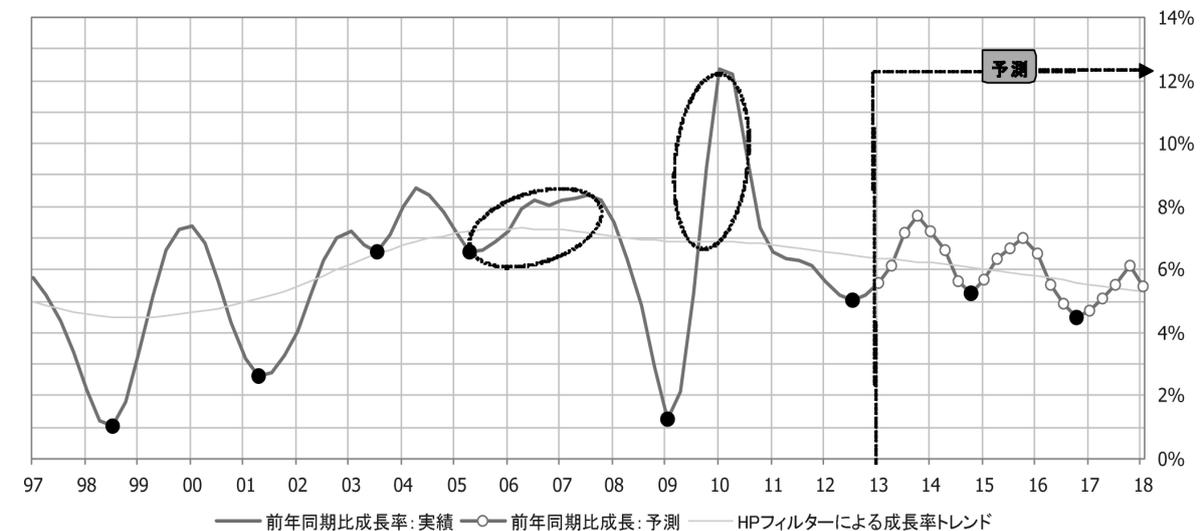
2008年9月の米大手証券会社リーマン・ブラザーズ破綻直後は、「アジア新興国経済は先進国景気からディカップリングしており、大きな落ち込みとは無縁だ」とする無理筋の議論もあったが、実際は貿易チャンネル、金融チャンネルの双方から打撃を受け、2009年前半にかけて域内経済は大きく減速した。その後は、2010年前半にかけて「V字型」の回復を示現するのだが、ここでは大きな落ち込みの反動だけではなく、恐怖に駆られた各国・地域の政府・中銀が大規模な財政支出と大幅な金融緩和を矢継ぎ早に打ち出し、短期間で景気を大きく持ち上げたという側面が大きい。最

大の財政刺激策を実施したのは名目GDPの12%に相当する4兆元もの対策を打ち出した中国である。

こうした刺激効果が比較的早い時期に剥落し始めるのは当然であり、SMBCアジア大洋州景気動向指数は2010年末にかけて、成長率トレンドに向かって鈍化して行く。これは、ある意味、巡航速度に回帰する動きと見ることができるが、同指数は、ペースを緩めながらも、2012年第3四半期にかけて鈍化を続けた。この間延びた減速には、欧州債務危機、米景気回復の一進一退、東日本大震災やタイの洪水に伴う域内サプライ・チェーンの混乱等、外的要因が作用していたことは言うまでもない。

さて、かなり長引いた鈍化であったが、筆者は域内経済全体としては、2012年第3四半期(7~9月期)にすでに底を打ったと判断している。この先は、2013年末にかけて比較的堅調な回復が期待できそうだが、同年上半期までの成長は緩やかなものに留まるだろう。

図表1：SMBCアジア大洋州景気動向指数



Source: SMBC Singapore

中国経済はインフラ投資を軸にすでに底打ちしたと見られるものの、米国の「財政の崖」問題については、包括的合意(Grand Bargain)に至るか、あるいはその方向性が見えてくるには年明け

後ある程度の時間が必要であろうし、欧州経済の底打ちは2013年上半期となる見込みで、域内輸出の本格的回復は下半期にずれ込みそうだからだ。従って地域内経済の成長が加速するのは年後半からと見る。

図表2: 日本を除くアジア大洋州主要国・需要項目別実質GDP前年同期比成長率・同寄与度

| | | 中国 ⁽¹⁾ | | | 韓国 | | | インド ⁽²⁾ | | | 台湾 | | |
|--------------|------------|-------------------|-------|-------------------|--------|--------|-------------------|--------------------|------------|----------------------|---------|-------|-------------------|
| | | 2010 | 2011 | 2012 Jan.-Sep. | 2010 | 2011 | 2012 Jan.-Sep. | 2010/11 | 2011/12 | 2012/13 Apr.-Sep. | 2010 | 2011 | 2012 Jan.-Sep. |
| 実質GDP | 成長率 | 10.4% | 9.3% | 7.7% | 6.3% | 3.6% | 2.2% | 9.6%(8.4%) | 6.9%(6.5%) | 3.4%(5.4%) | 10.7% | 4.0% | 0.5% |
| | 寄与度 | - | - | - | 5.7% | 1.8% | 1.2% | 9.9% | 5.9% | 2.9% | 8.3% | 0.3% | -0.5% |
| 内需 | 成長率 | - | - | - | 4.4% | 2.3% | 1.4% | 8.1% | 5.5% | 3.8% | 3.7% | 3.0% | 1.5% |
| | 寄与度 | 3.8% | 4.8% | 4.2% | 2.3% | 1.2% | 0.7% | 4.8% | 3.2% | 2.3% | 2.1% | 1.6% | 0.8% |
| 民間消費支出 | 成長率 | - | - | - | 2.9% | 2.1% | 3.8% | 7.8% | 5.1% | 8.8% | 0.6% | 1.9% | 1.2% |
| | 寄与度 | - | - | - | 0.4% | 0.3% | 0.6% | 0.9% | 0.6% | 0.9% | 0.1% | 0.2% | 0.1% |
| 政府消費支出 | 成長率 | - | - | - | 5.8% | -1.1% | -0.2% | 7.5% | 5.5% | 2.3% | 24.0% | -3.9% | -6.1% |
| | 寄与度 | 5.6% | 5.0% | 3.9% | 1.5% | -0.3% | -0.1% | 2.5% | 1.8% | 0.8% | 4.0% | -0.7% | -1.0% |
| 総固定資本形成 | 成長率 | - | - | - | 1.4% | 0.7% | -0.1% | 1.7% | 0.3% | -1.1% | 2.2% | -0.8% | -0.3% |
| | 寄与度 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 在庫変化 | 寄与度 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 純輸出 | 寄与度 | 1.0% | -0.5% | -0.4% | 0.1% | 1.9% | 1.0% | 0.4% | -1.9% | -0.7% | 2.4% | 3.8% | 0.9% |
| 輸出 | 成長率 | - | - | - | 14.7% | 9.5% | 3.6% | 22.7% | 15.3% | 7.1% | 25.6% | 4.5% | -1.4% |
| | 寄与度 | - | - | - | 6.7% | 4.7% | 1.9% | 4.7% | 3.6% | 1.7% | 16.7% | 3.4% | -1.0% |
| 輸入 | 成長率 | - | - | - | 17.3% | 6.5% | 2.0% | 15.6% | 18.5% | 7.2% | 28.2% | -0.7% | -3.4% |
| | 寄与度 | - | - | - | -6.6% | -2.8% | -0.9% | -4.3% | -5.4% | -2.5% | -14.4% | 0.4% | 1.9% |
| 誤差脱漏 | 寄与度 | - | - | - | 0.5% | -0.1% | 0.0% | -0.8% | 2.8% | 1.2% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | | 香港 | | | ベトナム | | | フィリピン | | | タイ | | |
| | | 2010 | 2011 | 2012 Jan.-Sep. | 2010 | 2011 | 2012 Jan.-Sep. | 2010 | 2011 | 2012 Jan.-Sep. | 2010 | 2011 | 2012 Jan.-Sep. |
| 実質GDP | 成長率 | 7.1% | 5.0% | 1.0% | 6.8% | 5.9% | 4.7% | 7.6% | 3.9% | 6.5% | 7.8% | 0.1% | 2.6% |
| | 寄与度 | - | - | - | 10.3% | -0.5% | - | 8.2% | 6.1% | 4.0% | 10.3% | 1.0% | 7.1% |
| 内需 | 成長率 | 7.5% | 6.0% | 3.5% | 10.3% | -0.5% | - | 8.2% | 6.1% | 4.0% | 10.3% | 1.0% | 7.1% |
| | 寄与度 | 6.9% | 5.6% | 3.4% | 12.1% | -0.6% | - | 8.2% | 6.1% | 4.1% | 8.4% | 0.8% | 5.9% |
| 民間消費支出 | 成長率 | 6.7% | 8.5% | 4.1% | 10.0% | 4.4% | - | 3.4% | 6.3% | 5.7% | 4.8% | 1.3% | 4.7% |
| | 寄与度 | 4.2% | 5.3% | 2.6% | 6.7% | 3.0% | - | 2.4% | 4.4% | 4.0% | 2.5% | 0.7% | 2.4% |
| 政府消費支出 | 成長率 | 2.8% | 1.8% | 3.2% | 12.2% | 7.1% | - | 4.0% | 1.0% | 12.6% | 6.4% | 1.1% | 5.7% |
| | 寄与度 | 0.2% | 0.1% | 0.3% | 0.8% | 0.5% | - | 0.4% | 0.1% | 1.3% | 0.6% | 0.1% | 0.6% |
| 総固定資本形成 | 成長率 | 7.7% | 7.6% | 8.8% | 10.9% | -10.4% | - | 19.1% | 0.2% | 7.9% | 9.4% | 3.3% | 10.3% |
| | 寄与度 | 1.5% | 1.5% | 2.0% | 4.3% | -4.3% | - | 3.6% | 0.0% | 1.6% | 1.9% | 0.7% | 2.2% |
| 在庫変化 | 寄与度 | 0.9% | -1.3% | -1.5% | 0.2% | 0.1% | - | 1.8% | 1.7% | -2.8% | 3.3% | -0.6% | 0.6% |
| 純輸出 | 寄与度 | 0.2% | -0.6% | -2.3% | -2.2% | 6.2% | - | -0.6% | -2.2% | 1.8% | -0.5% | -0.7% | -3.4% |
| 輸出 | 成長率 | 16.7% | 4.2% | 0.1% | - | - | - | 21.0% | -4.2% | 8.6% | 14.7% | 9.5% | -1.7% |
| | 寄与度 | 32.6% | 9.0% | 0.2% | - | - | - | 9.4% | -2.1% | 4.4% | 9.5% | 6.5% | -1.3% |
| 輸入 | 成長率 | 17.3% | 4.7% | 1.2% | - | - | - | 22.5% | 0.2% | 5.2% | 21.5% | 13.7% | 3.5% |
| | 寄与度 | -32.4% | -9.6% | -2.6% | - | - | - | -10.0% | -0.1% | -2.6% | -10.0% | -7.2% | -2.1% |
| 誤差脱漏 | 寄与度 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | -3.1% | 0.3% | - | 0.0% | 0.0% | 0.6% | -0.1% | -0.1% | 0.0% |
| | | マレーシア | | | シンガポール | | | インドネシア | | | オーストラリア | | |
| | | 2010 | 2011 | 2012 Jan.-Sep. | 2010 | 2011 | 2012 Jan.-Sep. | 2010 | 2011 | 2012 Jan.-Sep. | 2010 | 2011 | 2012 Jan.-Sep. |
| 実質GDP | 成長率 | 7.2% | 5.1% | 5.3% | 14.8% | 4.9% | 1.4% | 6.2% | 6.5% | 6.3% | 2.6% | 2.4% | 3.8% |
| | 寄与度 | - | - | - | 6.9% | 5.4% | 6.0% | 5.9% | 6.2% | 8.0% | 4.2% | 4.5% | 5.1% |
| 内需 | 成長率 | 10.4% | 7.3% | 12.0% | 6.9% | 5.4% | 6.0% | 5.9% | 6.2% | 8.0% | 4.2% | 4.5% | 5.1% |
| | 寄与度 | 8.6% | 6.2% | 10.3% | 5.0% | 3.7% | 4.1% | 5.3% | 5.5% | 7.1% | 4.0% | 4.4% | 5.1% |
| 民間消費支出 | 成長率 | 6.6% | 7.1% | 8.3% | 6.5% | 4.1% | 2.4% | 4.7% | 4.7% | 5.3% | 3.0% | 3.3% | 3.5% |
| | 寄与度 | 3.2% | 3.5% | 4.1% | 2.5% | 1.5% | 0.8% | 2.7% | 2.7% | 2.9% | 1.6% | 1.8% | 1.9% |
| 政府消費支出 | 成長率 | 2.9% | 16.1% | 7.2% | 11.0% | 0.9% | -2.4% | 0.3% | 3.2% | 2.9% | 3.6% | 2.5% | 4.0% |
| | 寄与度 | 0.4% | 1.9% | 0.8% | 1.2% | 0.1% | -0.2% | 0.0% | 0.3% | 0.2% | 0.6% | 0.4% | 0.7% |
| 総固定資本形成 | 成長率 | 10.4% | 6.5% | 21.8% | 7.0% | 3.3% | 7.0% | 8.5% | 8.8% | 10.8% | 4.3% | 7.1% | 8.8% |
| | 寄与度 | 2.3% | 1.5% | 5.0% | 1.8% | 0.8% | 1.7% | 2.0% | 2.1% | 2.6% | 1.1% | 1.9% | 2.4% |
| 在庫変化 | 寄与度 | 2.7% | -0.7% | 0.3% | -0.4% | 1.3% | 1.8% | 0.6% | 0.5% | 1.3% | 0.6% | 0.3% | 0.1% |
| 純輸出 | 寄与度 | -1.4% | -1.1% | -5.0% | 11.1% | 1.2% | -2.5% | 0.9% | 1.5% | -1.2% | -1.2% | -2.2% | -0.3% |
| 輸出 | 成長率 | 11.3% | 4.2% | 0.6% | 19.1% | 2.6% | 0.7% | 15.3% | 13.6% | 2.2% | 5.7% | -0.8% | 6.3% |
| | 寄与度 | 11.1% | 4.3% | 0.6% | 42.9% | 6.0% | 1.5% | 6.5% | 6.3% | 1.1% | 1.2% | -0.2% | 1.3% |
| 輸入 | 成長率 | 15.6% | 6.2% | 6.4% | 16.2% | 2.4% | 2.1% | 17.3% | 13.3% | 6.0% | 14.3% | 10.6% | 7.8% |
| | 寄与度 | -12.5% | -5.4% | -5.6% | -31.8% | -4.8% | -4.0% | -5.6% | -4.8% | -2.3% | -2.4% | -2.0% | -1.6% |
| 誤差脱漏 | 寄与度 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | -1.4% | 0.1% | -0.2% | 0.0% | -0.6% | 0.4% | -0.1% | 0.3% | -1.0% |

(1) 「民間消費支出」に記載した寄与度は「民間消費支出」と「政府消費支出」を併せた「最終消費支出」の寄与度

(2) インドの需要項目別GDPは市場価格表示。中央統計局は需要項目別GDPの実質化した金額を公表するものの、伸び率は発表しないため、ここでは筆者の計算結果を図示した。また、一般に報道されるGDPは要素費用表示の経済活動別のもの、ここではその全体の成長率を括弧内に記した

Sources: CEIC, SMBC Singapore

その後は約2年の景気循環が戻るか？ 中長期の成長率トレンドの鈍化は不可避

2009年から2010年にかけての急速な景気回復は上述のように強力な財政刺激・金融緩和に支えられたものであって、持続可能な成長ではなかったということは分かり易いだろうが、筆者は2005～07年の3年間についても、域内経済が異例に強い成長をした時期であったと考えている。

図表1から見て取れるように、アジア金融危機以降、2005年以前のアジア大洋州経済は概ね2年程度の景気循環を示すのが通常であった。それが、2005～07年の3年間については、鈍化することなく、成長が加速し続けており、明らかにバブルの様相を示していた。この間、特段の高成長を記録したのは、中国(3年間の平均実質GDP成長率は12.4%)、インド(同9.5%)、ベトナム(同8.4%)、シンガポール(同8.3%)、香港(同7.0%)。前3者については、新興国ゆえまだ理解し易い話と言えるかも知れないが、先進国に分類されるシンガポール、香港が7～8%成長を実現したというのは異常とは言えないだろうか。

この間の域内経済の切れ目ない活況を演出したのは、まず大量の資本流入だった。国際金融協会(IIF)の推計によるとアジアを含む新興国への民間資本流入額の対名目GDP比率は2005年が6.6%、2006年が6.5%、2007年が8.5%であった(アジア金融危機を含む1990年代後半の新興国危機直前のピークは1996年の5.8%)。

資本流入に加え、この間に域内各国・地域の輸出が大変な勢いで伸びていたことも高成長に寄与した。日本を含む域内16ヵ国・地域の通関ベースの輸出は、2005年に前年比15.4%増、2006年に同17.0%増、2007年に同15.9%と連続で2桁の伸びを示現していた。

筆者は空前の新興国ブームを彩った、こうしたフロー増大の背景の根底にあったのは、米国の住宅バブルだったと考えている。その意味でも、この3年間のアジア大洋州経済の活況を地域の「実力」と考えるのは、些か行過ぎではないだろうか。今後は2005年以前と同様の約2年間の景気

循環が戻る方向性を見ている。

中長期的なトレンドとしては、投資から消費への経済構造の転換、人口動態の悪化を受けて中国の成長率トレンドが足許の8.7%前後から趨勢的に鈍化、2017年には7%半ばまで落ち込むと予想されることを主因として、アジア大洋州経済の成長率は緩やかに鈍化して行くものと予想している。

2012年の域内経済状況

図表2は域内各国・地域の実質GDP成長率を需要項目別に示したものの。

2011年実績対比、2012年1～9月期の成長率が大き目の鈍化を示したのは、中国、韓国、インド、台湾、香港、ベトナム、シンガポール。名目GDPに占める財・サービス輸出の比率(2011年実績)は中国が29.3%、韓国が56.2%、インドが24.4%、台湾が70.9%、香港が229.7%、ベトナムが80.7%、シンガポールが209.0%であり、中国、インドを除く5ヵ国は経済に占める輸出の比率が非常に高い国で、これらは主要輸出市場である欧州の景気後退の影響を直接的に受けた。韓国、台湾については、消費・投資がともに弱く、香港、シンガポールは住宅市場の活況もあって、投資(総固定資本形成)は力強かったものの、民間消費支出が減速した。

中国、インドについては、輸出鈍化の影響は当然あるものの、それ以上に内需、特に投資の鈍化が響いた。中国の2012年通年の成長率は7.8%、インドの2012/13年度の成長率(要素費用表示)は5.4%となると予想する(図表3)。

フィリピンは1～9月期に6.5%成長と域内では中国に次ぐ高成長率を示現したが、これは前年同期に電子関連の輸出の弱含みを主因に3.9%成長と大きな落ち込みを示していたことの裏が出たという側面が強い。7～9月期の季節調整後系列前期比年率成長率は5.2%で潜在成長率並み(筆者推計)である。2012年通年では6.4%成長となり、2011年実績の3.9%を大きく上回る見込み。

タイは自動車生産・販売が大きく回復したこと

図表3: G3・アジア大洋州主要国実質GDP成長率: 実績およびSMBCシンガポール予測

| | 実績 | | | | | SMBC予測 | | | | | |
|------------------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012e | 2013f | 2014f | 2015f | 2016f | 2017f |
| 世界(市場為替相場換算) | 4.0% | 1.5% | -2.2% | 4.1% | 2.8% | 2.6% | 3.1% | 3.8% | 3.9% | 3.4% | 3.6% |
| 先進国 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| G3 | 2.4% | -0.2% | -4.1% | 2.9% | 1.4% | 1.4% | 1.6% | 2.6% | 2.4% | 2.0% | 2.3% |
| 米国 | 1.9% | -0.3% | -3.1% | 2.4% | 1.8% | 2.3% | 2.7% | 3.5% | 3.1% | 2.7% | 3.1% |
| ユーロ圏 | 3.0% | 0.3% | -4.3% | 1.9% | 1.5% | -0.5% | -0.1% | 1.5% | 1.9% | 1.4% | 1.8% |
| ドイツ | 3.4% | 0.8% | -5.1% | 4.0% | 3.1% | 0.8% | 1.0% | 1.9% | 2.1% | 1.5% | 1.5% |
| 日本(暦年) | 2.2% | -1.0% | -5.5% | 4.7% | -0.6% | 2.0% | 1.2% | 1.8% | 1.5% | 1.2% | 1.1% |
| アジア新興工業経済地域 | 5.9% | 1.8% | -0.8% | 8.3% | 4.1% | 1.9% | 4.2% | 4.5% | 4.9% | 4.3% | 4.2% |
| 韓国 | 5.1% | 2.3% | 0.3% | 6.3% | 3.6% | 2.2% | 4.0% | 4.2% | 4.6% | 3.9% | 3.9% |
| 台湾 | 6.0% | 0.7% | -1.8% | 10.8% | 4.1% | 1.5% | 4.5% | 4.7% | 5.2% | 4.8% | 4.5% |
| 香港 | 6.5% | 2.1% | -2.5% | 6.8% | 4.9% | 1.6% | 4.4% | 4.7% | 5.2% | 4.7% | 4.5% |
| シンガポール | 8.9% | 1.7% | -1.0% | 14.8% | 4.9% | 1.7% | 4.2% | 4.6% | 5.1% | 4.4% | 4.1% |
| オーストラリア | 4.6% | 2.7% | 1.4% | 2.6% | 2.4% | 3.5% | 2.7% | 3.0% | 3.2% | 2.7% | 2.8% |
| 新興国 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| アジア主要新興国 | 11.8% | 8.1% | 7.0% | 9.8% | 8.2% | 6.9% | 7.9% | 7.6% | 8.0% | 7.4% | 7.1% |
| 中国 | 14.2% | 9.7% | 9.2% | 10.3% | 9.3% | 7.8% | 8.6% | 8.1% | 8.6% | 7.9% | 7.6% |
| インド(年度: 要素費用表示)* | 9.3% | 6.7% | 8.4% | 8.4% | 6.5% | 5.4% | 6.8% | 7.1% | 7.6% | 6.9% | 6.8% |
| インド(暦年: 市場価格表示) | 10.1% | 6.2% | 4.9% | 10.4% | 7.9% | 4.5% | 7.2% | 7.1% | 7.4% | 6.7% | 6.6% |
| ASEAN-5 | 6.2% | 4.6% | 1.3% | 7.0% | 4.3% | 5.8% | 5.6% | 5.8% | 6.1% | 5.7% | 5.5% |
| バトナム | 8.5% | 6.2% | 5.3% | 6.8% | 5.9% | 5.1% | 6.2% | 6.5% | 6.8% | 6.4% | 6.3% |
| フィリピン | 6.6% | 4.2% | 1.1% | 7.6% | 3.9% | 6.4% | 5.5% | 5.2% | 5.8% | 5.5% | 5.3% |
| タイ | 5.0% | 2.5% | -2.3% | 7.8% | 0.1% | 5.2% | 4.8% | 5.1% | 5.6% | 4.9% | 5.0% |
| マレーシア | 6.3% | 4.8% | -1.5% | 7.2% | 5.1% | 5.4% | 5.0% | 5.4% | 5.5% | 5.0% | 4.7% |
| インドネシア | 6.3% | 6.0% | 4.6% | 6.2% | 6.5% | 6.2% | 6.4% | 6.4% | 6.6% | 6.4% | 6.2% |

* 例えば、「2011」は「2011/12年度(2011年4月～2012年3月)」を指す

Sources: CEIC, International Monetary Fund, Asian Development Bank, SMBC Singapore

を主因に投資・消費が大きく伸びたが、純輸出が全体の成長率を押し下げた。なお、タイの1～9月期の成長率は2.6%と低かったが、10～12月期については昨年の大洪水による大幅景気後退の反動で大きな伸びとなると見込まれ(筆者予測は13.9%)、2012年通年では5.2%成長になると見込んでいる。

インドネシアは純輸出の寄与度がマイナスだったが、消費・投資が力強く伸びており、成長率の鈍化はわずかだった。10～12月期は6.0%成長に鈍化、通年では昨年実績の6.5%を下回る6.2%成長となると予想する。

マレーシアはGDPに占める輸出の比率が香港・シンガポールに次いで高い国(2011年実績

94.2%)であり、純輸出が大きなマイナス寄与となったが、消費と投資が爆発的な勢いで伸びており、成長率を引き上げた。消費・投資の伸びはインドネシアを大きく凌駕した。投資は恐らく中国をも上回ったものと見られる。通年成長率は5%前後と見られる潜在成長率(筆者推計)をやや上回る5.4%となると予想している。

バトナムについては、四半期GDPの需要項目別ブレークダウンがないため、詳細が分からないものの、輸出は好調ながら、消費・投資が低い伸びに留まったものと見られる。10～12月期に入り、製造業に底打ち感も見られることから、2012年通年では5.1%の成長率を確保すると見ている。

2013年の域内経済は概ね成長加速

冒頭で記した通り、筆者は2013年について、年後半に米国、欧州の比較的堅調な景気回復を予想しており、アジア大洋州域内経済の輸出もこれにサポートされるだろう。

内需については、年後半にインフレ率が高まり、消費にややブレーキが掛かる国・地域も出てくる可能性があるが、大きく減速することは想定していない。こうしたことから、域内の多くの国・地域において、2013年は、2012年対比成長率が加速する方向を予想している(図表3)。

特に輸出主導で大きめの減速を見せたアジア新興工業経済地域(NIEs)は2012年の1.9%成長から4.2%へと大きめの回復を見せるだろう。図表4は域内各国の実質GDP成長率の実績・予測およびHPフィルターを用いて引いた成長率トレンドを示しているが、NIEs各国・地域はいずれも2013年後半から2014年前半にかけて、トレンドを上回る成長を示現すると見ている。なお、シンガポールについては建設投資の一巡に加え、移民流入抑制策の影響で、中長期的に成長率トレンドが低下して行くものと予想する。

足許、成長率トレンドを大きく下回っている中国経済については7~9月期にすでに底打ち、インフラ投資を主導として、2013年にかけて比較的堅調な回復を見せると考えている。しかしながら、成長率が9%台に戻る公算は小さく、2013年の成長率は8.6%となると予想。成長率トレンドが徐々に低下して行く見込みについては前述の通り。

中国以上にトレンドを下回って低迷しているインド経済については、本格的な回復は2013年後半となりそう。2012/13年度の成長率(要素費用表示)は6.8%と予想する。卸売物価指数は鈍化基調にあるものの、消費者物価指数は高止まっており、懸念材料。しかしながら、筆者は中銀が1~3月期に最大0.50%の利下げを実施すると見ており、これが成長をある程度下支えしそう。なお、インドの中長期成長率トレンドはほぼ横這いの7%前後と見ているが、2014年までに実施される次回総選挙で「投資家フレンドリー」な政権が誕生

すれば、トレンドが上向く可能性もある。

ベトナムも足許、トレンドを大きく下回る成長に甘んじているが、10~12月期には製造業の底打ち感も見え始めている。2013年については6.2%成長と政府予想(5.5%)対比強めの数字を予想しているが、これは世界銀行・国際通貨基金による金融セクター評価プログラムが2013年第1四半期に完了するに伴い、ベトナム経済を揺るがしている不良債権問題の実態が明らかになるとともに、銀行セクターおよび国営企業改革への道筋がはっきりすることで、企業・消費者の心理が改善することを前提としている。

インドネシアについては、輸出の回復を主因として、2013年の成長率は6.4%と2012年をやや上回ると予想している。内需については大きく鈍化することは想定しづらいが、懸念はインフレ加速である。首都ジャカルタ周辺では、2013年の公定最低賃金が軒並み4割以上引き上げられており、少なからずインフレに跳ね返るのは必至であろう。また、経常収支は2013年も赤字となると予想され、ルピアへの下押し圧力が増すならば、これもインフレ圧力となる。国会選挙、大統領選を2014年に控えていることもインフレ上昇要因となりそう。なお、大統領選挙は中長期的なインドネシア経済の行方を占う意味で、決定的に大事なイベントである。中長期の成長率トレンドについては、投資需要の一巡で2014年以降、やや鈍化すると予想する。

フィリピンについては、トレンドを大きく超えた2012年の高成長の反動で2013年は5.5%へと減速しそう。2013年のリスクは特に年後半の供給サイドのインフレ圧力であろう。その後の成長率トレンドはほぼ横這いと見ている。

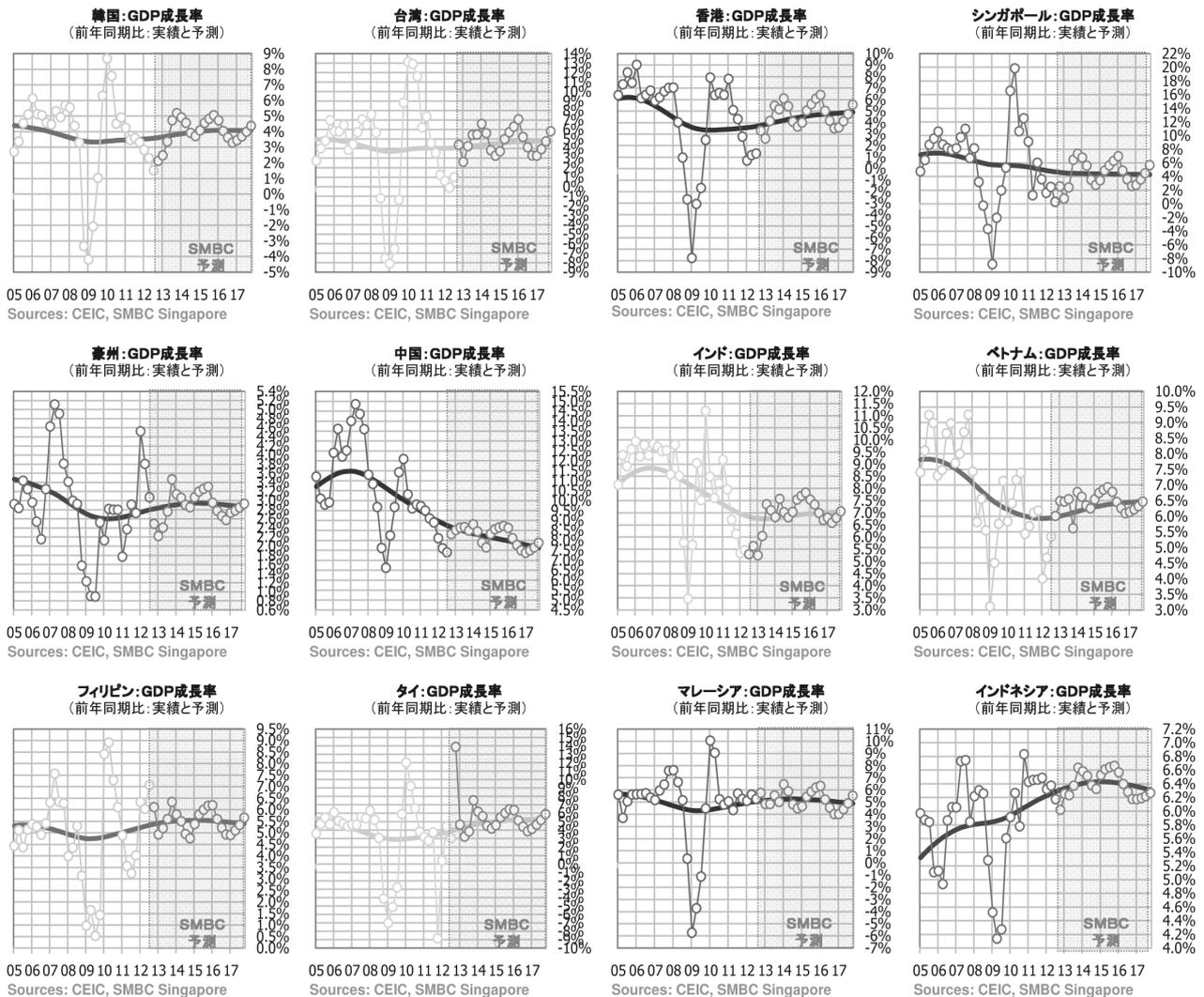
タイ経済は2013年は2012年対比やや減速して4.8%となると見ている。輸出が本格的に回復するのは2013年後半からと見られる一方、計画される水利インフラ投資関連を主体に輸入が早めの回復を見せると予想され、純輸出が成長率をやや引き下げる動きとなりそう。一方、投資・消費は自動車関連を中心に堅調な動きが続くと見ている。政治リスクは依然懸念材料である。中長期的には成

長率トレンドが緩やかに回復し、5%前後に達する見込み。

マレーシアの2013年の成長率はやや減速して5.0%となると予想する。特段、悪材料はないが、(政府による総選挙前対策の刺激策もあって)、極端に高い成長率となった民間消費が反動で減速する公算。一方、2010年に開始した経済改革プログラム(ETP)による(同国過去最大の投資とな

る115億ドルの首都圏大量高速交通システムを象徴とする)インフラ投資が佳境に入っており、総固定資本形成の非常に高い伸びは2013年も続くであろう。なお、同年4月までに総選挙が実施されるが、その結果の実体経済への影響はあまり想定できない。中長期のトレンド成長率は5%前後で推移する見込み。1人当たりのGDPが10,000ドルに達した国としては相応に高い成長率と言えるだろう。

図表4: アジア大洋州主要国 四半期実質GDP前年同期比成長率-実績・予測およびトレンド



JCCI SINGAPORE FOUNDATION LIMITED

10 Shenton Way, #12-04/05 MAS Building, Singapore 079117

(Co. Reg. No.: 199002444H)

各 位

シンガポール日本商工会議所基金

基金募金委員長 川口 敬一郎

シンガポール日本商工会議所基金「2012年度募金」へのご協力御礼

拝啓 2013年の新しい年が明け、会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は当会議所の事業活動に多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、この度は、昨年8月から11月にかけて実施致しました標記基金への募金活動におきまして、厳しい経済情勢並びに経費多端の折りにもかかわらず、格別のご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。お陰様をもちまして、今年度は計278会員から39万2799S \$の貴重な浄財を頂戴致しました。目標の45万Sドルには及びませんでした。現下の経済状況のなか、大いなる成果と存じております。これもひとえに、会員企業各位におけるシンガポール社会へ貢献しようとする思いの賜物と感謝申し上げます。

頂戴致しました募金につきましては、基金の各委員会において慎重に検討のうえ、相応しいと判断した11の団体への寄付(含む奨学金)を決定し、去る12月11日(火)、日本人会館において、それぞれの団体へ贈呈致しました。

末筆ながら、皆様の温かいご協力に対し心よりお礼申し上げますとともに、今後とも本基金活動への変わらぬご理解、ご支持を賜りますよう併せてお願い申し上げます。

敬具



JCCI SINGAPORE FOUNDATION LIMITED

Presentation of Donations
11 December 2012
Venue: The Japanese Association,
Singapore



シンガポール日本商工会議所基金 (JCCI SINGAPORE FOUNDATION) 2012年度募金結果

会社名アルファベット順

\$11,500

HITACHI GROUP COMPANIES

HITACHI ASIA LTD.

HITACHI AUTOMOTIVE SYSTEMS SINGAPORE PTE. LTD.

HITACHI CAPITAL SINGAPORE PTE. LTD.

HITACHI ELEVATOR ASIA PTE. LTD.

HITACHI PLANT TECHNOLOGIES (ASIA) PTE. LTD.

HITACHI TRANSPORT SYSTEM (ASIA) PTE. LTD.

\$10,000

SONY GROUP OF COMPANIES

SONY ELECTRONICS ASIA PACIFIC PTE LTD.

SONY ELECTRONICS (SINGAPORE) PTE LTD.

SONY GLOBAL TREASURY SERVICES PLC, SINGAPORE BRANCH

SONY MOBILE COMMUNICATIONS INTERNATIONAL AB

SONY MUSIC ENTERTAINMENT

SONY PICTURES ENTERTAINMENT

SUMITOMO CHEMICAL GROUP COMPANIES

SUMITOMO CHEMICAL SINGAPORE PTE LTD

PETROCHEMICAL CORPORATION OF SINGAPORE (PRIVATE) LIMITED

THE POLYOLEFIN COMPANY (SINGAPORE) PTE LTD

SUMITOMO CHEMICAL ASIA PTE LTD

\$7,000

FUJITSU GROUP COMPANIES

FUJITSU ASIA PTE LTD

FUJITSU TEN (SINGAPORE) PTE LTD

FDK SINGAPORE PTE LTD

PFU TECHNOLOGY SINGAPORE PTE LTD

FUJITSU GENERAL (ASIA) PTE LTD

FUJITSU KANSAI SOLUTIONS ASIA PTE LTD

FUJITSU SEMICONDUCTOR ASIA PTE LTD

\$6,000

NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL GROUP COMPANY

NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL SOUTHEAST ASIA PTE LTD

NS SOLUTIONS ASIA PACIFIC PTE. LTD.

NIPPON STEEL TRADING (SINGAPORE) PTE LTD

\$5,000

IHI GROUP COMPANIES

IHI ASIA PACIFIC PTE. LTD.

IHI CORPORATION SINGAPORE BRANCH

IHI MARINE ENGINEERING (S) PTE LTD

IHI TRANSPORT MACHINERY CO., LTD Singapore Representative Office

JURONG ENGINEERING LTD

NIIGATA POWER SYSTEMS (SINGAPORE) PTE LTD

NIPPON EXPRESS (SOUTH ASIA & OCEANIA) PTE. LTD

NKSJ GROUP OF COMPANIES

NIPPONKOA INSURANCE CO LTD

SOMPO JAPAN INSURANCE (SINGAPORE) PTE LTD

PANASONIC GROUP COMPANIES

PANASONIC ASIA PACIFIC PTE LTD

PANASONIC INDUSTRIAL DEVICES SALES ASIA

PANASONIC APPLIANCES REFRIGERATION DEVICES SINGAPORE

PANASONIC AVC NETWORKS SINGAPORE PTE LTD

PANASONIC INDUSTRIAL DEVICES SINGAPORE

PANASONIC INDUSTRIAL DEVICES SEMICONDUCTOR ASIA

PANASONIC FACTORY SOLUTIONS ASIA PACIFIC PTE. LTD.

PANASONIC R&D CENTER SINGAPORE

PANASONIC HEALTHCARE SINGAPORE PTE. LTD.

TOSHIBA GROUP COMPANIES

TOSHIBA ASIA PACIFIC PTE LTD

TOSHIBA SINGAPORE PTE LTD

TOSHIBA ELECTRONICS ASIA (SINGAPORE) PTE LTD

TOSHIBA TEC SINGAPORE PTE LTD

TOYOTA MOTOR ASIA PACIFIC PTE LTD

\$4,600

MITSUBISHI CHEMICAL GROUP

MITSUBISHI CHEMICAL SINGAPORE PTE LTD

MITSUBISHI PLASTICS ASIA PACIFIC PTE LTD

MCC PTA ASIA PACIFIC PTE LTD

MITSUBISHI CHEMICAL INFONICS PTE LTD

ADVANCED PLASTICS COMPOUNDS SINGAPORE PTE LTD

MCL LOGISTICS ASIA PTE LTD

RENSUI ASIA PTE LTD

\$4,500

SUMITOMO ELECTRIC GROUP COMPANIES
 SUMITOMO ELECTRIC AUTOMOTIVE PRODUCTS (S) PTE LTD
 SUMITOMO ELECTRIC INTERCONNECT PRODUCTS (SINGAPORE) PTE LTD
 SUMITOMO ELECTRIC INTERNATIONAL (SINGAPORE) PTE LTD

\$4,000

MITSUI CHEMICALS GROUP
 MITSUI CHEMICALS ASIA PACIFIC, LTD
 MITSUI PHENOLS SINGAPORE PTE LTD
 MITSUI ELASTOMERS SINGAPORE PTE LTD
 MITSUI CHEMICALS SINGAPORE R&D CENTRE PTE. LTD

NEC GROUP COMPANIES

NEC ASIA PACIFIC PTE LTD
 NEC TOKIN SINGAPORE PTE LTD

\$3,750

TOKIO MARINE GROUP
 TOKIO MARINE INSURANCE SINGAPORE LTD
 TOKIO MARINE LIFE INSURANCE SINGAPORE LTD.

\$3,500

KYOCERA GROUP OF COMPANIES
 KYOCERA ASIA PACIFIC PTE LTD
 KYOCERA CHEMICAL SINGAPORE PTE LTD
 KYOCERA DOCUMENT SOLUTIONS SINGAPORE PTE LTD

MOL GROUP COMPANIES

MITSUI O.S.K. BULK SHIPPING (ASIA OCEANIA) PTE. LTD
 PHOENIX TANKERS PTE. LTD.
 TOKYO MARINE ASIA PTE LTD

\$3,000

JFE STEEL ASIA PTE. LTD
 MARUBENI ASEAN PTE LTD
 MITSUBISHI CORPORATION
 MITSUBISHI ELECTRIC ASIA PTE LTD
 MITSUI & CO. (ASIA PACIFIC) PTE LTD
 MIZUHO CORPORATE BANK LTD.
 NYK GROUP SOUTH ASIA PTE LTD
 SUMITOMO CORPORATION ASIA PTE LTD
 SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION
 THE BANK OF TOKYO-MITSUBISHI UFJ, LTD (SINGAPORE BRANCH)

\$2,500

AJINOMOTO (SINGAPORE) PTE LTD
 ALL NIPPON AIRWAYS CO LTD
 ASAHI KASEI PLASTICS SINGAPORE PTE LTD
 CANON SINGAPORE PTE LTD
 CENTURY TOKYO LEASING (SINGAPORE) PTE LTD

CHUGOKU MARINE PAINTS (S) PTE LTD
 DAIKIN ASIA SERVICING PTE. LTD.
 DAIWA CAPITAL MARKETS SINGAPORE LIMITED
 DENSO INTERNATIONAL ASIA PTE LTD
 DIC ASIA PACIFIC PTE LTD
 EPSON GROUP
 EPSON SINGAPORE PTE LTD
 SINGAPORE EPSON INDUSTRIAL PTE LTD
 FUJIFILM ASIA PACIFIC PTE. LTD.
 FUJI XEROX ASIA PACIFIC PTE LTD
 IDEMITSU INTERNATIONAL (ASIA) PTE LTD
 ISUZU MOTORS ASIA LIMITED
 ITOCHU SINGAPORE PTE LTD
 JAPAN AIRLINES CO LTD
 K LINE PTE LTD
 KAJIMA OVERSEAS ASIA PTE LTD
 KANEKA SINGAPORE CO PTE LTD
 KANEMATSU (SINGAPORE) PTE. LTD.
 KDDI SINGAPORE PTE LTD
 KIKKOMAN (S) PTE LTD
 KIRIN HOLDINGS SINGAPORE PTE. LTD.
 KOMATSU ASIA & PACIFIC PTE LTD
 KONICA MINOLTA BUSINESS SOLUTIONS (S) PTE LTD
 MEIDEN SINGAPORE PTE LTD
 MEIJI SEIKA (S) PTE LTD
 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES GROUP COMPANIES
 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD ASIA PACIFIC
 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES ENGINEERING & SERVICES PTE LTD
 MHI ENGINE SYSTEM ASIA PTE LTD
 MITSUBISHI CATERPILLAR FORKLIFT ASIA PTE LTD
 MITSUBISHI UFJ TRUST AND BANKING CORPORATION
 MITSUI FUDOSAN (ASIA) PTE LTD
 MSIG INSURANCE (SINGAPORE) PTE LTD
 NAKANO SINGAPORE (PTE) LTD
 NIKON SINGAPORE PTE LTD
 NISHIMATSU CONSTRUCTION CO LTD
 NISSHINBO GROUP COMPANIES
 NISSHINBO SINGAPORE PTE. LTD.
 NJR (SINGAPORE) PTE LTD
 JAPAN RADIO CO.,LTD -SINGAPORE BRANCH OFFICE
 NISSIN FOODS (ASIA) PTE. LTD.
 NITTO DENKO (SINGAPORE) PTE LTD
 NTT DATA ASIA PACIFIC PTE. LTD.
 NTT SINGAPORE PTE LTD
 OBAYASHI CORPORATION
 OKAMOTO (SINGAPORE) PTE LTD
 OMRON ASIA PACIFIC PTE LTD
 OSAKA GAS CO., LTD.
 PENTA-OCEAN CONSTRUCTION CO LTD
 PIONEER ELECTRONICS ASIA CENTRE PTE LTD
 RICOH ASIA PACIFIC PTE LTD

SANKYU (SINGAPORE) PTE LTD
SATO KOGYO CO LTD
SHIMADZU (ASIA PACIFIC) PTE LTD
SHIMIZU CORPORATION
SINGAPORE TAKADA INDUSTRIES PTE LTD
SOJITZ ASIA PTE LTD
SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LTD
TAISEI CORPORATION
TDK SINGAPORE PTE LTD
TEIJIN POLYCARBONATE SPORE PTE LTD
THE NORINCHUKIN BANK Singapore Branch
TIEN WAH PRESS PTE LTD (DAI NIPPON PRINTING CO LTD)
TORAY INTERNATIONAL SINGAPORE PTE LTD
TOYOTA TSUSHO ASIA PACIFIC PTE LTD
UBE SINGAPORE PTE LTD
YAKULT (SINGAPORE) PTE LTD
YAMAHA MOTOR ASIA PTE LTD
YANMAR ASIA (SINGAPORE) CORPORATION PTE LTD
YASKAWA ELECTRIC (SINGAPORE) PTE LTD
YOKOGAWA GROUP COMPANIES
YOKOGAWA ENGINEERING ASIA PTE LTD
YOKOGAWA ELECTRIC ASIA PTE LTD
YOKOGAWA ELECTRIC INTERNATIONAL PTE. LTD.

\$2,000

DAIHATSU DIESEL (ASIA PACIFIC) PTE LTD
EBARA ENGINEERING SINGAPORE PTE LTD
KAWASAKI HEAVY INDUSTRIES (SINGAPORE) PTE LTD
NTA TRAVEL (SINGAPORE) PTE LTD
SHOWA DENKO SINGAPORE PTE LTD

\$1,250

IWATANI CORPORATION Singapore Branch

\$1,000

ADVANTEST SINGAPORE PTE LTD
AISIN ASIA PTE LTD
ASIA PROJECTS ENGINEERING PTE LTD
AZBIL SINGAPORE PTE LTD
BANDO (SINGAPORE) PTE LTD
BROTHER INTERNATIONAL SINGAPORE PTE. LTD.
CHIYODA SINGAPORE (PTE) LTD
DAIFUKU MECHATRONICS (S) PTE LTD
DAIHO PROJECT SERVICES PTE LTD
DENKA SINGAPORE PTE LTD
DNT SINGAPORE PTE LTD
ENPLAS HI-TECH (SINGAPORE) PTE LTD
FUJI ELECTRIC ASIA PACIFIC PTE LTD
FUJIKURA ASIA LIMITED
GLORY MONEY HANDLING MACHINES PTE LTD
HAKUHODO SINGAPORE PTE LTD

HIROSE (SINGAPORE) PTE LTD
IBIDEN GROUP OF COMPANIES
IBIDEN ASIA HOLDINGS PTE. LTD.
IBIDEN SINGAPORE PTE LTD
ISK SINGAPORE PTE LTD
JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION INC
JAPAN GREEN HOSPITAL (PTE) LTD
JAPAN TOBACCO INTERNATIONAL (SINGAPORE) PTE LTD
JDC CORPORATION
JUKI SINGAPORE PTE LTD
KINOKUNIYA BOOK STORES OF SINGAPORE PTE LTD
KOA DENKO (S) PTE LTD
KURARAY ASIA PACIFIC PTE LTD
KURIHARA KOGYO CO LTD
KWE-KINTETSU WORLD EXPRESS (S) PTE LTD
MAKITA SINGAPORE PTE LTD
MEKTEC CORPORATION (SINGAPORE) PTE LTD
MITSUBISHI ESTATE AISA PTE LTD
MITSUI-SOKO (SINGAPORE) PTE LTD
NATIONAL OXYGEN PTE LTD
NICHIAS SINGAPORE PTE LTD
NICHYU ASIA PTE LTD
NIKKEI ASIA PTE LTD
NIPPON KAJI KYOKAI Singapore Office
NIPPON SHOKUBAI (ASIA) PTE LTD
NISSHIN STEEL ASIA PTE. LTD
OHGITANI (S) PTE LTD
ORIX INVESTMENT AND MANAGEMENT PTE LTD(ORIX CORPORATION)
PROMO TEC PTE. LTD.
RE & S ENTERPRISES PTE LTD
ROHM SEMICONDUCTOR SINGAPORE PTE. LTD.
SEIKO INSTRUMENTS SINGAPORE PTE LTD
SHIMANO SINGAPORE PTE LTD
SUMITOMO WAREHOUSE (SINGAPORE) PTE LTD
TADANO ASIA PTE LTD
TAKASAGO SINGAPORE PRIVATE LIMITED
TANAKA ELECTRONICS SINGAPORE PTE LTD
THREE BOND SINGAPORE PTE LTD
TOKYU CONSTRUCTION CO LTD
TOPPAN FORMS (S) PTE LTD
TOSOH ASIA PTE. LTD.
TRI-NET LOGISTICS (ASIA) PTE LTD
WASEDA SHIBUYA SENIOR HIGH SCHOOL PTE LTD

\$500

AGC CHEMICALS ASIA PACIFIC PTE. LTD
ALPS ELECTRIC (S) PTE LTD
ALTECO CHEMICAL PTE LTD
AOYAMA SOGO ACCOUNTING OFFICE SINGAPORE PTE. LTD.
ASATSU-DK SINGAPORE PTE LTD
AVANSTRATE ASIA PTE LTD

| | |
|---|------------------------------------|
| CKD SINGAPORE PTE LTD | <u>\$149</u> |
| DAI-DAN CO LTD | Mr Yasutsugu Kohzuki |
| DAIWA ASSET MANAGEMENT (SINGAPORE) LTD. | |
| FUTABA DENSHI CORP. (S) PTE LTD | <u>\$100</u> |
| JAC RECRUITMENT PTE LTD | AEGIS RECRUITMENT PTE LTD |
| JAPANESE KINDERGARTEN (S) PTE LTD | SUPERMEDIA |
| JIJI PRESS LTD | |
| KEMEL ASIA PACIFIC PTE. LTD. | <u>\$50</u> |
| KOYO KAIUN ASIA PTE LTD | OKADA BUSINESS CONSULTANCY PTE LTD |
| KUBOTA CORPORATION, SINGAPORE BRANCH | |
| KUSATSU ELECTRIC (S) PTE LTD | <u>TOTAL S\$392,799</u> |
| MABUCHI MOTOR (SINGAPORE) PTE LTD | 278社 |
| MITSUBISHI UFJ LEASE (S) PTE LTD | |
| MURAMOTO ASIA PTE LTD | |
| NIPPON CARGO AIRLINES CO LTD | |
| NOMURA DESIGN & ENGRG. (S) PTE LTD | |
| NOMURA RESEARCH INSTITUTE (ASIA PACIFIC) PTE LTD | |
| OKAMURA INTERNATIONAL (S) PTE LTD | |
| OXALIS SHIPPING CO PTE LTD | |
| RSM CHIO LIM LLP | |
| SHINNIHON KENTEI (S) PTE LTD | |
| SINGAPORE CHEMI-CON PTE LTD | |
| SINGAPORE ORIENTAL MOTOR PTE LTD | |
| SMK ELECTRONICS (S) PTE LTD | |
| SUMITOMO CHEMICAL ENGINEERING SINGAPORE PTE. LTD | |
| SUMITOMO MITSUI FINANCE AND LEASING (SINGAPORE) PTE. LTD. | |
| TAIHEIYO SINGAPORE PTE LTD | |
| TECH STAINLESS PTE LTD | |
| TECHNO STAFF PTE LTD | |
| TECHNOCHEM ENVIRONMENTAL COMPLEX PTE LTD | |
| THE TOA REINSURANCE COMPANY LIMITED(SINGAPORE BRANCH) | |
| TOKUYAMA ASIA PACIFIC PTE LTD | |
| TOKYO BYOKANE (S) PTE LTD | |
| WACOAL SINGAPORE PTE LTD | |
| YAC SYSTEMS SINGAPORE PTE. LTD. | |
| YAMAUCHI SINGAPORE PTE LTD | |
| YUSEN TRAVEL (SINGAPORE) PTE LTD | |
| ZEON ASIA PTE LTD | |

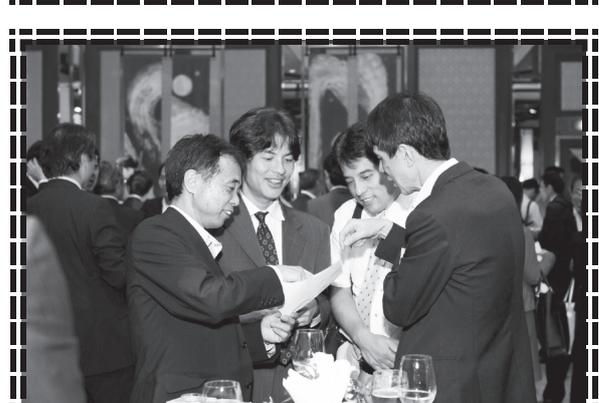
\$300

SALESBRIDGE

\$250

BEMAC MARINE ENGINEERING SERVICE (S) PTE. LTD.
DAIDO KOGYO CO LTD Singapore Branch
NIPPON PIGMENT (S) PTE LTD
PENNANT SINGAPORE PTE LTD
PORITE SINGAPORE PTE LTD
SMC MANUFACTURING (SINGAPORE) PTE LTD
THE HOKURIKU BANK LTD Singapore Representative Office
YGP PTE. LTD.

JCCI
Year End Party
12th Dec 2012
Fairmont Hotel







2012年会員懇親パーティー
《ラッキードロ―賞品ご提供企業様リスト》

(企業名ABC順)

| | COMPANY | PRIZE | QUANTITY | UNIT PRICE |
|----|---|---|-----------|------------|
| 1 | AJINOMOTO (SINGAPORE) PTE LTD | VONO Creamy Corn | 3 cartons | SS\$84 |
| 2 | ALL NIPPON AIRWAYS CO., LTD. | Economy Class Return Air Ticket from Singapore to Tokyo for 2 persons | 1 | SS\$12,064 |
| 3 | AOYAMA SOGO ACCOUNTING OFFICE SINGAPORE PTE LTD | Takashimaya Voucher | 1 | SS\$200 |
| 4 | BERLITZ (SINGAPORE) PTE LTD | Berlitz language vouchers worth SGD \$100 each | 2 | SS\$100 |
| 5 | BRIDGESTONE ASIA PACIFIC PTE LTD | Caddy Bag promodel | 1 | SS\$600 |
| 6 | BROTHER INTERNATIONAL SINGAPORE PTE. LTD. | Label Maker P-touch D200 | 1 | SS\$69.9 |
| 7 | BROTHER INTERNATIONAL SINGAPORE PTE. LTD. | Printer MFC-J825DW | 1 | SS\$318 |
| 8 | CANON SINGAPORE PTE LTD | Canon Digital IXUS 500 HS | 1 | SS\$399 |
| 9 | CASIO SINGAPORE PTE LTD | Casio Digital Piano | 1 | SS\$999 |
| 10 | CASIO SINGAPORE PTE LTD | Casio Digital Camera JE-10W | 1 | SS\$299 |
| 11 | COACH A (SINGAPORE) PTE LTD | How to Learn to Golf with Coach | 5 | ¥1,400 |
| 12 | COACH A (SINGAPORE) PTE LTD | 3 Minutes Coaching | 5 | ¥1,500 |
| 13 | DAIWA CAPITAL MARKETS SINGAPORE LTD | Marina Bay Sands Gift Voucher (1 night stay for 2 persons) | 1 | SS\$470 |
| 14 | DOCOMO SINGAPORE | Docomodake Family Set | 1 | SS\$200 |
| 15 | DREW & NAPIER LLC | Marina Bay Sands Gift Voucher | 1 | SS\$200 |
| 16 | EBARA ENGINEERING SINGAPORE PTE LTD | Isetan Voucher | 1 | SS\$300 |
| 17 | EPSON SINGAPORE PTE LTD | Labelworks LW300 | 1 | SS\$699 |
| 18 | EPSON SINGAPORE PTE LTD | Labelworks LW400 | 1 | SS\$89 |
| 19 | ERIPRET PTE. LTD. | Eri-Pret liner for immaculate collar and hat | 5 | SS\$12 |
| 20 | ERIPRET PTE. LTD. | Eri-Pret liner for immaculate collar | 5 | SS\$9 |
| 21 | FAIRMONT SINGAPORE & SWISSOTEL THE STAMFORD | 2 nights stay in Executive room for two including club benefit at Swissôtel Nankai Osaka | 1 | SS\$850 |
| 22 | FAIRMONT SINGAPORE & SWISSOTEL THE STAMFORD | 1 night weekend stay for 2 Swissotel Harbour view room including breakfast and dinner at Equinox | 1 | SS\$1,000 |
| 23 | FAIRMONT SINGAPORE & SWISSOTEL THE STAMFORD | 1 night Weekend stay at Fairmont Deluxe room for 2 including breakfast and dinner at Szechuan Court | 1 | SS\$1,000 |
| 24 | FUJI XEROX SINGAPORE PTE LTD | Fuji Xerox DocuPrint P205B | 1 | SS\$139 |
| 25 | FUJIFILM ASIA PACIFIC PTE. LTD. | Fujifilm Finepix F800 EXR | 1 | SS\$499 |
| 26 | FUJITSU ASIA PTE LTD | Scansnap S1500 | 1 | SS\$750 |
| 27 | FUTABA DENSHI CORP (S) PTE LTD | Isetan Voucher | 1 | SS\$100 |
| 28 | HITACHI ASIA LTD. | 24" Full HD LED TV | 1 | SS\$439 |
| 29 | HOKURIKU (SINGAPORE) PTE LTD | Isetan Voucher | 1 | SS\$100 |
| 30 | IHI CORPORATION | Takashimaya Voucher | 1 | SS\$300 |
| 31 | IHI MARINE ENGINEERING (S) PTE LTD | Takashimaya Voucher | 1 | SS\$300 |
| 32 | INTERNATIONAL TAIYO TRADING PTE LTD | Takashimaya Voucher | 1 | SS\$200 |
| 33 | ITOCHU SINGAPORE PTE LTD | Lesportsac bag | 10 | SS\$40 |
| 34 | ITOKI SYSTEMS (SINGAPORE) PTE., LTD. | ITOKI f chair | 1 | SS\$1,500 |
| 35 | ITOKI SYSTEMS (SINGAPORE) PTE., LTD. | ITOKI original USB drive | 10 | SS\$28 |
| 36 | IWATANI CORPORATION SINGAPORE BRANCH | Portable Gas Cooker, Cartridge | 5 | SS\$55 |
| 37 | JAPAN AIRLINES CO., LTD | Economy Class Return Air Ticket from Singapore to Tokyo for 2 persons | 1 | SS\$12,064 |
| 38 | JAPAN GREEN HOSPITAL PTE LTD | Pedometer | 4 | SS\$48 |
| 39 | JAPANESE KINDERGARTEN (S) PTE LTD | Takashimaya Voucher | 1 | SS\$150 |
| 40 | JTB PTE LTD | Travel Voucher | 2 | SS\$150 |
| 41 | K LINE PTE LTD | Isetan Voucher | 1 | SS\$200 |
| 42 | KAJIMA OVERSEAS ASIA PTE LTD | Voucher | 1 | SS\$300 |
| 43 | KANEKA SINGAPORE CO PTE LTD | Supplement Set & レスリング銀メダリスト三宅選手サイン入りタオル | 20 Sets | ¥7,000 |
| 44 | KAWASAKI HEAVY INDUSTRIES (SINGAPORE) PTE. LTD. | T-shirt | 1 | SS\$35 |
| 45 | KAWASAKI HEAVY INDUSTRIES (SINGAPORE) PTE. LTD. | Multifunction Pen | 5 | SS\$10 |
| 46 | KDDI SINGAPORE PTE LTD | Takashimaya Voucher | 1 | SS\$200 |
| 47 | KIKKOMAN (S) PTE LTD | Kuriya Dining Voucher | 1 | SS\$500 |
| 48 | KIKKOMAN TRADING ASIA PTE LTE | Takashimaya Voucher | 1 | SS\$200 |
| 49 | KIKKOMAN TRADING ASIA PTE. LTD. | Takashimaya Voucher | 1 | SS\$200 |
| 50 | KIRIN HOLDINGS SINGAPORE PTE. LTD. | Kirin 一番搾り 350ml缶 | 2 cartons | SS\$82 |
| 51 | KWE-KINTETSU WORLD EXPRESS(S)PTE LTD | Taylormade Penta TP3 | 2 dozens | SS\$55 |
| 52 | KYOCERA ASIA PACIFIC PTE. LTD. | Kyocera Utility Knife & Vertical Peeler Set (Red) | 1 | SS\$98 |
| 53 | MANDARIN ORCHARD SINGAPORE | 1 Night Weekend Stay for 2 in a Premier Room with 2 International Breakfasts at Triple Three | 1 | SS\$676 |
| 54 | MANDARIN ORIENTAL SINGAPORE | 1 night weekend stay at Premier Harbour with buffet breakfast for two persons at Melt | 1 | SS\$782++ |
| 55 | MEIDI-YA SINGAPORE CO (PTE) LTD | Meidi-ya Voucher | 1 | SS\$500 |
| 56 | MEIJI SEIKA (S) PTE LTD | Confectionary Gift Box, Amino Collagen | 10 | SS\$60 |
| 57 | MITSUBISHI CORPORATION | Takashimaya Voucher | 1 | SS\$500 |

| | | | | |
|-----|--|---|-----------|----------|
| 58 | MITSUBISHI ELECTRIC ASIA PTE LTD | Mitsubishi Electric Tatami Fan | 6 | S\$109 |
| 59 | MITSUI & CO. (ASIA PACIFIC) PTE.LTD. | Apple iPad mini (Wi-Fi, Black, 16GB) | 1 | S\$484 |
| 60 | MITSUI CHEMICALS GROUP | Meidi-ya Voucher | 1 | S\$300 |
| 61 | MITSUI O.S.K. BULK SHIPPING (ASIA OCEANIA) PTE. LTD | Red wine 2, White wine 1 | 3 | S\$65 |
| 62 | MITSUI-SOKO (SINGAPORE) PTE LTD | Francfranc Chinaware set | 1 set | S\$300 |
| 63 | MIZUHO CORPORATE BANK LTD. | Isetan Voucher | 1 | S\$300 |
| 64 | MIZUHO CORPORATE BANK LTD. | Golf Balls | 2 dozens | S\$51 |
| 65 | MSIG INSURANCE (SINGAPORE) PTE LTD | Golf Balls | 5 dozens | S\$50 |
| 66 | NEC ASIA PACIFIC PTE LTD | VersaPro Notobook PC-VG17HBBJEHSD | 1 | S\$1,760 |
| 67 | NIKKEI ASIA PTE LTD | Takashimaya Voucher | 1 | S\$200 |
| 68 | NIKON SINGAPORE PTE LTD | Nikon COOLPIX P6000 | 1 | S\$699 |
| 69 | NIPPON EXPRESS (SINGAPORE) PTE. LTD | Travel Voucher | 3 | S\$300 |
| 70 | NISSHINBO SINGAPORE PTE. LTD. | Apollocot Non-Iron Handkerchief | 8 | S\$15 |
| 71 | NITTO DENKO (SINGAPORE) PTE LTD | Takashimaya Voucher | 1 | S\$250 |
| 72 | NOMURA DESIGN & ENGINEERING SINGAPORE PTE LTD | Beaujoulais Nouveau by ENOTECA | 1 set | S\$100 |
| 73 | NYK GROUP SOUTH ASIA PTE LTD | Orchid Flowers, Home Delivery to Japan | 2 | S\$100 |
| 74 | OBAYASHI CORPORATION | Voucher | 1 | S\$300 |
| 75 | OKAMURA INTERNATIONAL SINGAPORE PTE LTD | ESCUDO mesh chair | 1 | S\$1,200 |
| 76 | OLYMPUS SINGAPORE PTE. LTD. | Olympus XZ-1 | 1 | S\$500 |
| 77 | OSAKA GAS | Golf Balls | 5 dozens | S\$90 |
| 78 | PANASONIC ASIA PACIFIC PTE LTD | Lumix DMC-TZ30 Panasonic Digital Camera | 1 | S\$499 |
| 79 | PENTA-OCEAN CONSTRUCTION CO LTD | Isetan Voucher | 1 | S\$300 |
| 80 | PETRO-DIAMOND SINGAPORE (PTE) LTD | Golf Balls (Titleist Pro V1X) | 2 dozens | S\$90 |
| 81 | PROMO TEC PTE. LTD. | Kinokuniya Voucher | 1 | S\$200 |
| 82 | RE & S ENTERPRISES PTE LTD | Kuriya Dining Vouchers | 1 | S\$500 |
| 83 | REGENT SINGAPORE, A FOUR SEASONS HOTEL | Sunday Lunch for Two Persons at Basilico | 1 | S\$250 |
| 84 | RINNAI HOLDINGS (PACIFIC) PTE LTD | Happy Call (cooking pan) | 2 | S\$150 |
| 85 | SATO KOGYO CO LTD | iphone 5 | 1 | S\$500 |
| 86 | SEIKO INSTRUMENTS SINGAPORE PTE LTD. | Seiko Dictionary | 1 | S\$870 |
| 87 | SEIKO INSTRUMENTS SINGAPORE PTE LTD. | Seiko Dictionary | 1 | S\$950 |
| 88 | SHARP-ROXY SALES (SINGAPORE) PTE LTD | SHARP Plasmacluster Ion Hair Dryer | 3 | S\$249 |
| 89 | SHIKINO HIGH-TECH SINGAPORE PTE. LTD. | Isetan Voucher | 1 | S\$300 |
| 90 | SHIMADZU (ASIA PACIFIC) PTE LTD | Takashimaya Voucher | 1 | S\$500 |
| 91 | SHIMIZU CORPORATION | Isetan Voucher | 1 | S\$300 |
| 92 | SINGAPORE DAH-CHI PTE LTD | Metro Voucher | 1 | S\$300 |
| 93 | SOMPO JAPAN INSURANCE (SINGAPORE) PTE LTD | Golf Balls | 5 dozens | S\$60 |
| 94 | SONY GROUP OF COMPANIES IN SINGAPORE | DSC-HX20 Cyber-shot digital still camera | 1 | S\$599 |
| 95 | SUMITOMO CORPORATION ASIA PTE LTD | Isetan Voucher | 1 | S\$300 |
| 96 | SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION | Takashimaya Voucher | 1 | S\$200 |
| 97 | TAIHEIYO SINGAPORE PTE. LTD. | Robinsons Voucher | 1 | S\$100 |
| 98 | TAKENAKA CORPORATION | Takashimaya Voucher | 1 | S\$300 |
| 99 | TEIJIN POLYCARBONATE SINGAPORE PTE LTD | Isetan Voucher | 1 | S\$200 |
| 100 | TEIKOKU SOUTH ASIA PTE LTD | Robinsons Voucher | 1 | S\$200 |
| 101 | TEMPSTAFF SINGAPORE PTE LTD | Takashimaya Voucher | 1 | S\$200 |
| 102 | THE BANK OF TOKYO-MITSUBISHI UFJ, LTD (SINGAPORE BRANCH) | Srixon Soft Feel Golf Balls | 20 dozens | S\$40 |
| 103 | THE TOA REINSURANCE CO.LTD (SINGAPORE BRANCH) | Golf Balls | 2 dozens | S\$25 |
| 104 | TOA CORPORATION | Metro Voucher | 1 | S\$300 |
| 105 | TOH-SHI PRINTING SINGAPORE | The special calendar of Hanshin-Tigers 2013 | 5 | S\$19 |
| 106 | TOKIO MARINE INSURANCE SINGAPORE | PARKER Pens & Golf Ball 1dozen | 15 | S\$50 |
| 107 | TOPPAN MANAGEMENT SYSTEMS (S) PTE LTD | Fuji Xerox 3 in 1 Laser Printer DocuPrint M205b | 1 | S\$220 |
| 108 | TOSHIBA ASIA PACIFIC PTE LTD | Hot Pan (w50hgn-6dis) and Rice Cooker 1.8l (rc-18nmf) | 1 set | S\$200 |
| 109 | TOYOTA TSUSHO ASIA PACIFIC PTE. LTD. | Bearuty Roller "Refa" (I-style/O-style: one each) | 2 | S\$280 |
| 110 | TREND MICRO INC. | Golf Bag Case | 1 | S\$100 |
| 111 | TREND MICRO INC. | Virus Buster Cloud (Japanese) | 20 | S\$70 |
| 112 | TSUBAKIMOTO SINGAPORE PTE.LTD. | Takashimaya Voucher | 1 | S\$300 |
| 113 | ULVAC SINGAPORE PTE LTD | Isetan Voucher | 1 | S\$300 |
| 114 | VIVID CREATIONS PTE LTD | 立川志の春落語 in Singapore 招待チケット | 2 | S\$40 |
| 115 | WINN PTE. LTD. | Crystal Nail file with Swarovski stones | 25 | S\$15 |
| 116 | YAC SYSTEMS SINGAPORE | Isetan Voucher | 1 | S\$200 |
| 117 | YAKULT (SINGAPORE) | Takashimaya Voucher | 1 | S\$300 |
| 118 | YGP PTE, LTD. | Takashimaya Voucher | 1 | S\$200 |
| 119 | YUSEN TRAVEL (S) PTE.LTD. | DIM SUM Voucher | 2 | S\$95 |

《SICCの動物たちは今も元気になっていますか?》

今もそうだと想像しますが、私が駐在していた頃は、シンガポールの日系ビジネスマンにとって、ゴルフはプライベートでもビジネスでも必須のものです。何せ日が明けて暮れるまで長いですから、午前か午後の半日でラウンドを終え、ゴルフ場のテラスかレストランで食事を済ますと、日本料理屋やカラオケバーで接待するより、よほど安上がりでした。

欧米や日本のゴルフ場で絶対に遭遇することのないのがシンガポールの動物たちです。

SICC(Singapore Island Country Club)での話ですが、ある時(と言ってもしょっちゅうですが)大スライスしてあわててラフに駆け寄ったら、目の前で突然「ゴソゴソ」と何かが動いたと思うと、瞬く間に木に駆け上っていった物体がありました。イグアナです。優に1mを超えてたと思います。驚いたの何のって、何せ初めて間近に見るイグアナでしたから。またある時はオオトカゲにも遭遇しました。長い尻尾とつやつやした皮膚でイグアナとは区別がつかしました。

動物ではありませんが赤アリには参りました。左に思いっきり引っ掛けて、木の下でどうやって出そうかとあれこれ思案していたところ、突然足首あたりに激痛が走りました。思わず飛び上がってあわてて手で払ってみると、たくさんの赤アリが靴下の上から噛みついていないですか。日本のアリのような可愛さなんて微塵もありません。何せ靴下に血が滲むほどですから。

傑作は猿です。ティーアップしてドライバーを打とうと構えたら、置いたティーの1m先に小猿がちょこっと座っていて、私のティーショットを小馬鹿にしたような顔をしてじっと見ているのです。さすがに猿にまで馬鹿にされたくありません。そこで「しっしっ」とクラブで追い払おうとしたら突然母猿が現れ、鋭い歯をむき出しにして迫ってくるのです。私は思わず後ずさりして「ごめんごめん」と二匹の猿に謝ったものでした。

何と言っても怖いのは蛇です。チャンギの日本人小学校の教室に鎌首を持ち上げたコブラが現れたお国柄ですから、ゴルフ場に蛇がうようよしていてもおかしくはありません。よく木の枝に蛇が横たわっていたりぶら下がってます。毒をもっているかは咬まれてみないと分かりませんが(その場合は下手をすると死にます)、とりわけグリーンズネークと呼ばれる小さいながら猛毒を持った蛇が危険なようです。私は幸いにも一度同伴者の指摘で遠目でそれらしき蛇を見ただけで済みました。

日本のゴルフ場ではお目にかかれないうようなシンガポールのゴルフ場に生息する動物たちを今は懐かしく思い出していますが、現在シンガポールに駐在している方々は、或いは既に経験済みかもしれませんが、くれぐれもボールがラフに行った時はお気を付け下さい。

【文 渡邊 彰1999-2000 東京三菱銀行(当時)シンガポール支店】



◆はい、こちらは「日本シンガポール協会」です!

「日本シンガポール協会」は1971年の設立以来、「シンガポール日本商工会議所(JCCI)」とも密接に連携し、日本とシンガポールとの経済協力、文化交流を深めるための活動をボランティア・ベースで行っています。シンガポールとの関係、交流を深めるため、ご帰国されましたら、あるいは今から協会の活動にご参加されませんか。ご入会を心からお待ちしています。連絡先は下記のとおりです。



一般社団法人 日本シンガポール協会
〒107-0052 東京都港区赤坂4-5-6 栄屋ビル502
電話: 03-6230-2373 FAX: 03-6230-2375
E-mail: singaaso@singaaso.or.jp
HP: <http://www.singaaso.or.jp>
*2013年1月下旬に、上記事務局は移転予定です。
移転先は、ホームページにてご確認ください。

月報

Jan, 2013

編集後記

12月2日午前5時、早朝のクリスマスイルミネーションに照らされてオーチャードロードに集結した読者の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

7回目を迎えたシンガポールマラソンの話です。私自身は、10キロ・ハーフを含めて4回目の参加となりますが、例年と比較すると日本人ランナーが目立ちアジアでの大会も日本人ランナーの注目するところとなっているような気がします。自分なりにトレーニングを重ねて最初は団子になってスタートしたレースも、30キロを過ぎたあたりで体力の限界ラインに近づき一気にタイム差が生じてきます。癖のあるフォームで走っていると、身体のあちこちに痛みが走ったり走ったりとかがって経験したことがないような状況に陥り自分の弱点を知ることになります。限界ラインを経験して自分の弱点を知る。未知の世界を知ることとはそれはそれで興味深いことですが、毎回同じ痛みは感じたくないし少しでも前回より楽に、ということで色々な工夫を重ねながら次のレースに挑むわけです。

マラソンの話題からは少し外れますが、アジアに住んでいると国が伸びている実感があります。

新春座談会では、チャイナプラスワンという切り口でアジアのことを語っていただきました。一言でアジアと言ってもいろいろな国がありますので、まずは、自分（日本）の立ち位置を確認するために比較データをつくってみました。

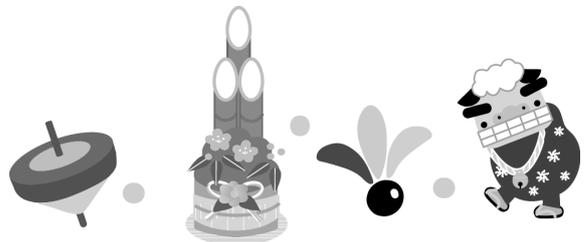
じつと数字を眺めていると、色々なことが見えてきます・・・よね。国をランナーに見立てるならば、以上の数値はさながら基礎体力、足りない分はこれからのトレーニング量と技術力でカバーするといったところでしょうか。

文末になりますが、お忙しい中、ご執筆をいただきました皆様、座談会に参加いただきました皆様にこの場を借りまして厚く御礼申し上げます。なお、編集は日本航空の河原畑、日本旅行シンガポールの中島およびJCCI事務局が担当いたしました。

(編集後記執筆：日本旅行シンガポール 中島)

| 【Country】 | 【Area(km×km)】 | 【Population(pax)】 |
|-----------|---------------|-------------------|
| 中国 | 9,596,951 | 1,348,926,313 |
| インド | 3,287,590 | 1,198,003,000 |
| インドネシア | 1,910,931 | 239,870,937 |
| モンゴル | 1,564,100 | 2,670,966 |
| ミャンマー | 676,578 | 47,963,012 |
| タイ | 513,120 | 69,122,234 |
| 日本 | 377,930 | 126,535,920 |
| ベトナム | 331,212 | 87,848,445 |
| マレーシア | 330,803 | 27,467,837 |
| フィリピン | 300,000 | 93,260,798 |
| ラオス | 236,800 | 6,200,894 |
| カンボジア | 181,035 | 14,138,255 |
| 北朝鮮 | 120,538 | 24,346,229 |
| ネパール | 147,181 | 29,959,364 |
| バングラディシュ | 143,998 | 148,692,131 |
| 韓国 | 99,828 | 48,183,582 |
| スリランカ | 65,610 | 20,238,000 |
| ブータン | 38,394 | 725,940 |
| 台湾 | 36,188 | 23,063,027 |
| 東ティモール | 14,874 | 1,124,355 |
| ブルネイ | 5,765 | 398,920 |
| シンガポール | 710 | 5,086,418 |

資料：wikipedia (2009年現在の統計)



「訂正とお詫び」

日頃より、格別のご愛顧を賜り誠にありがとうございます。

2012年12月月報掲載の「特別寄稿: The Trends of Singapore Adult's Japanese Language Learning」に以下の誤植がありました。深くお詫び申し上げますとともに、訂正させていただきます。

Op.35 執筆者経歴

誤) 1972-1977年 三菱ハイテックシンガポール 社長

↓

正) 1972-1977年 三井ハイテックシンガポール 社長

編集

河原畑 敏幸

JAPAN AIRLINES CO., LTD

中島 茂

NTA TRAVEL (Singapore) Pte Ltd

発行

JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY, SINGAPORE

10 Shenton Way #12-04/05 MAS Building Singapore 079117

Tel: 6221-0541 Fax: 6225-6197

E-mail: info@jcci.org.sg

Web: http://www.jcci.org.sg

印刷

TOH-SHI PRINTING SINGAPORE PTE LTD

4 Ayer Rajah Crescent, Singapore 139960

Tel: 6775-2555 Fax: 6775-1661



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

シンガポール日本商工会議所

